



Sustainability as the only path

花王サステナビリティ データブック 2021

Kao

目次

編集方針	3
花王サステナビリティ ステートメントの成果と課題	4
コーポレート・ガバナンス	9
リスクと危機の管理	19
レスポンシブル・ケア活動	27
品質保証	35
情報セキュリティ	42
デジタル先端技術戦略	51
知的財産	56
租税戦略	61
生物多様性	65
生活者とのコミュニケーション	77
社会貢献活動	87
各事業場、グループ会社の主な社会貢献活動	112
保安防災	117



→ 花王のESG戦略「Kirei Lifestyle Plan」に沿ったESG活動につきましては、以下のページで報告しています
花王サステナビリティ データブック Kirei Lifestyle Plan Progress Report 2021
www.kao.com/jp/corporate/sustainability/pdf/

【報告内容】
トップメッセージ
ESG 部門統括メッセージ
新型コロナウイルス感染症への対応
花王の企業理念
Kirei Lifestyle Plan-花王のESG戦略-
ステークホルダー・エンゲージメント

企業理念の実践

快適な暮らしを自分らしく送るために：
QOLの向上
清潔で美しくすこやかな習慣
ユニバーサル プロダクト デザイン
より安全でより健康な製品

思いやりのある選択を社会のために：
サステナブルなライフスタイルの推進
パーパスドリブンなブランド
暮らしを変える製品イノベーション
責任ある原材料調達

よりすこやかな地球のために：
脱炭素
ごみゼロ
水保全
大気および水質汚染防止

製品ライフサイクルと環境負荷
環境会計

正道を歩む：
実効性のあるコーポレートガバナンス
徹底した透明性
人権の尊重
人財開発
受容性と多様性のある職場
社員の健康増進と安全
責任ある化学物質管理

Kirei Lifestyle Plan 中長期目標 解説
外部評価・外部表彰
独立保証報告書
GRI Standards 対照表
ISO26000対照表
TCFD 対照表

このPDFの使い方

ページ間を移動しやすいよう、各ページの右側にナビゲーションボタンとカテゴリータブ、目次ボタンを設けています。本文には関連するページや外部サイトへのリンクボタンを設けています。

ナビゲーションボタン

	クリックすると1ページ戻ります
	クリックすると1ページ進みます
	クリックすると直前に表示していたページに戻ります

リンクボタン

	クリックすると本データブック内の関連するページに移動します
	クリックすると関連するウェブサイトに移動します

編集方針 102-50,102-51,102-52

花王は、2017年より「花王統合レポート」を発行し、花王の価値を総合的に判断いただくことをめざしています。「花王サステナビリティ データブック Kirei Lifestyle Plan Progress Report 2021」および「花王サステナビリティ データブック 2021」(本データブック)は、「花王統合レポート 2021」を補完するもので、ESG 戦略「Kirei Lifestyle Plan」に沿って社会のサステナビリティ(持続可能性)への貢献に向けたさまざまな取り組みを、詳細なパフォーマンスデータとともに記載しています。

対象範囲

花王グループ(花王株式会社および子会社、関連会社)を基本としています。環境・社会関連のデータについては花王株式会社および子会社を集計範囲としています。

掲載するデータについて、集計範囲が異なる場合は、文中に明記しました。

本データブック中の「花王」は、花王グループを示しています。範囲を特定する必要がある場合は、個別に対象組織名で記載しています。

対象組織



→花王グループ会社一覧
www.kao.com/jp/corporate/about/outline/group-companies.html

対象期間

2020年度(2020年1月1日～2020年12月31日)
定性情報は、一部2021年度の活動内容を含みます。

国際会計基準(IFRS)の適用について

2016年度から国際会計基準(IFRS)を適用しています。データブック内の売上高原単位は、2015年度以前は日本基準、2016年度以降はIFRSにて算出しています。

発行時期

発行日 2021年5月24日
次回発行予定 2022年4月
(前回発行日 2020年4月23日)

参考にしたガイドラインなど

- GRI
「サステナビリティ・レポート・スタンダード2016」
※ 各ページのタイトルに、関連するGRI項目番号を記載しています
- 環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」
- 一般社団法人日本化学工業協会
「化学企業のための環境会計ガイドライン(2003年11月)」
- ISO26000(社会的責任に関する手引)
- SASB スタンダード
- SDGs コンパス
- TCFD 提言

各種情報提供ツールのご紹介



【レポート】

- 花王統合レポート 2021
 - 花王サステナビリティ データブック Kirei Lifestyle Plan Progress Report 2021
 - 花王サステナビリティ データブック2021(本データブック)
 - コーポレート・ガバナンスに関する報告書
 - 有価証券報告書
- ### 【ウェブサイト】
- 花王企業情報
 - 投資家情報
 - サステナビリティ
 - 研究開発

将来見通しに関する注意事項/免責事項

本データブックに記載されている将来に関する記述は、花王が本レポート発行までに入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を花王として約束する趣旨のものではなく、さまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

花王サステナビリティ ステートメントの成果と課題 103-2,103-3

花王は2013年に策定した花王サステナビリティ ステートメントに基づき、3つの重点領域、「エコロジー」「コミュニティ」「コーポレート・カルチャー」の各分野で2020年までの目標を設定し取り組んできました。最終年となる2020年を終え、これまでの取り組みが社会へのインパクトをもたらし、一定の成果を得ることができたと考えています。一方、課題も明らかになりました。得られた経験や学びは、すでに始動しているKirei Lifestyle Planに反映し、より高いレベルの目標に向けて挑戦していきます。

花王サステナビリティ ステートメント

花王は、世界の人々の喜びと満足のある豊かな生活文化を実現するとともに、社会のサステナビリティ(持続可能性)に貢献することを使命としています。

私たちは、現在も、そして未来も人々の暮らしに寄り添い、
企業活動全体を通して誰もが気持ちよく暮らせる社会をめざします。
さらに、さまざまなステークホルダーと共に社会的課題の解決に取り組み、
持続可能な社会の実現に貢献します。

9つの重点取り組みテーマ



具体的な活動

9つの重点取り組みテーマにつき、次のような活動項目を定め、活動を推進しました。

エコロジー 環境負荷ゼロの暮らし	コミュニティ 誰もが気持ちよく暮らせる社会	コーポレート・カルチャー 正道を歩み、信頼される企業
資源循環 ・バイオマスの高度使用 ・プラスチック使用量の削減 ・水使用量の削減 ・リサイクルの推進 気候変動 ・自社活動の低CO₂化 ・ライフサイクルCO₂排出量の削減と削減貢献の最大化 ・さまざまなステークホルダーとの環境に関するエンゲージメントの推進 化学物質 ・製品ライフサイクルを通じた化学物質による人の健康や環境影響の最小化 ・ステークホルダーとの化学物質に関するリスクコミュニケーションの推進	清潔と衛生 ・子どもたちに向けた清潔習慣の啓発 ・飲食店、病院、学校、施設等における衛生管理の啓発と支援 健康と高齢化 ・誰もが使いやすい製品デザインの推進 ・健康増進や病気予防のための情報提供や啓発 ・高齢者の生活を支援する製品やサービスの開発と提供 ジェンダー平等 ・多様な人々にとって、家事を容易にする製品やサービスの提供 ・女性がすべてのライフステージにおいて、自信を高められるよう支援	正道を歩む ・法令・ルールの遵守 ・持続可能で責任ある調達 人権 ・人権デュー・ディリジェンスのレベルアップと対象拡大 ・事業に関連する人権状況改善への支援 ダイバーシティ & インクルージョン ・人材開発と組織開発 ・多様で効率的な働き方 ・社員の多様性 ・社員の健康、労働安全衛生

花王サステナビリティ ステートメントの成果と課題 103-2,103-3

エコロジー

2009年に発表した環境宣言の狙いは二つありました。一つ目は、それまでの工場の活動を中心とした環境負荷低減活動から、製品をとおした活動への拡大です。二つ目は、このような取り組みを生活者やビジネスパートナーと連携して実行することです。

「気候変動」の取り組みの一つである、世界初の1回すすぎ衣料用洗剤「アタックNeo」の発売により、この二つを実現することができました。すすぎ回数を1回に減らし、2.5倍の超濃縮化を実現することで、CO₂排出量は22%、水使用量は22%削減しました。2009～2020年にお届けした節水型衣料用洗剤による効果は累計で、CO₂削減量140万トン（1.1百万人分相当、日本家庭の年間排出量で換算）、節水量9.6億m³（14百万人分相当、世界平均家庭の年間使用量で換算）になります。製品をとおした活動は社会へのインパクトが大きい一方で、その実現には協働が大切であることを学びました。「アタックNeo」が社会に非常に大きなインパクトを与えることになったのは、業界各社が追従して1回すすぎ衣料用洗剤を発売し、一つの市場を形成するまでになり、さらには洗濯機メーカー各社が1回すすぎ機能を追加し、今では標準的な機能になるまで普及したからです。花王のリーダーシップがフォロワーを生み、社会へのインパクトを増幅させ、大きな変化をもたらしました。

また、SAICM推進活動をとおした化学物質の適正管理については、安全性要約書の公開件数に関する二つの2020年

目標を達成することができました。専門的な知見、社会との連携が重要なテーマであり、常に第三者の評価を中心に据えることで、的確な成果を得ることができました。成果を社会に還元することで、社会に貢献し、社外から高い評価をいただきました。このような社会へのインパクトを、今後の取り組みに活かしていきます。

一方、2020年目標はライフサイクルCO₂排出量を35%削減する目標（原単位）は18%削減、製品使用時の水使用量を30%削減する目標（原単位）は26%削減となり、達成できませんでした。原因は、「アタックNeo」のようにCO₂削減や節水効果がある製品の幅広い展開と、生活者への製品の環境価値の伝達が不十分だったことです。

そこで、すでに始動しているKirei Lifestyle Planでは、SBTiの認定を受けた高いレベルの目標を再設定し、これまでの経験や学びを踏まえ、「脱炭素」に向け挑戦しています。

コミュニティ

「コミュニティ」では、コミュニティの生活者が豊かな暮らしをもたらすことをめざして取り組み、社会にいくつかのリターンを生み出してきました。

たとえば、「健康と高齢化」の活動の一つである「ユニバーサルデザイン」をとおした取り組みでは、上述のエコロジーと同様、花王のリーダーシップが多くの賛同を生み、社会へのインパクトを増幅させ、大きな変化をもたらしました。シャンプーとリンスを区別できるようにした容器表面の「きざみ」（触覚識別表示）は1991年に花王が発案、権利化したものですが、その便益をさらに広く社会に浸透させ、生活者の暮らしを豊かにすることをめざすことにしました。そこで日本の業界団体に働きかけて賛同を得て、日本の規格化を経ることで、日本主導で国際規格化が実現しました（ISO 11156: 2011）。現在では多くの企業が識別用きざみを採用し、社会に浸透し、目の不自由な方だけでなく多くの生活者の豊かな暮らしに貢献できました。また、2011年には「花王ユニバーサルデザイン指針」を策定し、「多様性への配慮」、「感動の共有」、「人と社会の関係性」の観点からユニバーサルデザインを捉え直し、一層の強化を図ってきました。「感動の共有」の一例として、シニアの気持ちに寄り添ったシニア用パンツタイプおむつの展開があります。薄く、股上が浅い製品を拡充し、カラーバリエーションを拡大したことで、多くのシニアの方から感動と喜びの声をいただきました。

花王サステナビリティ ステートメントの成果と課題 103-2,103-3

また、コミュニティの生活者の「清潔と衛生」を確保するため、製品の提供や教育・啓発プログラムにも力を入れてきました。たとえば、2009年から出張授業「手洗い講座」を、コミュニティと連携しながら実施し、衛生習慣の定着化に貢献してきました。コミュニティと密着し連携することで、社会全体に実効性のあるインパクトを提供できることを学びました。2020年に発生した新型コロナウイルス感染症により、手洗いの重要性が世界中で再認識されましたが、これまでの「手洗い講座」による啓発・教育は、2020年に新たに実施した手指衛生の取り組みと併せ、感染症の抑制に貢献していると考えています。

一方、一部では目標を達成できませんでした。たとえば、2020年に清潔・衛生習慣に関する啓発人数を1,200万人にするという目標に対し、実績は374万人となりました。社員が学校現場に赴いて講座を実施する形態を基本としたことが理由の一つとして挙げられます。多様な形態による啓発、教育活動の展開や、事業との連動強化が課題です。

このような課題や学びを活かして、「コミュニティ」はKirei Lifestyle Planの「QOLの向上」「清潔で美しくすこやかな習慣」「ユニバーサル・プロダクト・デザイン」「サステナブルなライフスタイルの推進」に継承されており、より戦略的に、社会へのインパクトの増幅をめざしていきます。

コーポレート・カルチャー

「コーポレート・カルチャー」では、正道を歩み、信頼される企業であり続けることを目標とし、社会および事業へのリターンをもたらしてきました。

その一環として進めてきた「正道を歩む」の活動の一つである「持続可能で責任ある調達」では、パーム油の調達において、トレーサビリティと透明性の確立により、持続可能な調達をめざしてきました。また、サプライチェーンの人権配慮についても、2015年に制定した「花王人権宣言」に基づき、人権デューディリジェンス(リスクアセスメント)を花王工場だけでなく、サプライヤーにも実施してきました。社会全体の人権尊重意識の向上に貢献し、事業リスクの低減をとおして事業へのリターンにもつながったと考えています。課題は、これらの取り組みの拡大に加え、小規模パーム農園の自立とトレーサビリティの確立です。Kirei Lifestyle Planではこれらの課題を踏まえた、新たな取り組みも強化していきます。

また、「ダイバーシティ & インクルージョン」では、多様な社員一人ひとりを尊重し、全員の能力と熱意を最大限に発揮できる風土づくりや仕組みの整備を進めてきました。その結果、ブルームバーグ社「2019年 男女平等指数」、経済産業省「なでしこ銘柄」、日経 woman「女性が活躍する会社 BEST100」総合ランキング1位、内閣府「女性が輝く先進企業表彰 内閣総理大臣表彰」など、高く評価されました。今

後、このテーマをKirei Lifestyle Planの「受容性と多様性のある職場」に継承し、より高い目標を設定し、レベルアップをめざします。

このようにコーポレート・カルチャーで対象としていた取り組みは、Kirei Lifestyle Planの「正道を歩む」を中心に引き継ぎ、新たに「徹底した透明性」を追加し、強化していきます。企業の透明性は、今後さらに重要になると考えており、重点的に取り組んでいきます。今後予想される社会問題の複雑化、深刻化に対応できる、高度な取り組みを創出していくためには、社員一人ひとり、組織、企業風土など、基盤強化がますます重要になると考えています。Kirei Lifestyle Planの「正道を歩む」により、その基盤強化を進めていきます。



→現在のESG戦略

「Kirei Lifestyle Plan」について詳しくは

www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2021-all.pdf#page=11

花王サステナビリティ ステートメントの成果と課題 103-2,103-3

エコロジー

マテリアリティ	めざす姿	項目	実績				目標	実績	SDGs※6
			2016	2017	2018	2019	2020		
環境	事業活動による環境負荷を最小化し、地球1個分の暮らしの実現に貢献								
	CO ₂ 排出量の削減率※1								
	(スコープ1・2)	▲30%	▲30%	▲33%	▲37%	▲35%	▲36%	7 12 13 17	
	(全ライフサイクルベース)	▲14%	▲14%	▲17%	▲18%	—	▲11%		
	(日本、全ライフサイクルベース)	▲16%	▲15%	▲18%	▲20%	▲35%	▲18%		
	水使用量の削減率※1								
	(花王グループ工場、オフィス全拠点)	▲42%	▲43%	▲42%	▲42%	▲40%	▲39%	6 12 15 17	
	(全ライフサイクルベース)	▲17%	▲19%	▲21%	▲23%	—	▲15%		
	(日本における消費者向け製品、製品使用時)	▲22%	▲24%	▲24%	▲29%	▲30%	▲26%		
	廃棄物等発生量の削減率※1								
	(花王グループ工場、オフィス全拠点)	▲25%	▲25%	▲26%	▲27%	▲33%	▲26%	12 14 15 17	
	“いっしょにECO”マーク表示製品売上比率※2								
		29%	29%	29%	27%	—	28%	6 9 12 13	
	持続可能なパーム油の調達活動※3								
		PKO※3ミルまで追跡完了	PO※3ミルまで追跡97%完了	PO※3ミルまで追跡98%完了	PO※3ミルまで追跡完了	農園まで追跡	PO※3ミルおよびサプライヤー自社農園までの追跡完了	8 10 12 15 17	
持続可能な紙・パルプの調達比率※4									
	99%	100%	100%	100%	100%	100%			
社会への環境コミュニケーションにより環境活動を推進									
環境コミュニケーション累積人数※5									
	69万人	91万人	123万人	142万人	100万人	157万人	12		
SAICM推進活動を通して化学物質の適正な管理を推進し、持続可能な社会に貢献									
花王優先評価物質の安全性要約書の公開件数									
	3件 (累計10件)	3件 (累計13件)	3件 (累計16件)	3件 (累計19件)	累計20件	3件 (累計22件)	3 6 12 14 17		
ケミカル製品のGPS安全性要約書の公開件数									
	18件 (累計107件)	18件 (累計125件)	16件 (累計141件)	18件 (累計159件)	累計150件	18件 (累計177件)			

※1 原単位(売上高)、2005年基準

※2 日本における消費者向け製品、“いっしょにeco” マーク表示基準を満たした製品の売上比率
“いっしょにeco” マーク:

www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/eco-friendly-products-policy.pdf

※3 花王グループで使用するパーム油を農園まで追跡可能とする活動の進捗、PKO:パーム核油、PO:パーム油

※4 花王製品で使用する再生紙または持続可能性に配慮した紙・パルプ、包装材料

※5 出張授業、工場見学、環境イベントなどを通じた啓発者数、2014年からの累積人数

※6 SDGsの17目標中、花王グループの取り組みが寄与する目標の番号

Kirei Lifestyle Plan の重点取り組みテーマに対応するSDGsの見直しに伴い、本表において相当するテーマのSDGsも修正した

花王サステナビリティ ステートメントの成果と課題 103-2,103-3

コミュニティ

マテリアリティ	めざす姿	項目	実績				目標	実績	SDGs
			2016	2017	2018	2019	2020		
健康	肥満・生活習慣病を予防・改善し、健康的な社会の実現に貢献								
	健康啓発人数※7	232万人	288万人	10万人	9万人	—	0.8万人	3	
衛生	感染症などを予防し、衛生的な社会の実現に貢献								
	清潔・衛生習慣に関する啓発人数※8	767万人	842万人	736万人	654万人	1,200万人	374万人	3612	
高齢化	高齢者の生活を支援し、心身共に健やかに年を重ねられる社会の実現に貢献								
	ユニバーサルデザイン視点での改良品の累積数※9	3,585	4,666	5,658	6,574	—	7,687	101217	
	ユニバーサルデザイン視点での改良実施率※9	71%	63%	56%	44%	—	53%		
コミュニティとの パートナーシップ	社会的活動を通じて地域の人々のより良い暮らしに貢献								
	社員に対するボランティア活動や情報の提供件数	67件	50件	33件	90件	80件	64件	17	
	社外向け情報発信を通じた啓発件数	59件	60件	50件	92件	80件	62件		

※7 ウォーキング・内臓脂肪測定・歯磨き啓発イベント参加者数、QUPiO利用者数。2018年4月にQUPiO事業を売却したため2018年以降はQUPiO利用者数は対象外
QUPiO:100万人分に及ぶ経年の健診データの集積と、東京大学との共同研究で得られた知見をもとに、健康増進・生活習慣病予防をサポートするためのプログラム

※8 日本およびアジアにおける、おむつ、手洗い、洗髪、清掃、洗濯、初経に関する啓発(啓発サンプリングや教育セットの配布含む)の対象者数。啓発活動の追加により2015年にさかのぼって再集計した

※9 ユニバーサルデザイン視点での改良品とは、接しやすさ(Accessibility)、安全(Safety)、使いやすさ(Usability)などの視点から改良した製品を表す。改良実施率は、新製品・改良品アイテム全数(品)に占めるユニバーサルデザイン視点での改良品数(品)比率。2016年は日本および米州、2017年からは日本、米州、欧州(サロン、モルトンブラウン社を除く)が集計範囲

コーポレート・カルチャー

マテリアリティ	めざす姿	項目	実績				目標	実績	SDGs
			2016	2017	2018	2019	2020		
健全な事業活動	花王グループ全体への「正道を歩む」精神の浸透・定着								
	BCGテスト実施率	97.5%	97.1%	—※10	100%※11	100%	82.6%	816	
	重大なコンプライアンス違反件数※12	0件	0件	0件	0件	0件	0件		
ダイバーシティ＆インクルージョン推進	社員の多様性尊重による、社員が生み出す価値の最大化								
	女性管理職比率	25.4%※13	25.1%	27.3%	29.4%	30%※14	28.8%	5810	
	女性管理職比率(日本)	13.1%※13	14.6%	18.4%	21.2%	20%※14	19.2%		
	ダイバーシティ・マネジメント力の強化:マネジャー研修の累積受講率(花王(株)ならびに一部の関係会社)	8.2%	55.7%	94.0%	189%	200%※15	195%		
社員の健康づくりと安全な職場づくり	社員全員の健康意識(ヘルスリテラシー)、安全意識の向上								
	健康増進プログラム参加のべ人数	31,885人	36,259人	40,768人	36,889人	35,900人	31,740人	38	
	休業度数率※16	0.67	0.55	0.77	0.78	0.10以下	0.53		

※10 BCG活動の見直しのため、2018年は未実施
※11 2019年から日本国内・海外にて隔年で実施。2019年は日本国内でのみ実施
※12 経営に重大な影響を与え、企業価値を大きく毀損するコンプライアンス違反案件をいう
※13 グループ一体運営の推進に伴い、2016年にマネジメントの定義を見直し

※14 特に2020年目標として設定しているものではないが、次のマイルストーンとして速やかに達成したい目標
※15 2016年からのマネジャー研修の累積受講率
※16 100万のべ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数(休業1日以上および体の一部または機能を失ったもの)

花王は、変化に素早く対応でき、効率的で、健全かつ公正で透明性の高い経営を実現し、企業価値の継続的な増大を実現するために、経営体制および内部統制システムを整備・運用し、必要な施策を適時に実施するとともに説明責任を果たしていきます。

基本的な考え方

花王は2030年までに達成したい姿として、グローバルで存在価値ある企業「Kao」を掲げています。持続的社会に欠かせない企業になるべく、ESG(環境、社会、ガバナンス)経営に大きく舵を切り、花王を取り巻く事業環境の変化とステークホルダーの価値観の変化をとらえながら、高収益グローバル企業となることと同時に、社会貢献のレベルを引き上げていくことを目標として活動しています。そして、これらの企業活動・事業活動に欠かせない社会からの信頼獲得に資するべく、コーポレート・ガバナンスを体制と運用の両面で絶えず強化しています。花王は、コーポレート・ガバナンスを、経営上の最も重要な課題の一つと位置づけ、変化に素早く対応でき、効率的で、健全かつ公正で透明性の高い経営を実現し、企業価値の継続的な増大を実現するために、経営体制および内部統制システムを整備・運用し、必要な施策を適時に実施するとともに説明責任を果たしていくことを取り組みの基本としています。また、ステークホルダーの声を聞く活動に積極的に取り組み、これらや社会動向などを踏まえて随時コーポレート・ガバナンスの在り方の検証を行ない、適宜必要な施策・改善を実施しています。

花王のコーポレート・ガバナンスの特徴

● 正道を歩む	企業理念である「花王ウェイ」を経営の根幹に据え、その基本となる価値観の1つである「正道を歩む」を意識したガバナンスを実践しています。社員一人ひとりが互いに敬意と公正さを持って接し、誠実、勤勉を心がけ、法と倫理に則って行動することで、全てのステークホルダーの支持と信頼に応え、健全で実直な事業活動を推進していきます。
● 絶えざる革新	事業環境や社会の要請などの変化に対応するため、常に最適な体制を追い求めています。2020年度は監査役も選任審査委員会の対象に加えるほか、新たに監査役報酬諮問委員会を設置するなど、より高いレベルでのガバナンスに向けた体制と運用の見直しを行ない、企業価値の向上に努めています。
● ESGビジョン	花王は持続的社会に欠かせない企業となるためにESGビジョンを掲げており、実効性のあるコーポレートガバナンス体制の構築を、そのビジョンの実現を強力に推進する前提となるドライバーであると位置づけています。
● 社外役員の活用	取締役会が監督機能を適切に発揮できるよう、取締役会13名のうち7名を独立社外役員としており、社外取締役が取締役会議長を務めるなど、高い客観性を維持する体制を整えています。社外役員は独立性に加えて専門性および高い見識を有していることを重視して指名しており、多様な視点から経営戦略などの策定や具体的執行の監督・監査を行ない、適切な意思決定に繋がっています。
● 内部統制の強化	花王は、業務の有効性や効率性を向上させ、財務報告の信頼性を確保し、事業活動における法令を遵守し、資産の保全を達成するため、内部統制委員会を中心としてコンプライアンスやリスク・危機管理などに関するグループ横断的な議論を行なう、グループ全体の内部統制を強化しています。

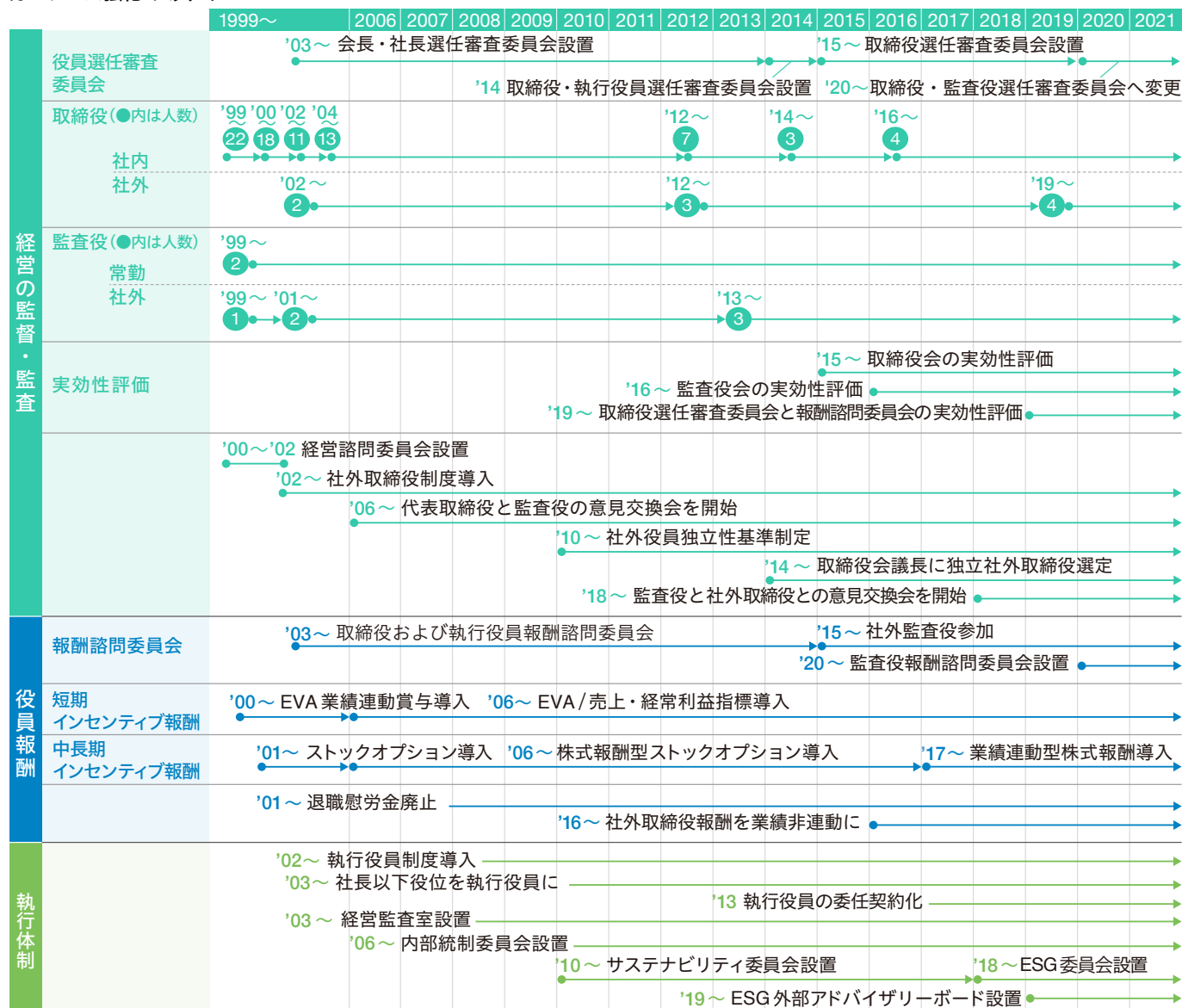


→コーポレート・ガバナンス報告書

www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/about/pdf/governance_001.pdf

コーポレート・ガバナンス

ガバナンス強化のあゆみ

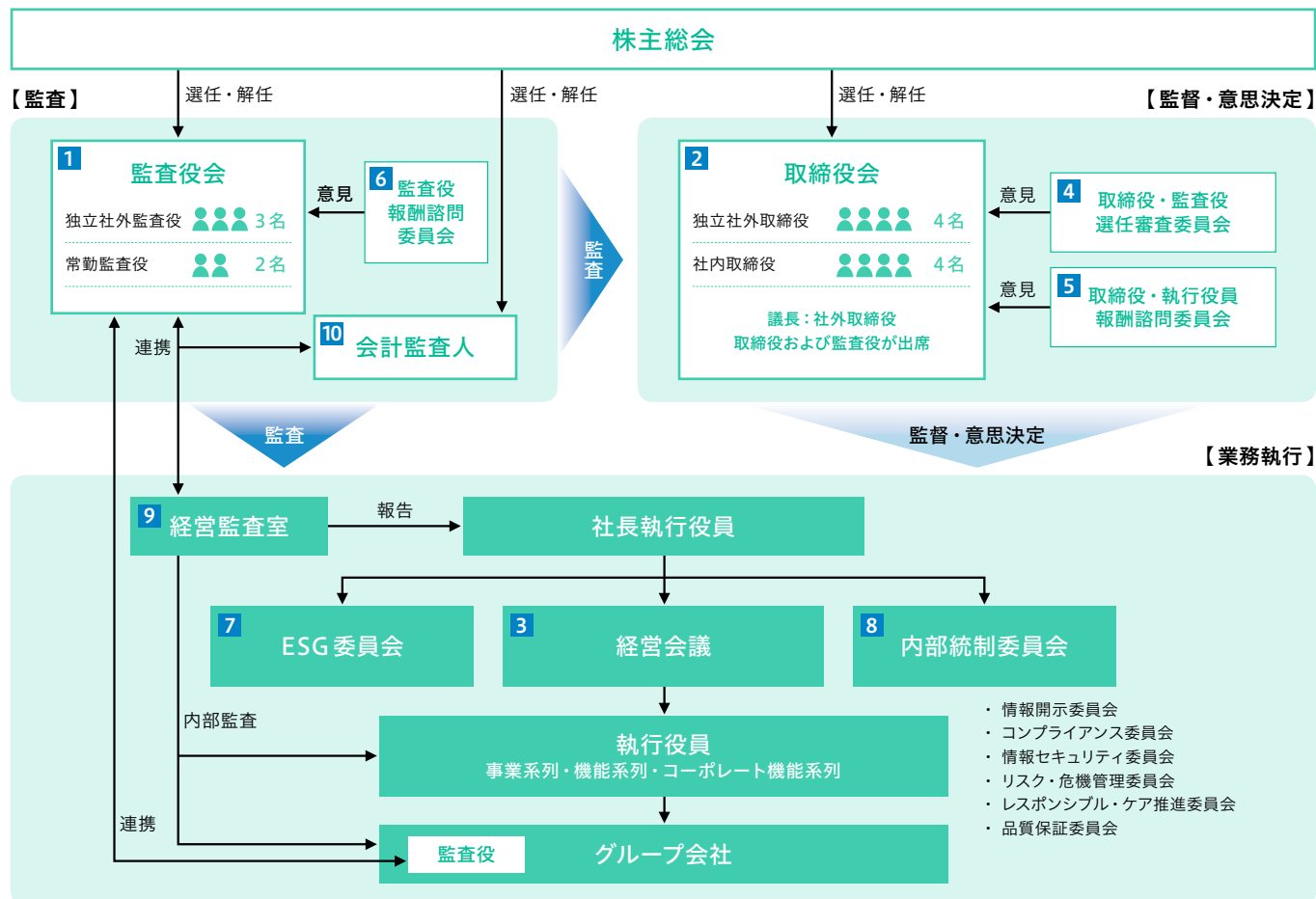


※ 年号は下2桁表記となっています。例:2003→'03

コーポレート・ガバナンス 102-18,102-22,102-23,102-24,102-26

コーポレート・ガバナンス体制

※ 2021年6月現在



1 監査役会

社内事情に通じた常勤監査役と、会計財務や法律の高い専門性・見識を有する社外監査役で構成し、独立した客観的な視点で深い議論を行なっています。取締役会や経営会議などの重要会議への出席、会計監査人、経営監査室および関係会社監査役との連携や、社内各部門監査・関係会社調査を通じて、実効性のある監査を実現しています。

2 取締役会

経営戦略などの大きな経営の方向性について、リスク評価を含めて多面的に審議し、多様な視点から経営戦略が適切に執行されているかを監督しています。さらに、内部統制システムやリスク管理体制を整備することで、リスクを峻別して攻めの経営ができる環境整備を行なっています。

3 経営会議

常務執行役員以上を主なメンバーとし、取締役会で審議・決定された中長期の方向性・戦略の執行に関する意思決定を行なっています。経営会議に幅広い権限を委ねることにより、意思決定および執行の迅速化を図っています。

4 取締役・監査役選任審査委員会

全社外取締役と全社外監査役のみで構成され、会長、社長執行役員および代表取締役を含む取締役候補者および監査役候補者の適正性の審査を行ない、取締役会に意見しています。さらに、取締役会および監査役会の規模、構成や多様性、必要な資質や能力も議論し、審査結果を取締役に報告しています。

5 取締役・執行役員報酬諮問委員会

全代表取締役、取締役会長、全社外取締役および全社外監査役で構成され、取締役および執行役員の報酬制度や報酬水準の審査・議論を行ない、取締役会に意見しています。

6 監査役報酬諮問委員会

全社外監査役、社長執行役員および社外取締役1名で構成され、株主総会の決議により定められた監査役の報酬などの額の妥当性およびその決定プロセスの透明性を外部の視点から審査し、監査役会に意見しています。

7 ESG委員会

すべてのステークホルダーの支持と信頼を獲得し、グローバルで存在価値ある企業として花王と社会の持続的発展に寄与することをめざし、ESG戦略に関する活動の方向性を議論・決定しています。戦略の具体化は、ESG推進会議により推進され、各部門の活動に展開されていきます。さらに、全社のESG活動推進状況、ESG外部アドバイザーボードの提言を踏まえ、活動の方向性を確認し、適宜見直しています。

8 内部統制委員会

財務報告の正確性を確保し、内部統制に関する機能を横断的に統合することによる内部統制の整備・運用の質の向上を狙いとして、花王の内部統制活動の統括・推進を行なっています。

9 経営監査室

経営活動全般について、法令遵守、財務報告の適正性、業務の有効性・効率性の視点から内部監査を行ない、定期的に経営会議および取締役会にて報告しています。

10 会計監査人

会社法に基づく会計監査人および金融商品取引法に基づく会計監査に有限責任監査法人トーマツを起用しています。

コーポレート・ガバナンス 102-18,102-22,102-25,102-26

取締役会、監査役会、委員会出席メンバー

◎は議長、○は出席メンバーを示しています。

	氏名	在任期間 (2021年3月株主 総会終結時)	取締役会	監査役会	取締役・ 監査役 選任審査 委員会	取締役・ 執行役員 報酬諮問 委員会	監査役 報酬諮問 委員会	出席状況 (2020年度)	
								取締役会	監査役会
取締役	澤田 道隆	12年9か月	○			○		14/14	—
	長谷部 佳宏	5年	○			○	○	14/14	—
	竹内 俊昭	7年	○			○		14/14	—
	松田 知春	2年	○			○		14/14	—
	門永 宗之助	◎ 社外・独立 8年9か月	◎		◎	◎	○	14/14	—
	篠辺 修	◎ 社外・独立 3年	○		○	○		14/14	—
	向井 千秋	◎ 社外・独立 2年	○		○	○		14/14	—
	林 信秀	◎ 社外・独立 2年	○		○	○		14/14	—
監査役	青木 秀子	2年	○	◎				14/14	8/8
	川島 貞直	— ^{※1}	○	○				—	—
	天野 秀樹	◎ 社外・独立 4年	○	○	○	○	◎	14/14	8/8
	岡 伸浩	◎ 社外・独立 3年	○	○	○	○	○	14/14	8/8
	仲澤 孝宏	◎ 社外・独立 1年	○	○	○	○	○	12/12 ^{※2}	6/6 ^{※2}

※1 2021年3月株主総会にて選任および就任

※2 仲澤氏の就任以降開催された取締役会は12回、監査役会は6回となっております。

社外役員の選任理由

社外取締役は、多様な経験、知識および見識を重視し、独立性にも配慮して指名します。社外監査役は、監査に必要な会計財務や法律の専門性と見識、豊富な経験およびプロフェッショナルとしての倫理観並びに法令上の社外性、独立性を重視して指名します。

氏名	選任理由
門永 宗之助	外資系コンサルティング会社における豊富な経験から培った国際企業経営に関する高い見識を有し、2014年3月から取締役会議長を務めており、社内・社外の枠を超えた活発な議論に貢献しているためです。
篠辺 修	世界各国で展開する航空会社で、安全・安心を第一とする整備部門に長く従事するなど、事業環境の変化に対応できるグローバルな企業経営やリスク管理に関する豊富な経験および高い見識を有し、当社グループの経営における重要な事項に関し、発言・有益な提言を行なっているためです。
向井 千秋	宇宙飛行士および医師として、科学分野における高い見識を幅広く有しており、取締役会の審議においては、当社グループの経営における重要な事項に関し経験と見識、また女性の視点を生かし、積極的な発言・提言を行なっているためです。
林 信秀	長年にわたり金融・財務分野において国際的に活躍し、また世界的に金融業界を取り巻く事業環境が変化する中で経営者を務めるなど、変化に対応するグローバルな企業経営における豊富な経験および高い見識を有し、当社グループの経営における重要な事項に関し、有益な発言・提言を行なっているためです。
天野 秀樹	公認会計士としての高い専門性を有し、また、大手監査法人においてグローバルに活躍するとともに、その経営陣としての経験と見識に基づき、2017年3月からは、当社監査役として、当社グループの監査を専門的な視点から実効的に行なっているためです。
岡 伸浩	弁護士として企業法務およびコーポレート・ガバナンスに関する専門的見識と豊富な経験を有し、また、2014年から当社の主要子会社の監査役を務めることにより、当社グループの事業内容に関する見識を有しているためです。
仲澤 孝宏	公認会計士としての高い専門性を有し、また、大手監査法人において大手企業の監査業務に携わるとともに、米国会計基準および国際会計基準(IFRS)の導入に関するアドバイザリー業務などに従事し、グローバル企業のガバナンスや内部統制に関する高い見識を有しているためです。

取締役会の実効性を高めるための施策

取締役会の役割・責務である業務執行の監督・意思決定を適切に行なうため、花王では以下の各種施策を実施しています。社外役員に対する適時適切な情報提供や社内外の役員間における自由闊達で建設的な議論および意見交換などを促進し、取締役会の実効性を高めています。

社外役員機能を最大限活用するための各種施策

具体的な施策	実施頻度	内容
● 取締役会前の情報提供	月1回	取締役会における充実した議論に資するために、取締役会の開催前に資料を配布し、議題の提案の背景、目的、その内容などについて理解の促進を図っています。
● 社外取締役が取締役会議長を務めていること	—	社外取締役が取締役会議長を務めることで、執行から独立した中立的な視点を踏まえた意見を引き出しやすい環境となり、より適切な議論が可能となっています。
● 取締役会議長の経営会議への出席	月3回～4回	執行の最高意思決定機関である経営会議への出席により、執行の重要課題やその議論の状況を議長が直接入手する機会を設けています。これを踏まえ、取締役会では、議長がほかの社外役員に議題の背景を共有することで、議論の核心に入りやすい状況につながっています。
● 社外取締役の研究発表会への出席	年1回	研究発表会などへの出席により、研究の方向性や進捗状況など、社内の情報を直接入手する機会を提供しています。社内の活動の理解を深めることで、取締役会での議論の活性化につながっています。
● 社外取締役と監査役との意見交換会	年3回	定期的な会合の場を設定することにより、監査役監査を通じて発見した課題などについての積極的な意見交換や必要に応じた提言が可能となるよう図っています。
● 事業場視察	年1回	経営陣が自ら市場・事業所・工場・小売店に行き、現場の情報を直接入手する機会を設けています。例年は海外事業場の視察も行っておりますが、2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、国内事業所（和歌山）のみの視察を実施しています。



取締役会

取締役会は、多様な経験や見識を持つ社内外の役員によりバランスよく適切に構成されており、経営戦略などの重要事項の意思決定や執行の監督を行なっています。2020年度は、新型コロナウイルス感染症に関する状況報告、事業活動への影響や対策を毎月議論してきました。さらに、中期経営計画「K25」策定のため、自由闊達な意見交換が行なわれました。右記のほか、毎月、執行役員を兼務する取締役から執行報告および担当執行役員から経営会議審議事項の報告を行なっています。

2020年度 取締役会の主な審議事項

第1 四半期	● 取締役会実効性評価 ● 経営監査室監査報告 ● 監査役監査概要報告
第2 四半期	● 中期経営戦略「K20」「K25」 ● 化粧品事業戦略 ● 研究開発の現状と今後 ● コンプライアンス委員会年次報告
第3 四半期	● 中期経営戦略「K25」 ● 経営監査室監査報告 ● 社長交代に伴う審議
第4 四半期	● 中期経営戦略「K25」 ● 研究開発進捗報告 ● 内部統制委員会活動報告 ● 政策保有株式状況報告 ● 新人財活性化制度

取締役会の実効性評価

毎年1回、取締役会において評価を実施し、実効性を高めるための改善につなげています。取締役会の参加者全員が自ら意見を述べ、自由闊達な議論による評価を実施することが有効と考え、自己評価により実効性の評価を行なっております。2020年度の評価でも、予めアンケートを実施し、結果を共有した上で、議論・意見交換を行ないました。

2019年度の評価で指摘された課題への取り組み

- 大きな方向性に関する議論：十分に議論できたが、グローバル戦略、M & A戦略、人財戦略はさらなる議論が必要。
- 人財戦略：一定の議論はあったが、特化した議論は十分にできなかった。「K25」の達成に向けて必要な人財要件の特定、新人財活性化制度「OKR」の活用実態の把握、次世代育成などの議論を深めることが必要。
- 法令遵守を実現するための内部統制：悪い情報の迅速な報告、発生原因の深掘り、拡大調査などの取り組みには改善がみられるが、体制・運用面はさらなる改善が必要。また、課題の重要種別を明確にし、めざすレベルに対して現在の程度、重大事象を未然に防ぐ機能が働いているかの議論も必要。

中期経営計画「K20」および「K25」に関する議論の状況

● 「K20」の達成に向けた議論や監督

「K20」の達成に向けた議論についても新型コロナウイルス感染症対応の監督が中心となったが、コロナ由来か否かを切り分けた議論が行なわれていた。

● 「K25」策定についての議論

十分な時間をかけた活発な意見交換、充実した議論による策定プロセスは高く評価できる。今後、計画の具体性はさらなる議論が必要。

● 「K25」の実現に向けて、今後の議論や監督のあるべき姿

モニタリングできるしくみをつくり、継続的に議論をすべき。実現に必要な大型投資の判断と実効性、大型戦略施策に関する議論、推進を阻む事象の解決策の議論も必要。また、社員の取組状況のモニタリングも必要。

● 「K25」の実現に向けた取締役会の構成

バランスも良く、適正レベルの範囲にあるが、多様性は引き続き議論し改善を図るべき。執行役員についても、外部招聘、若手や女性、海外事業で実績のある人の登用も検討すべき。

取締役会における今後の課題

- 「K25」の実現に向け、具体的な状況が適時に共有され、多様な視点を踏まえた議論が継続されるべき。
- 人財戦略は、継続した議論が必要。あるべき方向性の議論を深め、「K25」で求められる人財要件に沿って人財の確保や育成なども議論すべき。
- 内部統制は、全社的に統制がさらに有効に機能するよう、体制整備と運用が適正かを常に監督すべき。

以上のほか、取締役会の運営状況、審議状況などの評価も行ないました。また、取締役・監査役選任審査委員会、取締役・執行役員報酬諮問委員会の運営についても、社長交代や報酬制度の改定の審議も含め、適切であったとの評価がなされました。

監査に関する取り組み

監査役は、取締役会に出席し、法令・定款の遵守、経営意思決定プロセスや内部統制環境の整備・運用状況などを監査し、必要に応じて意見表明を行なっています。

2020年度は、花王の新型コロナウイルス感染症拡大防止措置に基づき、リモート監査活動を併用して監査品質を維持しています。

常勤監査役は、経営会議、内部統制委員会およびその関連の委員会などの重要会議に出席するほか、工場・研究所などへの往査、事業部門・機能部門に対するヒアリング、国内外の関係会社調査ヒアリングも行ない、これらヒアリングには社外監査役も適宜参加しています。こうした監査活動を通じて得た所見・所感に基づき、監査役全員による花王の代表取締役との意見交換会並びに社外取締役との意見交換会を実施し、必要に応じて提言を行なっています。

2020年度 重点監査項目

監査役会において、基本となる重点監査項目を次のとおり定め、監査役監査を行ないました。

- 取締役の業務執行に関する監査
- 内部統制システムの整備・運用状況の監査
- 危機管理・リスクマネジメント・コンプライアンスリスクの監査
- 財務報告および情報開示についての監査
- 情報保存管理体制の監査

監査役会の実効性評価

監査役会は、毎年1回、監査役・監査役会の活動の実効性について評価を実施しております。2020年度は、2021年2月に開催された監査役会にて、「花王監査役・監査役会の実効性の自己評価」に関する着目視点リストも参照し、2020年度の活動について各監査役が意見を述べ、それに基づき監査役全員で議論し、評価しました。議論の結果は、取締役会へ報告し、次年度の監査計画に組み入れ活動を一層充実させて行きます。主な評価結果は、以下のとおりです。

現況

- 監査役は、取締役会に出席し、経営意思決定プロセスや内部統制環境の整備・運用状況などを適法性・妥当性の観点から監査し、必要により意見表明を行なっています。
- 常勤監査役は、経営会議、内部統制委員会および傘下の委員会などの重要会議に出席し、執行状況および内部統制の整備・運用が適切に実行されているかを確認しています。また、工場・研究所・事業部門・機能部門および国内外の子会社への監査を実施し、社外監査役も適宜出席しています。当期は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止措置に基づき、リモート監査を併用して監査品質を維持しています。
- これらの監査活動を通じて得た所見・所感に基づき、当社および当社の重要な子会社の代表取締役との意見交換会並びに社外取締役との意見交換会を実施し、必要に応じて提言

を行なっています。

- 監査役会では、それぞれの経験や専門性に基づいて、客観的な視点も取り入れながら忌憚ない意見交換がなされており、総じて有効に機能しています。
- 取締役会においても、監査役会の活動を逐次発信する機会を持っています。
- 国内グループ会社監査役との意見交換会では、社外監査役からの講演の機会を持ち、グループ各社の監査役業務・内部統制に関する意見の交換を実施しています。

活動実績

- 重要会議への出席：69回
- 取締役との意見交換会：6回
- 工場・研究所・事業部門・機能部門および国内外の子会社

監査：105回（第一ディフェンス・ライン：90回、第二ディフェンス・ライン：15回）

- 三様監査関連：44回

課題

花王中期経営計画「K25」の開始にあたり、事業環境の変化や事業拡大に適切かつ柔軟に対応するために、以下の提言や検討を行ないます。

- グローバルに内部統制の整備・運用の両面から実効性と効率性が図れるよう、提言を行なっていきます。
- 子会社監査役がより有効に機能するためのしくみを強化していきます。
- 監査の進め方を継続的に検討していきます。

内部監査の状況

経営監査室は、社長執行役員の直轄組織として、独立的・客観的立場で、花王およびグループ会社の経営活動全般について、法令遵守、財務報告の適正性、業務の有効性・効率性の視点から内部監査を行ない、内部統制の有効性について合理的な保証を与えるとともに、改善提案を通して内部統制の充実を図っています。また、経営会議および取締役会に定期的に内部監査活動結果を報告しています。

子会社管理に関しては、子会社が花王に対し事前承認を求める、又は報告すべき事項をグループ会社管理規程（ポリシーマニュアル）に定めています。当該規程に基づき、経営監査室による内部監査での指摘事項と対応策およびその結果について、子会社の役員会で共有することになっております。

経営監査室は、定期的および必要の都度、監査役と内部監査活動状況に関して情報交換・意見交換を行なっています。また、財務報告に係る内部統制の整備・評価や内部監査の活動状況について、会計監査人と適宜情報共有を行ない、相互連携に努めております。

役員報酬制度

役員報酬は、(1)競争優位の構築と向上のため、多様で優秀な人財を獲得し、保持すること、(2)持続的な企業価値向上への重点的な取り組みを促進すること、(3)株主との利害の共有を図ることを目的としています。花王は、2017年度より社外取締役を除く取締役および執行役員を対象に、花王の中長期的な業績の向上と企業価値の向上への貢献意識を高めることを目的として、会社業績との連動性が高く、かつ透明性・客観性の高い役員報酬制度として業績連動型の株式報酬制度を導入しました。

株式報酬制度については、2021年度よりスタートした中期経営計画「K25」のめざす“ESG活動と投資を積極的に行ない「豊かな持続的社会」への貢献と会社自体の成長を両

立する”ことを促進するため、2021年度より長期インセンティブ報酬の指標の見直しを行ないました。

また、短期インセンティブ報酬については、CEO、社内取締役、ほかの執行役員ごとで比率は異なりますが、いずれの職位も評価指標をEVAおよび連結売上高・利益としています。EVAは花王が重視する経営指標であり、ESG課題の解決に資する長期戦略の実現を通じた企業価値増大への動機づけとして導入しています。また連結売上高・利益については社員と共通の目標としており、日々の事業活動を通じた利益ある成長の実現への動機づけ、および、社員との一体感醸成をねらいとしています。

役員報酬制度の概要

	基本報酬	短期インセンティブ報酬		長期インセンティブ報酬		
		賞与		株式報酬		
		EVA 連動部分	連結売上高・利益連動部分			
給付方法	役割と役位に応じて金額を決定し、月額固定報酬として支給	単年度の目標に対する達成度に応じて賞与額を決定し支給		中期経営計画の対象となる5事業年度内に花王の株式等を交付 ・「固定部分」：毎年、一定数の株式等を交付 ・「変動部分」：中期経営計画において推進する取り組み ・活動の結果等に応じて、役員退任時に、株式等を交付 構成割合は、変動部分：固定部分＝70％：30％		
クローバック	なし	なし		あり（対象者に重大なコンプライアンス違反等があった場合は不支給あるいは返還）		
業績評価期間	－	1年		5年（2021～2025年）		
評価指標	－	EVA	・連結売上高・利益（売上総利益から販売費および一般管理費を控除した利益）	成長力評価指標	ESG力評価指標	経営力評価指標
評価基準	－	目標達成度	目標達成度前年改善度	事業全体の売上高・利益等の成長度等	外部指標による評価および社内目標（Kirei Lifestyle Plan等）の達成度等	花王社員による経営活動に対する評価等
係数／支給率の決定	－	支給率は、各指標の達成度に応じて0～200％の範囲で決定		変動部分の係数は、各指標の達成度等に応じて0～200％の範囲で決定		
報酬の構成割合	－	支給率が100％のときの役位別賞与額 ・社長執行役員：基本報酬の50％ ・役付執行役員：基本報酬の40％（社長執行役員を除く） ・その他の執行役員：基本報酬の30％		変動係数が100％のときの1事業年度当りの株式報酬額 ・各役位の基本報酬の40～50％程度		
支給対象	・取締役 ・執行役員 ・監査役	・取締役（社外取締役除く） ・執行役員		・取締役（社外取締役除く） ・執行役員		
制度対象期間	－	1年		5年（2021～2025年）		

取締役の報酬構成比率

固定報酬（50％）		変動報酬（50％）	
①基本報酬		②短期インセンティブ報酬（25％）	③長期インセンティブ報酬（25％）

※代表取締役社長執行役員の場合 ※各変動報酬の係数／支給率が100％の場合

2020年度の役員報酬額

区分	員数(名)	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の額(百万円)		
			基本報酬	賞与	業績連動型 株式報酬
取締役 (うち社外取締役)	8(4)	240(75)	268(75)	83(－)	△111(－)
監査役 (うち社外監査役)	6(4)	81(30)	81(30)	－(－)	－(－)
合計 (うち社外役員)	14(8)	321(105)	349(105)	83(－)	△111(－)

(注) 1. 上記の員数には、2020年3月25日開催の第114期定時株主総会終結の時をもって退任した社外監査役1名が含まれています。
2. 業績連動型株式報酬については、当事業年度が中期経営計画「K20」の最終年度となること、最終年度終了後に、最終年度業績連動部分も含めた業績連動型株式報酬が確定します。前事業年度までに開示した累計額に、当事業年度中までに支払った業績連動型株式報酬の固定部分相当額を控除した金額は、当該確定した金額を超過しており、「K20」の業績達成度等に基づく過年度引当金繰入戻入額が216百万円であること、当事業年度の繰入計上額が105百万円となるため、上表では差額を減額表示しています。

2020年度の役員ごとの報酬額

氏名(役員区分)	報酬等の総額 (百万円)	会社区分	報酬等の種類別の額(百万円)		
			基本報酬	賞与	業績連動型 株式報酬
澤田 道隆(取締役)	82	提出会社	82	39	△39

(注) 1. 業績連動型株式報酬については、当事業年度が中期経営計画「K20」の最終年度となること、最終年度終了後に、最終年度業績連動部分も含めた業績連動型株式報酬が確定します。前事業年度までに開示した累計額に、当事業年度中までに支払った業績連動型株式報酬の固定部分相当額を控除した金額は、当該確定した金額を超過しており、「K20」の業績達成度等に基づく過年度引当金繰入戻入額が74百万円であること、当事業年度の繰入計上額が35百万円となるため、上表では差額を減額表示しております。このため、基本報酬と賞与に業績連動型株式報酬を加えた報酬等の総額は82百万円となりますが、業績連動型株式報酬分を除いた報酬等の総額は121百万円となります。
2. 報酬等の総額が1億円以上の者に限定して記載しております。

ESG 委員会

花王の新たな ESG 戦略として 2019 年 4 月に始動した「Kirei Lifestyle Plan」には、創造と革新に挑みよりサステナブル(持続可能)な暮らしを望む人々に応えたいという思いが込められています。ESG 委員会では、こうした花王の ESG 戦略に関する活動の方向性を議論、決定しています。委員長は社長執行役員、委員は専務執行役員、常務執行役員などで構成されています。また、ESG 活動に関する方針や戦略の策定、ESG に関する課題、リスクと機会の把握、ESG 活動状況の確認を行ない、全社において ESG 戦略の推進を行ないます。

2020 年度の ESG 委員会の主な審議・承認事項

- 新型コロナウイルス感染症拡大を踏まえた ESG 戦略の確認
- 中期経営計画「K25」と連動した ESG 戦略への提言
- Kirei Lifestyle Plan 中長期目標の見直し案の審議・承認
- 外部アドバイザリーボードの具申事項の確認
- Kirei Lifestyle Plan 各テーマの進捗に関するレビュー
- ESG 実績評価の在り方

ESG 外部アドバイザリーボード

ESG 外部アドバイザリーボードは社外有識者で構成され、ESG 委員会の諮問に対する答申や提言を行ない、社外の視点を経営に反映させています。ESG 委員会に対し、世界レベルの計画策定・実行ができるような情報の提供・外部との協働や連携の機会の提供を行ない、生活者の倫理的消費の実現に向けた花王の支援方法をアドバイスしています。

2020 年度は、持続可能な開発分野が専門の Jalal Ramelan 氏 (ESG インドネシア会長) と包装容器リサイクルシステムなどが専門の Helmut Schmitz 氏 (Der Grüne Punkt - Duales System Holding GmbH & Co. KG 広報部長) がアドバイザリーボードに新たに加わり、社内での Kirei Lifestyle Plan の実装と生活者の倫理的消費の実現に向けた花王の支援方法について議論を行ないました。

2020 年度のアドバイザリーボードからの提案とアクション

- 社会情勢を踏まえた花王への期待とリスク提案
- Kirei Lifestyle Plan の進捗に関するレビューと評価
- 中期経営計画「K25」と連動した ESG 戦略確認



→ アドバイザリーボードの各委員から花王へのメッセージ
<https://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2021-07.pdf#page=10>

ESG 外部アドバイザリーボードメンバー

メンバー		
	Lisa MacCallum 氏	Inspired Companies 創設者ほか。 ビジネス改革などが専門。
	末吉 里花氏	一般社団法人エシカル協会 代表理事ほか。 エシカル消費などが専門。
	Jalal Ramelan 氏	ESG インドネシア会長。 持続可能な開発分野が専門。
	Helmut Schmitz 氏	Der Grüne Punkt - Duales System Holding GmbH & Co. KG 広報部長。 包装容器リサイクルシステムなどが専門。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、世界中が苦難に立たされる中、花王は企業理念に基づき、各国の医療・衛生用品の喫緊した需要に応えるなど、事業を通じた貢献を行ってきたことが、アドバイザリーボードメンバーから評価されました。今後に向けた提言として、高レベルな ESG 活動を維持しながら、ステークホルダーとの連携を強化し、「Kirei Lifestyle Plan」を実行していくことが期待されています。

事業活動全般にわたり生じ得るさまざまなリスクに対して、リスクの顕在化防止と、リスクが顕在化した場合の被害・損害を最小化するために、事業環境の変化に適切かつ迅速に対応できるよう、リスクと危機の管理体制の強化を進めています。

ESG キーワード

事業の主要リスク

リスク管理体制と活動方針の周知

リスクに対する社員の意識、感度の向上

新型コロナウイルス感染症に関するリスク

社会的課題と花王が提供する価値

認識している社会的課題

海洋プラスチックごみ等の廃棄物の問題、気候変動、水資源の枯渇、原材料調達に関する環境や人権の問題、そして、高齢化社会の進行や衛生等の社会的課題の増大は、生活者の環境や健康等に対する意識を高め、エシカル消費の潮流や、サステナビリティに対する顧客ニーズの高まりをもたらしています。そして、新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、この傾向を一層高めています。

一方、企業におけるコンプライアンス、製品・サービスの安全・安心の確保、情報管理の徹底、人権への配慮、ダイバーシティの尊重、適時適切な情報開示などに対するステークホルダーからの期待・要請も一層の高まりを見せています。

花王が提供する価値

花王は、事業戦略に ESG 視点を融合させた「Kirei Lifestyle Plan」(KLP)の下で、原材料の調達から生産、使用、廃棄に至るあらゆる段階での技術革新によるイノベーションを推進しています。そして、花王社員全員がその目的や内容を正しく理解し、それぞれの役割と責任を果たすためのKLP推進活動を通じて、社会のサステナビリティへ

の貢献をめざしています。

リスクと危機の管理はこの取り組みを支える重要な役割を担っており、経営上重要なリスクに対して優先的に対応策を講じることで、生活者、顧客、取引先等のステークホルダーとの信頼関係を維持し、よりよい製品・サービスを継続的に提供することが可能となります。

「2030年までに達成したい姿」の実現に関わるリスク

花王の事業環境は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行、市場競争の激化や市場構造の変化、原材料市況や為替の変動など不透明な状況が続いています。感染の拡大は、生活者の環境、健康、衛生等に関する意識の変化やそれに伴う購買行動の変化をもたらしています。また、事業がグローバルに拡大し、さまざまな分野で構造的変化が進む中、「エマージングリスク」※を含む、事業を取り巻くあらゆるリスクの変化に迅速かつ適切に対応する必要があります。

花王は、持続的な利益ある成長と事業活動を通じた社会のサステナビリティへの貢献に悪影響を与えるリスクとして特に重要な14の主要リスク(次頁参照)を、リスク・危機管理委員会、経営会議の審議の下で選定し、主管部門が対

策方針を策定し、進捗管理を行なっています。

※ エマージングリスク

事業環境の変化により新たに現れてくるリスクであり、従来リスクとして認識されていなかったもの、あるいは、リスクの程度が著しく高まったものの

リスクと危機の管理 102-12,102-15,102-30,103-1

主要リスクの内容

主要リスク	内容
1. 新型コロナウイルス感染拡大に関するリスク	- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大と生活者の変化にともなう次のリスク ・当社グループ拠点やサプライチェーン上での集団感染(クラスター)発生による、操業の一時中断、製品・サービス提供への支障 ・感染再拡大や長期化による、リモートワークができない業務が原因となる商品開発や発売計画の遅れ ・感染再拡大や長期化による、化粧品事業等の回復の遅れ ・生活者の意識や価値観の変化、消費行動の変化への対応が不十分となるリスク
2. 社会的課題への対応に関するリスク	・社会的課題に関する生活者の意識や顧客ニーズの変化に対して、適切な製品やサービスを提供できないリスク ・社会的課題への取り組みが不十分と見なされるリスク
3. 流通環境の変化に関するリスク	・eコマースの伸長やリアル流通とネットとの融合、業態を越えた合併や統合など、流通環境の変化やスピードに対して、適切な販売活動が展開できないリスク ・感染拡大によるインバウンド需要の消滅や化粧品市場の縮小への対応が不十分となるリスク
4. 海外事業に関するリスク	・経済成長の鈍化、政治的・社会的に不安定な情勢、小売店・代理店等の取引先との問題、急激な法規制・税制の変更、模倣品の氾濫、レピュテーションリスク等が生じることで、事業計画に大幅な遅れが生じるリスク
5. 事業投資に関するリスク	・設備投資、M&Aに対して、業績計画との乖離等により期待されるキャッシュ・フローが生み出せないリスク
6. 製品品質に関するリスク	・重大な製品事故が発生するリスク ・製品に対する安全性や環境問題への懸念が生じるリスク
7. 大地震・自然災害・事故に関するリスク	・大地震や気候変動に伴う大型台風、洪水等の自然災害により、従業員、設備、サプライチェーン等の被害で、市場への製品供給に大きな支障をきたすリスク ・工場での火災・爆発事故により、従業員や周辺地域に大きな被害が発生するリスク
8. 情報セキュリティに関するリスク	・サイバー攻撃を含む意図的な行為や過失等により、機密情報・個人情報の漏洩や、サプライチェーンなどの事業活動が一時的に中断するリスク
9. レピュテーションに関するリスク	・広告等における不適切な表現等がSNSを通じて拡散するリスク ・事業活動やブランドイメージ等への批判的な評価や誤った情報が拡散するリスク
10. 原材料調達に関するリスク	・原材料の市場価格に急激な変動が生じるリスク ・原材料の安定調達に関するリスク ・持続可能な責任ある調達への取り組みが不十分と見なされるリスク
11. コンプライアンスに関するリスク	・グループ会社、委託先等で重篤なコンプライアンス違反が生じるリスク
12. 人材確保に関するリスク	・高度な専門性を持つ人材や、変化を先導するリーダーの確保・育成・配置が計画的に推進できないリスク
13. 為替変動に関するリスク	・機能通貨である円に対して外貨の為替変動が想定以上となるリスク
14. 訴訟に関するリスク	・訴訟などの動向に関するリスク

新型コロナウイルス感染症の世界的流行に伴い、「社会的課題への対応に関するリスク」、「人材確保に関するリスク」への中長期的な対応の重要性が高まっています。

「2030年までに達成したい姿」の実現に関わる機会

社会的課題や経営環境の変化に対して、経営上重要な主要リスクの明確化と対応を強化することで、ステークホルダーからの強い信頼を得るとともに、社会に必要とされる商品、サービスを提供し続けることを可能とし、グローバルで存在価値のある企業「Kao」の実現を支えます。

貢献するSDGs



方針

花王は、経営目標の達成や事業活動に悪影響を与える可能性を「リスク」、この「リスク」が顕在化することを「危機」とし、「リスクおよび危機管理に関する基本方針」に示された対応の優先順位(1. 人命尊重、2. 環境保護、3. 操業維持、4. 資産保持)に基づいて事業全般にわたり生じ得るさまざまなリスクと危機を適切に管理します。リスクと危機の管理体制と活動方針は、リスク・危機管理委員会が定め、各部門、子会社、関連会社は、この活動方針に基づいて、リスクを把握、評価し、対応策を策定、実行することでリスクを管理しています。また、危機発生時には、緊急事態のレベルに応じた対策組織を立ち上げ、迅速かつ適切に対応することで被害、損害の最小化を図ります。



→事業等のリスク(主要リスク)

www.kao.com/jp/corporate/investor-relations/management-information/risk-of-business/

リスクと危機の管理 102-43,404-2

教育と浸透

リスク管理体制と活動方針の周知

リスク・危機管理委員会で定めた管理体制と活動方針は、委員会事務局から花王の各部門、子会社、関連会社に周知しています。そして、自主監査により、基本方針や活動方針の理解度や活動の実施状況を確認しています。また、社員に対しては、社内ポータルサイトを用いて、リスク管理体制や危機発生時の対応フロー、緊急連絡窓口、ガイドラインなどを周知しています。また、各種リスクに対する注意喚起やeラーニング教育を実施しており、受講状況や理解度を確認することで、リスクと危機に対する意識の醸成を図っています。

リスク調査

各部門、子会社に対して、網羅的および特定のテーマに関するリスク調査を実施し、重要リスクの洗い出しと対応策の見直しを進めています。また、組織横断的なリスクや共通するリスクについては、全社リスクとして対応の強化を図っています。調査結果は各部門、子会社にフィードバックし、組織と社員のリスク管理能力の改善・強化に努めています。

リスク情報の提供

社員に対して、社内ポータルサイトを用いて、リスクが顕在化した際の連絡網や対応体制を示すとともに、リスクの理解と危機発生時に適切かつ迅速に対応できるように、

海外安全、大地震、自然災害、テロ、パンデミック、情報セキュリティ、レピュテーションリスクなどへの対応、ソーシャルメディア使用時の注意点などの情報提供や教育を実施しています。さらに、社外取締役を含む全取締役に対して、年1回以上の頻度で社内もしくは外部講師によるリスク教育を実施しています。

2020年は新型コロナウイルス感染症の世界的流行に対して、社内ポータルサイト等を通じて、政府や自治体の方針、国や地域の感染状況に応じた勤務体制や働き方を「危機管理措置」として発信し、全社員が実践しました。また、職場や家庭内での感染対策の強化ポイントや、従業員・家族が感染者・濃厚接触者になった時の対応、在宅勤務における制度や注意点等、1年を通して新型コロナウイルス感染症対策に関わるさまざまな情報を発信しました。

危機対応訓練

緊急事態対応訓練、総合防災訓練、安否確認訓練、BCP訓練、メディアトレーニング、リスクコミュニケーション訓練などを、定期的の実施しています。

ステークホルダーとの協働／エンゲージメント

リスクと危機の管理を、迅速かつ適切に行なうためには、ステークホルダーとのコミュニケーションを通じた相互理解を深めて活動につなげる必要があります。

たとえば、製品の安全性と高い品質の維持、安定供給、社会的課題への責任を果たすためには、サプライヤーや委託先等との協働が不可欠です。安定調達リスクに対しては、主力サプライヤーでの設備増強とリスク分散のためのセカンドサプライヤーの育成、そして、サプライヤーとの契約見直し等の協働を積極的に進めています。また、持続可能で責任ある調達を行なう上で、Sedexによるサプライヤーのモニタリングや、CDPサプライチェーンプログラム等の取り組みを通じて、サプライヤーとの連携を強化しています。

また、大地震や大型台風などの災害発生に対しては、被災地への支援物資の提供、必要とされる製品やサービスの継続的な供給のために、サプライヤー、委託先だけでなく、行政、自治体、業界団体と連携することも重要です。さまざまな分科会や活動に参画し、情報交換を行なうことで、社内活動の推進に役立てています。危機発生時は、当社グループの状況や市場への影響等の情報を、ウェブサイト等を用いてタイムリーに提供することで、生活者や顧客の不安解消に努めています。

リスクと危機の管理 102-15,102-20,102-29,102-30,102-33,103-2

体制

リスクと危機の管理は、リスク・危機管理委員会(年4回)で、管理体制と活動方針を定めています。花王の各部門、子会社、関連会社は、この活動方針に基づいて、リスクを把握、評価し、対応策を策定、実行することでリスクを管理しています。また、委員会の下部組織として、リスク・危機管理

推進会議(月1回)を設け、委員会への提案事項の議論や、委員会決定事項の推進を行なっています。

花王では、持続的な利益ある成長と、事業活動を通じた社会のサステナビリティへの貢献に悪影響を与える、特に重要な14の主要リスクを、リスク・危機管理委員会、経営会

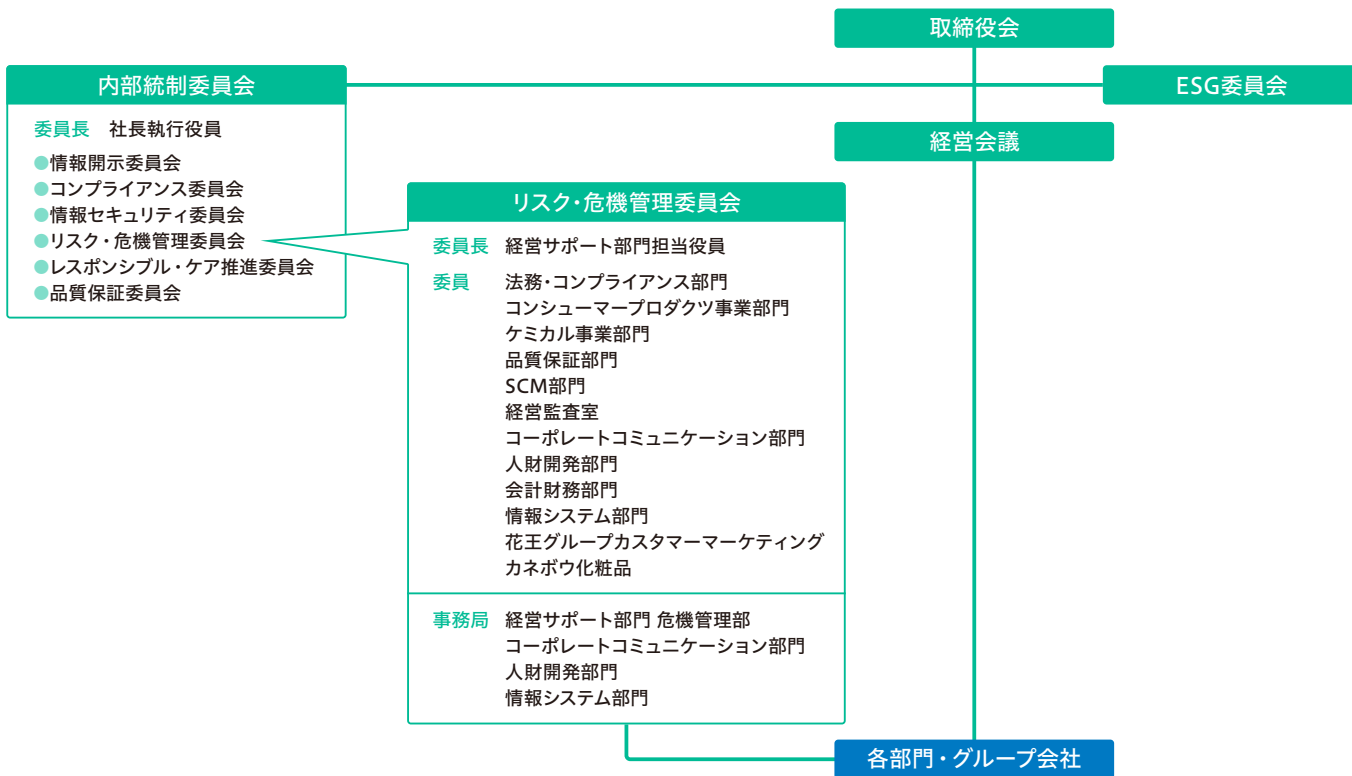
議の審議の下で選定しています。そして、これら主要リスクの中で、経営への影響が特に大きく、対応の強化が必要なリスクを「コーポレートリスク」と定めて、年1回、社内外のリスク分析と経営陣へのヒアリングを基に、経営会議でリスクテーマと各テーマ対応の責任者(執行役員)の見直しを行ない、リスク・危機管理委員会で進捗管理をしています。

一方、危機発生時には、コーポレートリスクについてはその責任者が、その他リスクについては主管する部門または子会社、関連会社が中心となって対策組織を立ち上げます。さらに、グループ全体への影響の重大さに応じて、代表取締役 社長執行役員などを本部長とする緊急事態対策本部を設置し、被害、損害をできるかぎり小さくするために迅速に対応します。

事業から独立した危機管理部は、花王グループのリスクと危機の管理を推進し、改善提案を行なうとともに、新たなリスク、主管の不明確なリスクを発見し、対応方針の策定を行ないます。危機管理部長はリスク・危機管理委員会の事務局長を担い、定期的(年1回)および適時、経営会議および取締役会に、リスクと危機の管理活動を報告しています。リスクと危機の管理プロセスの有効性については、内部統制委員会で確認しています。

リスクと危機の管理を担当する執行役員ならびに危機管理部の実績評価は、前記活動に対する目標達成度が反映されます。また、主要リスク、コーポレートリスク担当の執行役員および主管部門の実績評価にも、取り組みの目標達成度が反映されます。

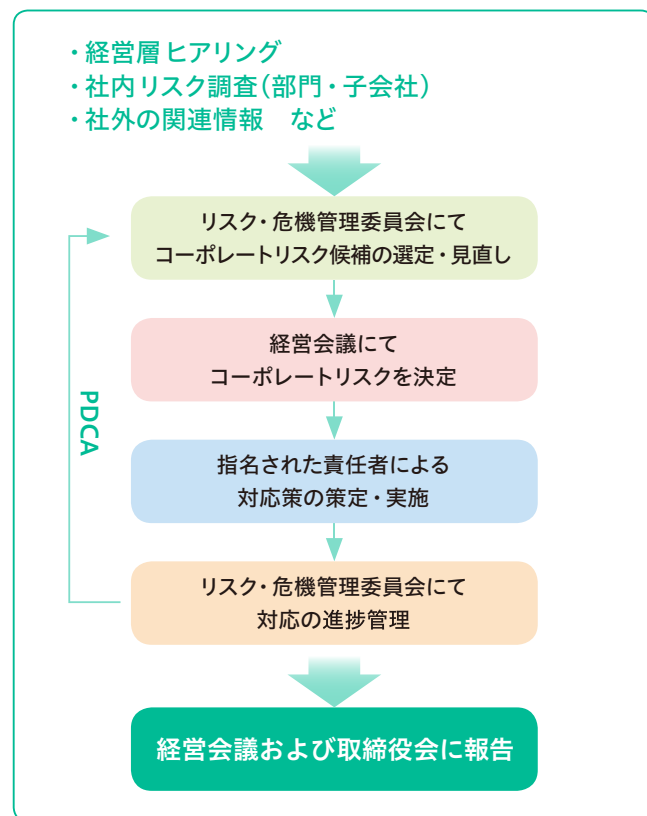
リスクと危機の管理体制



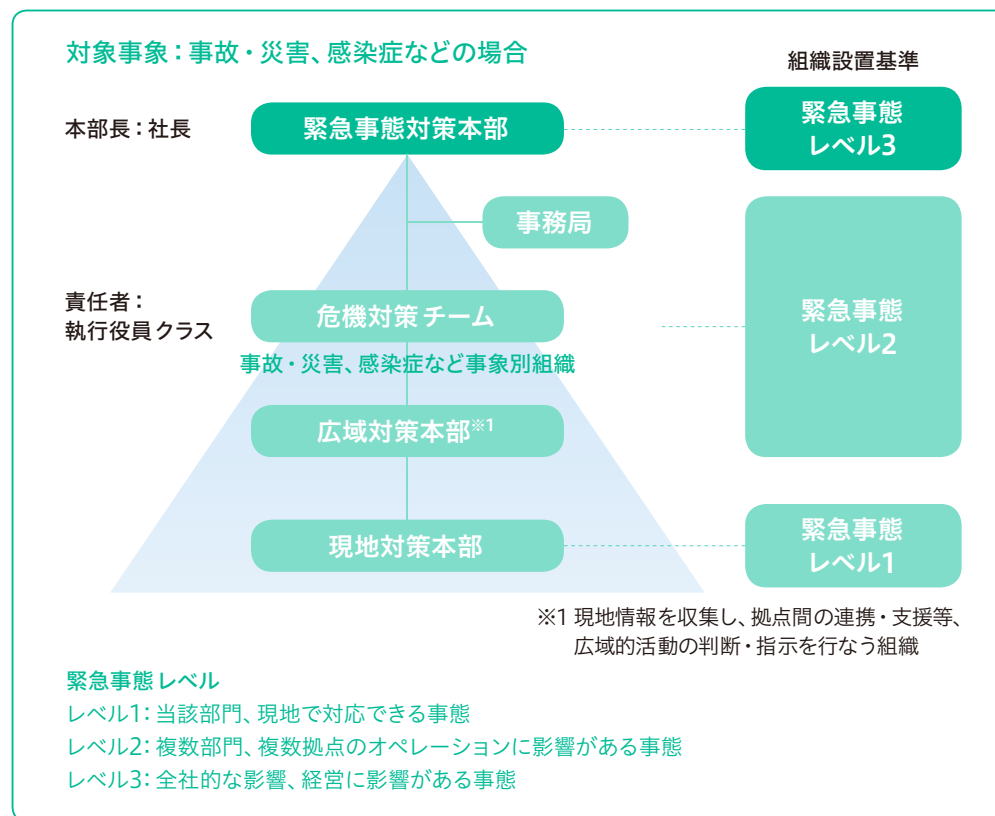
※2020年12月現在

リスクと危機の管理 102-15,102-20,102-29,102-30,102-33,103-1,103-2,103-3

コーポレートリスクの運営



危機発生時の体制(一例)※



※ 危機発生時の体制

花王では、発生事象の花王に及ぼす影響の重大さから、危機対策チームの責任者が緊急事態レベルを評価し(事故・災害、感染症などの事象発生時にはレベル1～3で評価)、レベルに応じた組織を設置して発生事象に対応します。

リスクと危機の管理 102-15,102-30,103-2,103-3

中長期目標と実績

中長期目標

次の基本戦略を実行することで、世界レベルと評価されるリスクと危機の管理体制の構築をめざします。

- ・主要リスクの明確化と対応の強化
- ・「利益ある成長」に影響を及ぼす戦略リスクへの対応
- ・リスク顕在化時の適切かつ迅速な対応

※ 主要リスク: 持続的な利益ある成長と、事業活動を通じた社会のサステナビリティへの貢献に悪影響を与えるリスクとして特に重要なリスク

2020年の主な重点取り組み

- ・コーポレートリスクを含む主要リスクの明確化と対応の強化
- ・リスク顕在化時の適切かつ迅速な対応
- ・海外拠点の重要リスク対応の実践力強化
- ・現場および事業環境に潜むリスクの対応強化
- ・開示情報の強化 など

中長期目標を達成することにより期待できること

事業インパクト

危機発生を未然に防ぎ、また、危機発生時には被害、損害を最小化することで、目標通りの事業活動の実現と、持続的な利益ある成長を可能とします。

社会的インパクト

事業活動を通じた社会のサステナビリティへの貢献を可能とします。

2020年の実績

実績

新型コロナウイルス感染症の世界的流行への対応

緊急事態のレベルを最高の「レベル3」として、緊急事態対策本部会議(本部長: 代表取締役 社長執行役員)を開催し、①従業員と家族の安全確保、②事業活動の継続、③社会への貢献に関する全社方針を決定し、次のような対応を実施しました。また、これらの対応は取締役会に報告されています。

①従業員と家族の安全確保

- ・政府や自治体の方針、国や地域の感染状況に応じた勤務体制、働き方(リモートワーク・在宅勤務の推進、出張制限、研修・イベント・見学の制限等)を「危機管理措置」として実施
- ・従業員と家族における感染者・濃厚接触者等の状況を把握し、対象者のケアとクラスター発生防止対策を実施
- ・「感染症リスクアセスメントプロジェクト」を発足し、職場と家庭における感染防止対策を強化

②事業活動の継続

- ・サプライチェーンの維持のため、原材料調達活動に加えて、生産現場では一段高い感染対策を実施し、委託先等にも展開
- ・リモートワークのための情報システムの強化と業務のデジタル化の推進
- ・新しい働き方に向けた会社制度の見直し
- ・コロナ禍における事業戦略の策定と実行

③社会への貢献

- ・清潔と暮らしの安心を実現する衛生関連製品の継続的供給
- ・アルコール消毒液をこれまでの20倍増産し、緊急を要する医療機関や高齢者施設等に優先的に供給
- ・ウェブサイトを通じて、専門家や花王の知見に基づく生活に関わる衛生関連情報を提供。また、衛生関連研究者、医療従事者、教育機関の保健師等の方向けに、論文等の専門的知見に基づく感染防止策を含む幅広い情報を提供
- ・感染抑制能を持つVHH抗体の取得等、新型コロナウイルス感染症の治療薬や診断薬の開発への貢献

コーポレートリスクを含む主要リスクの明確化と対応の強化

- ・花王の持続的な利益ある成長と、事業活動を通じた社会のサステナビリティへの貢献に悪影響を与えるリスクとして、特に重要な14の主要リスクを、リスク・危機管理委員会、経営会議の審議の下で選定しました。この主要リスクの内容と主な取り組みは、第115期有価証券報告書「事業等のリスク」に開示しています。
- ・リスク・危機管理委員会で、2020年度のコーポレートリスク8テーマの進捗管理を行ないました。
- ・社内外のリスク分析等を基に経営会議で2021年のコーポレートリスク9テーマの管理体制を決定しました。

2020年度コーポレートリスクの主なテーマと取り組み

テーマ	リスク内容	主な取り組み
パンデミック	新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、社員の健康被害や操業の一時停止等が発生するリスク	・ 新型インフルエンザ等の世界的流行に対して検討を進めてきたガイドライン、行動計画を新型コロナウイルス感染症に適用し、対策を実践。(具体的対応は「新型コロナウイルス感染症の世界的流行への対応」を参照)
大地震・自然災害	大地震や気候変動に伴う大型台風、洪水等の自然災害による、従業員や設備などの資産への被害および製品供給に支障をきたすリスク	・ 各拠点の水害リスク調査を行ない、ハード面・ソフト面の対策を強化 ・ ハザードマップや避難に関する防災教育の実施 ・ 大地震等に対する緊急事態対応訓練、BCP訓練による対応の強化
海外環境法規制	急激な環境法規制変更により、事業、操業が停止に至るリスク	・ 中国での急激な環境法規制変更が現地工場や主要サプライヤーに及ぼす影響について、外部専門機関を用いたモニタリングと対応体制の強化
重大品質問題発生	重大品質問題の発生で社会的信用が失墜するリスク	・ 品質問題により重篤な被害が生じた場合の全社対応の強化 ・ 発生防止に向けた社内啓発の強化
サイバー攻撃・個人情報保護	サイバー攻撃を含む意図的な行為や過失等により個人情報情報が漏洩するリスク	・ インシデント発生時の対応フローの作成と訓練の実施 ・ グローバルで情報セキュリティと個人情報保護の体制強化を推進
レピュテーションリスク	SNSを通じて当社への批判的な評価や誤った情報が拡散し、ブランド価値や社会的信用が低下するリスク	・ SNS等のモニタリング体制の強化 ・ 事象発生時の緊急対応体制の強化
デジタルメディア活用に伴うリスク	広告等での不適切表現の拡散やステルスマーケティング等が発生するリスク	・ 社内教育の継続的強化、ガイドライン等の見直し ・ ブランド価値の向上と維持に向けた広告配信ツール等の整備

海外拠点の重要リスク対応の実践力強化

新型コロナウイルス感染症の流行を受けて、海外子会社と本社との緊急対応体制の連携を強化し、国ごとに事業会社の枠を超えた連携を行ない、ONE KAOとしての対応体制を確立しました。

- ・ 海外拠点に対して、1～6月の新型コロナウイルス感染症対応の振り返りと今後のリスクに関する調査を実施しました。課題とリスクを主管部門に共有し、対応状況を全拠点にフィードバックし、対応の強化を進めました。

現場および事業環境に潜むリスクの経営への見える化

- ・ 日本の主要な22部門と4子会社に対して、海外拠点と同様に、1～6月の新型コロナウイルス感染症対応の振り返りと今後のリスクに関する調査を実施しました。課題とリスクを主管部門に共有し、対応状況を部門・子会社にフィードバックし、対応の強化を進めました。
- ・ リスク・危機管理推進会議で、日本国内7部門、4子会社のリスクマネジメント活動を共有、議論することで活動の連携と対応の強化を図りました。

開示情報の強化

- ・ 第114期 有価証券報告書「事業等のリスク」において、内閣府令の改正後の規定を早期適用し、主要リスクの見直しと具体的な取り組み等について情報開示を行ないました。
- ・ 有価証券報告書「事業等のリスク」、統合レポート、データブックの連携と充実を図りました。

リスクに対する社員の意識、感度の向上

新型コロナウイルス感染症の世界的流行に対して、社内ポータルサイト等を通じて、政府や自治体の方針、国や地域の感染状況に応じた勤務体制や働き方(リモートワーク・在宅勤務の推進、出張制限、研修・イベント・見学の制限など)を「危機管理措置」として発信しました(計24回)。

また、これら措置と連動して重要な局面では、社長からの強いメッセージを発信することで(国内外計14回)、社員の感染対策における意識、感度の向上を図りました。

一方で、「感染症リスクアセスメントプロジェクト」を7月に発足し、エビデンスに基づき、かつ、分かりやすい感染対策情報をグローバルで発信し、職場だけでなく家庭内でも実行すべきポイントを周知徹底しました。その他、リモートワーク、在宅勤務時の情報セキュリティ上の注意点、コンプライアンス上の注意点など、1年を通して新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴うさまざまなリスク関連情報を発信しました。

2020年の主な訓練

- ・ 総合防災訓練(グローバルの主要工場で実施)
- ・ 大地震を想定した緊急事態対応訓練、BCP訓練(日本)
- ・ 大地震を想定した安否確認訓練(日本)

危機対応の実績(新型コロナウイルス感染症対応以外)

- ・ 令和2年7月豪雨に対して、対象エリアの従業員、拠点の安否と被害状況を確認し、また、自治体の要請に対して支援物資の提供を実施しました。

リスクと危機の管理 102-15,102-30,103-2,103-3

実績に対する考察

新型コロナウイルス感染症の世界的流行に対しては、検討を進めてきたパンデミックリスク対応のガイドライン、行動計画に基づき、経営陣主導の下での全社一丸となった迅速な対応により、社員の安全確保と、衛生関連製品を継続的に供給する等の社会的責任を果たすことができました。

今後は、新型コロナウイルス感染症への対応を引き続き行なうとともに、ニューノーマルにおけるリスクを明らかにし、対応を進めていきます。

日々の安全確保と環境保全を図るため、化学に携わる企業の自主管理活動である「レスポンシブル・ケア(RC)活動」に取り組んでいます。

ESG キーワード

製品ライフサイクルにおける環境・健康・安全の確保

労働安全衛生

保安防災

化学品・製品安全

物流安全

環境保全

社会的課題と花王が提供する価値

認識している社会的課題

製品の安定供給や品質・安全性の確保、安全で衛生的な労働環境の提供および事業活動による環境負荷の低減は、国内外に拠点を設け、幅広い産業界に多種多様な素材・製品・システムを提供するケミカル事業を有する企業として、果たすべき重要な社会的責任です。

花王が提供する価値

化学産業界の自主的な環境・健康・安全を確保する活動である「レスポンシブル・ケア(RC)活動」を推進することで、倫理的な観点からも社会との信頼関係の構築を通じた持続可能な社会づくりに貢献できます。

「2030年までに達成したい姿」の実現に関わるリスク

RC活動の基本項目一つひとつが化学産業界にとって重要活動であるため、一つでも欠けると社会的レピュテーションが毀損され会社への信頼性の失墜が生じます。

「2030年までに達成したい姿」の実現に関わる機会

企業の自主的な活動である「レスポンシブル・ケア(RC)活動」を推進することで、ステークホルダーとの強い信頼

関係が構築されることは、花王製品のブランドイメージや会社への信頼性向上につながります。

貢献するSDGs



方針

化学品の製造・販売・流通等に関わる花王は、製品のライフサイクル(製品の開発・製造から使用・消費・リサイクル・廃棄に至るまで)において、環境・健康・安全を確保し、その取り組みを継続的に改善し、生活の質の向上と持続可能な社会の実現に貢献することにより、社会からの信頼の向上に努めています。

この目的達成のため、「環境・安全の基本理念と基本方針」を定めるとともに、「花王レスポンシブル・ケア方針」を定め、

事業活動を行なっています。

花王は1995年の日本レスポンシブル・ケア協議会設立当初から「RC活動」に参加しており、2008年には当時の尾崎社長が「RC世界憲章」の支持宣言書に、さらに2014年には澤田社長が改訂された「RC世界憲章」にそれぞれ署名を行ない、RC活動を花王全体で推進していくことをコミットしています。化学産業界の「環境・健康・安全」に関する「レスポンシブル・ケア(RC)活動」の基本項目※の考え方に則った「花王レスポンシブル・ケア方針」を定め、協力会社を含めた花王全体で毎年目標を策定し、年間計画に基づいた活動を継続的に行なっています。

この「花王レスポンシブル・ケア方針」は2012年に制定し活動を進めてきましたが、2014年に国際化学工業協会協議会(ICCA)が「RC世界憲章」を改訂、それに伴い2016年に日本化学工業協会(JCIA)も「RC基本方針」を改訂したのを契機に、今後2030年までの活動や目標を決めるにあたり、2020年12月に改訂致しました。今回改訂では内容を刷新し「継続的教育」を追加するとともに、各項目に表題を付加して社員の皆さんが親しみやすいよう配慮しました。

※「レスポンシブル・ケア(RC)活動」の基本項目:「環境保全」「保安防災」「労働安全衛生」「化学品・製品安全」「物流安全」の5つの推進項目と「社会とのコミュニケーション」

レスポンシブル・ケア活動 102-20,102-43,103-2,403-5(労働安全衛生2018),404-2



→環境・安全の基本理念と基本方針

www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/environment-safety-principle-policies.pdf

→花王レスポンシブル・ケア方針

www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/responsible-care-policy.pdf

教育と浸透

製品のライフサイクルにおける環境・健康・安全を確保する「RC活動」の理念やその方針は、花王全社員のみならず協力会社とも共有する必要があります。そのためRC推進委員会事務局や各推進部門のRC担当者は、社員や協力会社の社員を対象に、環境や労働安全衛生活動などのRC活動やその方針に関する教育を定期的実施しています。



詳細はP33「具体的な取り組み:RC活動に関する教育」

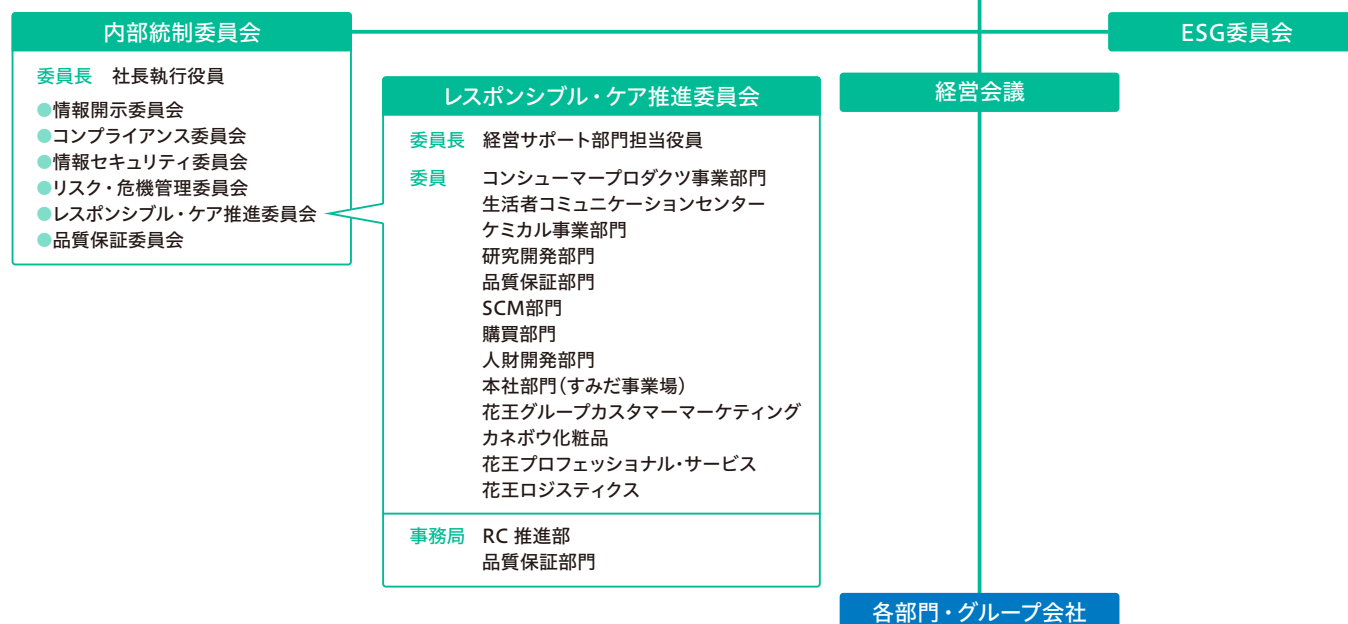
ステークホルダーとの協働／エンゲージメント

花王グループ各社はRC活動の基本項目の一つである「社会とのコミュニケーション」に基づき、環境・健康・安全に関わる方針や活動状況を積極的に開示し、生活者・顧客、従業員、地域社会等とコミュニケーションを積極的に行ない、すべてのステークホルダーの支持と信頼を得よう努めます。

体制

レスポンシブル・ケア推進委員会は、社長が委員長を務める内部統制委員会内の一委員会として位置づけられており、四半期に一度、内部統制委員会に報告を行なっています。内部統制委員会は取締役会へ傘下の委員会の活動報告をまとめて行ないます。レスポンシブル・ケア推進委員会の委員長は部門統括(常務執行役員)が務め、日本国内の8つの推進部門※の代表に加え、4部門の代表と品質保証部門の担当を加えた委員14人で構成しており、毎年1回開催しています。

レスポンシブル・ケア推進体制



事務局はRC推進部と品質保証部門が務めています。

花王(株)を含む花王グループ内各ケミカル会社は、各国の化学工業会に参画しRC活動を推進しています。

※8つの推進部門:本社部門(茅場町事業場)、本社部門(すみだ事業場)、ケミカル事業部門、花王プロフェッショナル・サービス部門、研究開発部門、SCM部門、販売部門、花王ロジスティクス部門



→コーポレート・ガバナンス

www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/sus-db-2021-all.pdf#page=9

※2020年12月現在

中長期目標と実績

花王は2030年にグローバルでトップレベルの安全確保と環境保全を満たす企業になるべく、日々のRC活動を推進しています。

この目標を達成するために、現在のRC活動のさらなるレベルアップ、および活動範囲の拡大、マネジメントシステムの向上をめざしていきます。

そのため「花王グループRC目標」として2030年までの中長期目標を立て、この目標に対しバックカスティングする毎年の目標を設定し、日々の活動へ落とし込んでいます。

中長期目標を達成することにより期待できること

事業インパクト

事業活動が正常に行なわれ、安定した商品供給が行なわれるとともに、不要な経費の発生が抑えられます。

また社会的レピュテーションの向上により、製品やブランドへの好感度も上がり事業拡大が望めます。

社会的インパクト

事業活動地域において環境負荷の低減、衛生状況の改善、社会への還元が行なわれ、その結果、地域住民を含むステークホルダーの生活レベル(QOL)の向上に貢献できます。

2020年の実績

実績

2020年は9月30日に「花王グループRC推進委員会」、12月16日に「日本RCミーティング」を開催しました。7月～8月にかけて「RC事務局監査」を日本およびグローバルの各会社、推進部門に対し実施しました。

またRC事務局監査の一環として、RC推進委員会事務局はいくつかの推進部門の自己点検に立ち会い、規程等に基づきRC自己点検が適切に実施されているか同行し確認しています。

なお、2020年は新型コロナウイルス感染症の影響により、リモートでの監査、立ち合いとなりました。2020年は7～9月に実施されたSCM部門の安全防災部会監査にRC推進委員会事務局が立ち会いました。

当初11月に予定していた集合しての「グローバルRCミーティング」も新型コロナウイルス感染症の影響により中止とし、オフラインでの情報共有を実施しました。

実績に対する考察

環境では「エネルギー使用量」および「廃棄物発生量」でいずれも目標未達となりました。安全では「死亡、機能損失災害」、「業務上疾病による休業」、「物流漏洩事故」の項目がいずれも発生件数ゼロで目標を達成しました。

2020年はKirei Lifestyle Planの中長期目標に沿う形で環境、安全の2030年目標を設定、変更しました。環境の「脱炭素」では購入電力中の再生可能エネルギー比率の向上、温室効果ガス発生量の絶対値での削減、「廃棄物の削減(ごみゼロ)」では直接埋め立てや単純焼却比率の削減、「大気および水質汚染防止」では、VOC、COD排出量を開示の向上、「安全」では休業度数率の向上で、それぞれ2030年での数値目標を設定し直しました。



→詳細は

P30「具体的な取り組み:RC活動の標準化」

P32「具体的な取り組み:RC事務局監査実施状況」

P33「具体的な取り組み:RC活動に関する教育」

具体的な取り組み

RC活動の標準化

日本国内の8推進部門およびすべての海外関係会社日本国内の8推進部門およびすべての海外関係会社は、RC推進委員会で決定された花王RC目標をもとに、それぞれの業務内容や業種・業態に応じた活動計画を立案し、以下のようなサイクルでRC活動を推進しています。

花王グループRC推進委員会(9月)

毎年9月に開催する「花王グループRC推進委員会」では、活動方針の徹底やマネジメント体制の強化に関する施策を討議するほか、花王グループの中期目標と8月に行なうRC事務局監査の結果をもとに、次年の数値目標と活動目標を審議します。

グローバルRCミーティング(10～11月)

10月～11月に開催する「グローバルRCミーティング」では、RC推進委員会事務局から「花王グループRC推進委員会」で決められた花王グループの中期および次年目標の説明を行ない、各社に次年の目標と計画の策定を依頼します。各社からはRC活動状況が発表され、グループ間での情報の共有を図ります。

日本RCミーティング(12月)

12月に開催する「日本RCミーティング」では、「花王グループRC推進委員会」で決められた花王グループの数値目標と活動目標をもとに、各推進部門のRC推進委員が次年の計画案を発表し、審議します。この会議で承認された内容は、RC推進委員が各推進部門に持ち帰り、推進部門ごとにより細かく設けた活動ユニットへ伝えることで、現場に密着した活動の継続的な改善・レベルアップを図っています。

2020年は、9月30日に「花王グループRC推進委員会」をオンラインで開催しました。事務局からは2020年のRC目標に対する花王グループ全体の上半期の実績やRC事務局監査結果を報告しました。また、推進部門から各部門の推進活動状況が発表され、最後に審議事項として、2021年の花王グループRC目標が承認されました。併せて、2030年の花王グループRC目標が決定され、バックキャストिंगにより毎年の活動をレベルアップし継続していくことが承認されました。さらに、2030年の中長期目標を達成するにあたり、「花王レスポンシブル・ケア方針」の見直しを提案し、承認されました。

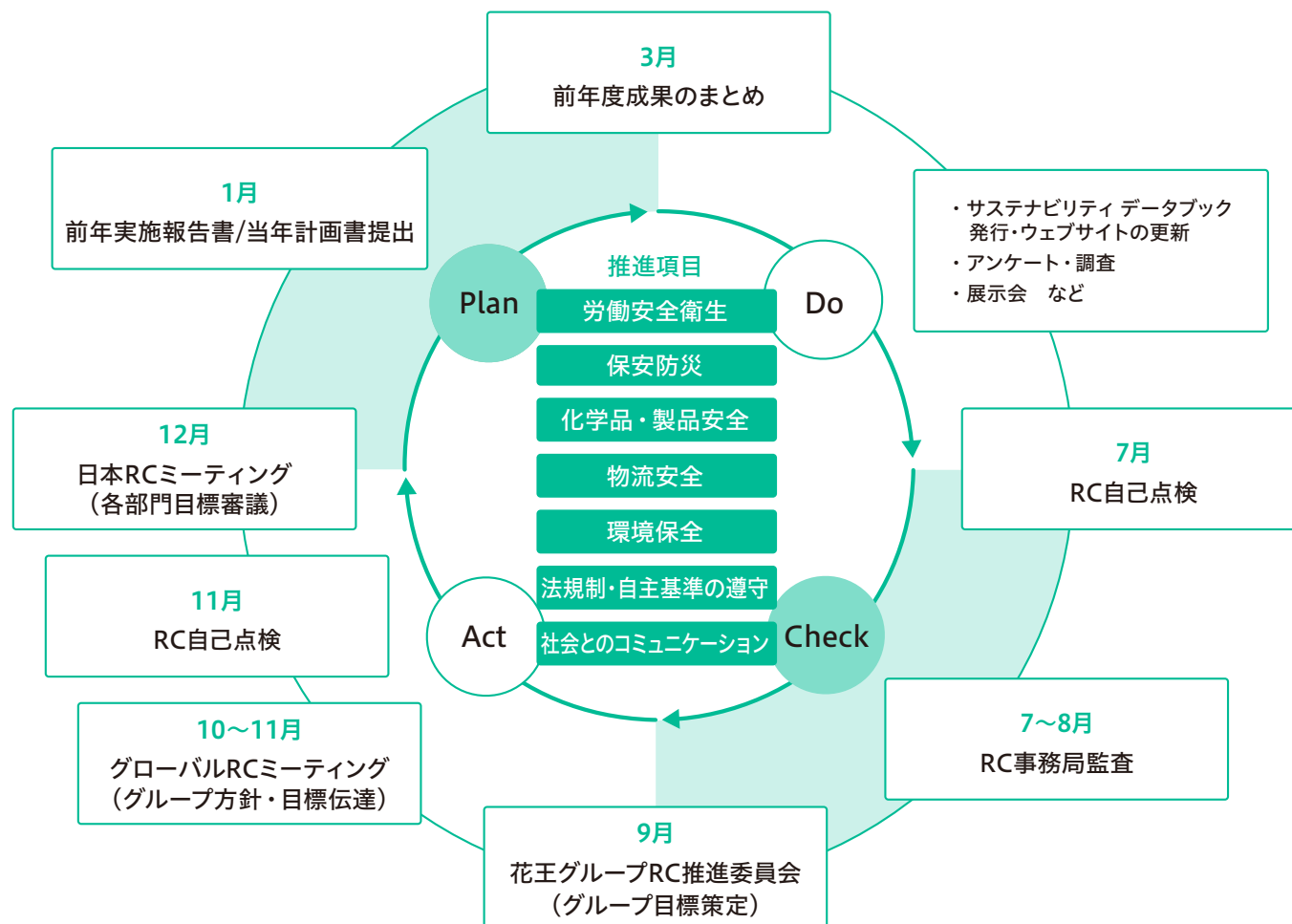
12月16日の「日本RCミーティング」もオンラインで実

施し、各推進部門のRC推進委員が2020年の活動実績を報告するとともに、2021年の自部門の計画案を発表し、審議・承認されました。また事務局からは2020年の環境および安全の実績報告を行ないました。

当初11月9・10日に各国RC担当者が参集し、「グローバルRCミーティング」を本社で開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりました。代替としてオフラインで、花王グループのRC活動方針の理解、2021年および2030年の目標の確認を行なうとともに、RC活動の活性化とレベルアップを目的に各社のRC活動の状況確認、ベストプラクティスの共有を行ないました。

レスポンスブル・ケア活動 403-1 (労働安全衛生2018)

RC活動の年間サイクル



環境・安全データベースなどを活用

花王は、環境負荷の低減や労働災害・事故発生数の低減を図るための環境・安全データベースである「環知安システム」※を構築して運用しています。

このシステムでは、花王全体の温室効果ガスの排出量や労働災害の発生度数率・強度率などを自動算出することができ、環境負荷低減や労働災害防止に活用しています。

グループでより効率的に環境・安全データを利用するために、新しいシステムへの移行を検討中で、現在情報システム部門とともに具体的なシステムの検討を行なっています。

※ 環知安システム

エネルギー使用量、温室効果ガス排出量、ばい煙排出量、水使用量、排水量、排水濃度測定結果、土壌・地下水測定結果、PRTR法対象化学物質の取扱量および排出量・移動量、廃棄物等の発生量・排出量・最終埋処分量、労働災害統計、交通事故統計など、多様なデータを共有している。

レスポンシブル・ケア活動 103-2,103-3,403-2(労働安全衛生2018)

RC事務局監査実施状況

花王は、RC活動の進捗状況や課題を把握するために、7月に各推進部門が活動ユニットに対してRC自己点検を、8月にRC推進委員会事務局より選出された監査チームが、日本の各推進部門および海外グループ会社に対して監査を実施しています。

また、これらの結果を9月の「花王グループRC推進委員会」および11月の「グローバルRCミーティング」で報告するとともに、翌年の数値目標や活動目標の策定に活かしています。

なお本監査は全社規程(B-02-00「レスポンシブル・ケア事務局監査規程」)に基づき実施されるもので、監査に用いるチェックシートの設問ごとに実施状況(実施の有無、実施率)を点数付けすることで評価します。

2020年は7月から8月にかけて、日本の8推進部門、海外は安全と環境面の影響度を配慮して工場を持つグループ会社20社※に対して、チェックシートを用いてRC事務局監査を実施しました。2018年よりチェックシートの監査範囲を従来のものから拡大し、より高度な活動の推進状況を確認しています。

日本については、各推進部門と対面で法的要求事項・基準等の遵守状況、計画の進捗状況や数値目標の達成状況などをオンラインで確認しました。海外については、新型コロナウイルス感染症への各社の対応状況や対策内容について確認するチェックシートも送付し、その回答についても併せて書類監査を実施しました。あわせて今回の監査で2019年の監査時の指摘事項についてはすべて対応済みであるこ

とも確認しました。

2020年のRC事務局監査の結果について、日本では全8推進部門で評価平均点が4.5点以上を獲得しRC推進体制が整ってきたことが確認できましたが、継続観察が必要な項目として労働安全および環境保全に関する指摘が多く見られたため、さらなるレベルアップを依頼しました。海外では多くの会社で2019年より評価点数の改善が見られましたが、平均点は前年と同じ結果となりました(下表参照)。

※上海花王、花王(合肥)、上海花王化学、花王(上海)化工、花王葫芦島鑄造材料、花王(台湾)、花王(ベトナム)、ピリピナス花王、花王インダストリアル(タイランド)、ファティケミカル(マレーシア)、花王(インドネシア)、花王インドネシア化学、花王USA、花王スペシャルティーズアメリカズ、キミ花王、花王マニュファクチャリングジャーマニー、ドイツ花王化学、モルトンブラウン、花王コーポレーション(スペイン)、花王チミグラフ

RC事務局監査実績(2020年)

	SCM部門	研究開発部門	事業部門	コーポレート部門	日本グループ会社※1	海外グループ会社※2
設問数	185	168	245	335	590	5,233
継続観察が必要な項目	4	3	4	0	6	—
評価平均点(5点満点)※3	4.91 (4.92)	4.98 (4.95)	4.90 (4.88)	4.86 (4.94)	4.82 (4.90)	4.52 (4.52)

※1 国内グループ会社

花王プロフェッショナル・サービス(株)、花王グループカスタマーマーケティング(株)、花王ロジスティクス(株)

※2 海外グループ会社

20社(アジア12、欧米8)

※3 ()内は2019年の結果

レスポンスブル・ケア活動 403-1,403-2,403-4,403-5(労働安全衛生2018)

国際マネジメントシステム認証状況

花王は、RC マネジメントシステムを全拠点を対象に導入しています。環境の国際規格であるISO14001、労働安全衛生の規格であるISO45001、OHSAS18001の認証や各国の認証も受けています。

環境に関する認証取得状況(ISO14001等)

外部認証を受けている工場の割合はISO 認証機関で96%、政府などその他の認証機関で2.5%となっています(総生産量重量基準)。

活動の標準化・高度化をめざし、個別工場で取得していた認証の統合を実施し、日本とアジアの15サイトで完了しています。今後、統合する工場を増やすなど、認証取得拠点の拡大を実施していきます。

労働安全衛生に関する認証取得状況(ISO45001等)

労働安全衛生のマネジメント規格は、日本と比較して労働災害が多く、労働管理の強化が必要な海外の工場で取得を推進しており、その割合は35%です(総生産量重量基準)。

今までは個別工場で認証を取得していましたが、活動の標準化・高度化をめざし、アジアの5工場での統合化が2018年に完了し、2020年にはOHSAS18001からISO45001への移行も完了しました。今後、統合する工場を増やすなど、認証取得拠点の拡大するとともに日本での導入も検討していきます。

品質に関する認証取得状況(ISO9001等)

外部認証を受けている工場の割合は95%です(総生産量重量基準)。今後、認証取得工場を拡大していきます。

外部認証取得一覧



→ ISO 等認証取得一覧

www.kao.com/jp/corporate/sustainability/our-approach-to-klp/environment-activity-data/certification/

RC 活動に関する教育

RC 推進委員会事務局や各推進部門のRC 担当者は、社員や協力会社の社員を対象に、環境や労働安全衛生活動などのRC 活動に関する教育を定期的に行っています。

2020年にRC 推進委員会事務局が社員を対象に実施したRCの集合教育は17回、のべ54,000人余りが参加しました。

2020年は、日本花王グループの全社員を対象に、防災と消防法の基礎知識についてネット教育およびアンケートを実施しました。今年は新型コロナウイルス感染症の影響で在宅勤務が増加した状況を考慮し、国内全社員対象としたeラーニング形式を取り入れました。これら教育の平均受講率は約70%以上でした。今後も積極的にeラーニングを活用しRCに関する教育を実施していきます。

Topic

花王(台湾)が「第9回新北市労働安全賞」の優秀賞を受賞

花王(台湾)が、台湾新北市の実施する「第9回新北市労働安全賞」の最高位の優秀賞を受賞しました。

この賞は労働安全に関する方針、管理や労災低減対策やそのほか全般的な活動に関して受けた監査の評点により受賞されます。

今回の受賞は、花王(台湾)の労働安全活動が高く評価された結果です。なお、今年の表彰では、13の公的機関と3つの会社が表彰されました。



表彰式(左:台北市長、右:花王(台湾)社長)と記念楯

レスポンシブル・ケア活動

レスポンシブル・ケア活動 関連データ リンク集

レスポンシブル・ケア活動の体制、主な活動内容、2020年の実績は、以下もあわせてご覧ください。

労働安全衛生



→正道を歩む>社員の健康増進と安全
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2021-all.pdf#page=199



→正道を歩む>責任ある化学物質管理
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2021-all.pdf#page=219

法規制・自主基準の遵守



→正道を歩む>実効性のあるコーポレートガバナンス
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2021-all.pdf#page=144

保安防災



→保安防災
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/sus-db-2021-all.pdf#page=117

環境保全



→Our Approach to KLP > 環境・安全の基本理念と基本方針
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/environment-safety-principle-policies.pdf

→Our Approach to KLP > 花王 環境宣言
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/environmental-statement.pdf

→Our Approach to KLP > 環境活動データ集
www.kao.com/jp/corporate/sustainability/our-approach-to-klp/environment-activity-data/

→生物多様性
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/sus-db-2021-all.pdf#page=65

→Topics you care about > 責任ある原材料調達
www.kao.com/jp/corporate/sustainability/topics-you-care-about/procurement/

→よりすこやかな地球のために
www.kao.com/jp/corporate/sustainability/planet/

社会とのコミュニケーション



→Corporate Citizenship Activities (社会貢献)
www.kao.com/jp/corporate/sustainability/society/

化学品・製品安全



→Our Approach to KLP > 化学物質をより安全に使用するための取り組み (SAICM 推進活動)
www.kao.com/jp/corporate/sustainability/our-approach-to-klp/saicm/

→Our Approach to KLP > 環境・安全の基本理念と基本方針
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/environment-safety-principle-policies.pdf

→Topics You Care About > 品質保証
www.kao.com/jp/corporate/sustainability/topics-you-care-about/safety-quality/

消費者・顧客の立場にたって、花王の使命である心をこめた“よきモノづくり”を行ない、世界の人々の喜びと満足のある豊かな生活文化を実現するとともに、社会のサステナビリティに貢献するために、原材料から研究開発、生産、輸送、販売までのすべての段階において、徹底した消費者・顧客視点で、高いレベルでの商品の安全性を追求し、絶えざる品質向上に努めています。

ESG キーワード

商品の安全性の確保

動物実験に対する方針

品質保証体制

リコール状況

社会的課題と花王が提供する価値

認識している社会的課題

近年、地球環境の保護への動きが強まる中、化学物質の環境影響に対しても関心が高まっています。また、動物実験の廃止に賛同する動きも増えています。このように社会情勢が変化していく中、企業活動においても積極的に課題解決に貢献することが重要です。花王では、「ESG視点のよきモノづくり (ESG よきモノづくり)」を通じて、環境、健康、高齢化、衛生などの社会的課題の解決に取り組んでいます。

花王が提供する価値

商品のライフサイクルのすべてのプロセスにおいて消費者視点での検討を行ない、高い安全性と品質の確保を図ります。商品を安全に正しくお使いいただくための情報を提供するとともに、高齢者まで含めたすべての生活者がストレスなく暮らせるようにユニバーサルデザインを推進します。

原材料・生産工程・製品の徹底した管理により、常に安全で高品質な商品を提供します。花王グループ各社に寄せられた貴重な消費者・顧客の「声」を全社で共有し、商品改良や表示改善などに活用します。

これらの品質保証活動を見える化し、全ステークホルダー

との品質保証に関するコミュニケーションを推進し、信頼と協働により社会的課題の解決に向けた変化を生み出します。

方針

花王の品質保証活動の基本は、「花王ウェイ」にある消費者・顧客起点の心をこめた“よきモノづくり”です。原材料から研究開発、生産、輸送、販売に至るすべての段階で、社員全員参加の消費者・顧客起点の品質保証活動を行なっています。

品質保証活動の基本方針

- 品質を評価するのは「消費者・顧客」
- 「使い続けていただける」商品の提供
- 「安心して使える」商品づくり
- 「法規制の遵守」
- 「透明性の高い」企業活動と説明責任

商品ライフサイクル全般にわたる安全性の確保

花王では、商品を安全に快適に安心して使用していただけるよう技術開発～商品化～生産～販売に加え、商品発売後の安全管理に至るまでの全社活動で、商品の高い安全性と品質

を確保しています。

商品開発段階での原材料選択、商品化後の配合成分に関しては、国内外の法規、安全性に関する情報を日々収集しています。業界やNGO／NPOなどからの幅広い情報についても、科学的な視点と社会的な懸念など、多面的な視点で評価して必要な対策をとっています。

また、商品発売後は一つひとつのお客さまの声に真摯に耳を傾け、内容を確認して常に詳細に安全性を点検し、医療関係者や行政などのネットワークとも連携して安全管理を行なっています。

日本だけでなく各国・地域で寄せられるお客さまの声に関して、アジア・欧米などの花王グループ担当者とも定期的に情報を交換し、グローバルな視点で常に安全性を高めていく活動を行なっています。

さらに、花王では家庭品、化粧品、食品のそれぞれについて、お客さまの「安全・安心」を最優先に、徹底して高いレベルの安全性確保をめざした安全基準を定めています。

化粧品については2014年4月に、花王として新しい安全基準を定めました。それ以前から運用していた花王の基準をもとに、より広範囲なデータベース、より幅広い使用テスト、より詳細な安全性点検となるように発展させています。



→家庭品の花王安全基準

www.kao.com/jp/corporate/sustainability/topics-you-care-about/safety-quality/kao-quality/houseware-quality/

→化粧品の花王安全基準

www.kao.com/jp/corporate/sustainability/topics-you-care-about/safety-quality/kao-quality/cosmetics-quality/

→食品の花王安全基準

www.kao.com/jp/corporate/sustainability/topics-you-care-about/safety-quality/kao-quality/food-quality/

動物実験に対する方針

動物実験の廃止に向けた動きは世界的なものであり、花王はこの考え方に賛同しています。

花王は、化粧品(医薬部外品を含む)の商品開発に際し、外部委託を含めて動物を用いた試験は行なっていません。また、今後も行なう予定はありません。^{※1}

化粧品以外の分野についても、動物実験は行なわない方針です。ただし、適切な代替法がない場合、法規制上求められた場合等、動物実験が避けられないこともあります。^{※2}商品の安全性確保は何よりも重要であり、花王の安全基準を定めて遵守しています。すなわち、安全性情報を広く収集し、今までの知見を含めた情報データベースを活用するとともに動物実験代替法を積極的に取り入れています。また十分な安全性を確認した後、人が実際にその製品を使う場面でも製品に問題がないことを確認するために実使用評

価も行なっており、これらにより製品の安全性を確認しています。

動物実験代替法の技術開発に関しては、花王では1980年代後半から取り組んでいます。動物実験代替法はグローバルに広く使える公的な試験法であるべきと考え、国際的な試験法ガイドライン化に向けた取り組みを研究機関と連携して積極的に行なっています。また欧州化粧品工業会(Cosmetics Europe)が推進する動物実験代替法のプロジェクトにも参加しています。今後も、国内外の業界団体、他社等とも共同し、動物実験代替法の技術開発に積極的に取り組んでいきます。

※1 万一、社会に対して安全性の説明責任が生じた場合や、一部の国において行政から求められた場合を除きます。

※2 動物実験を行なう場合には、動物愛護での3Rs(Replacement, Reduction, Refinement)の基本理念のもと、その実施は最小限にとどめます。



→詳しくは「動物実験に対する方針」

www.kao.com/jp/corporate/sustainability/topics-you-care-about/animal-testing-policy/

教育と浸透

企業理念の全社浸透のため、花王の品質保証活動の拠りどころである「花王ウェイ」「花王 ビジネス コンダクト ガイドライン」に沿った研修等を行なっています。品質マインドの向上と医薬品医療機器等法やGQP(Good Quality Practice)/GVP(Good Vigilance Practice)省令等の法規

制に関する教育をさらに強化しています。GMP(Good Manufacturing Practice)基準や各種ISOなどの教育、生産部門での消費者・顧客からの指摘件数を指標とする花王独自のQCサークル活動も継続しています。品質保証活動方針の浸透・徹底を図るため、日々の品質保証活動や品質向上検討会を通じて、品質教育や啓発も行なっています。海外赴任予定者や海外の現地社員への教育も強化し、グループ全体でのレベルアップに取り組んでいます。優れた品質保証活動を表彰するなど、モチベーションの向上も図っています。

ステークホルダーとの協働／エンゲージメント

お客さまの声を“よきモノづくり”へ活用

花王では、お客さまから寄せられた声を「花王エコシステム」を通じて社内ですぐに共有し、商品や情報・サービスの改善に活かしています。

委託先との協働

社外の委託先や原材料メーカーなどとは、品質関連会議を開催して消費者・顧客起点の品質向上活動を進めています。今後はさらに幅広くパートナーの皆さまと協働して消費者・顧客起点の品質保証活動を展開していきます。

業界としての取り組みに参加

花王は、世界各地どこでも安心して商品をお使いいただ

品質保証 102-20,102-43,103-2

けるよう、各国・地域で業界活動に積極的に参画し、商品の品質・安全性に関する各国・地域基準との調和を図るとともに、新たな規格や試験法の設定、化学物質の管理などについての国際的な取り組みなどで、精力的に活動しています。

体制

花王では、商品開発から発売後まで、研究開発～マーケティング～生産～物流～販売に至るグループ貫の全社活動による品質保証マネジメント体制をとっています。

商品発売に際しては、探索～技術開発～商品化～生産の各段階での品質確認と、総合的なエビデンス検証のゲート管理を導入しており、高い安全性と品質を十分確保しています。

発売後は、消費者・顧客の声を真摯に受け止め、絶えざる品質向上を追求する全社活動を推進し、常に公正で透明性の高い企業活動を行ない、社会的責任を果たせるように努めています。

このように花王は、日々“よきモノづくり”に努めていますが、予期せぬ重大な安全性や品質に関するトラブルが発生する可能性はゼロではありません。そのため、「花王グループ緊急重大問題対応体制」を定めており、国内外の花王グループ各社もこの体制を強化しています。

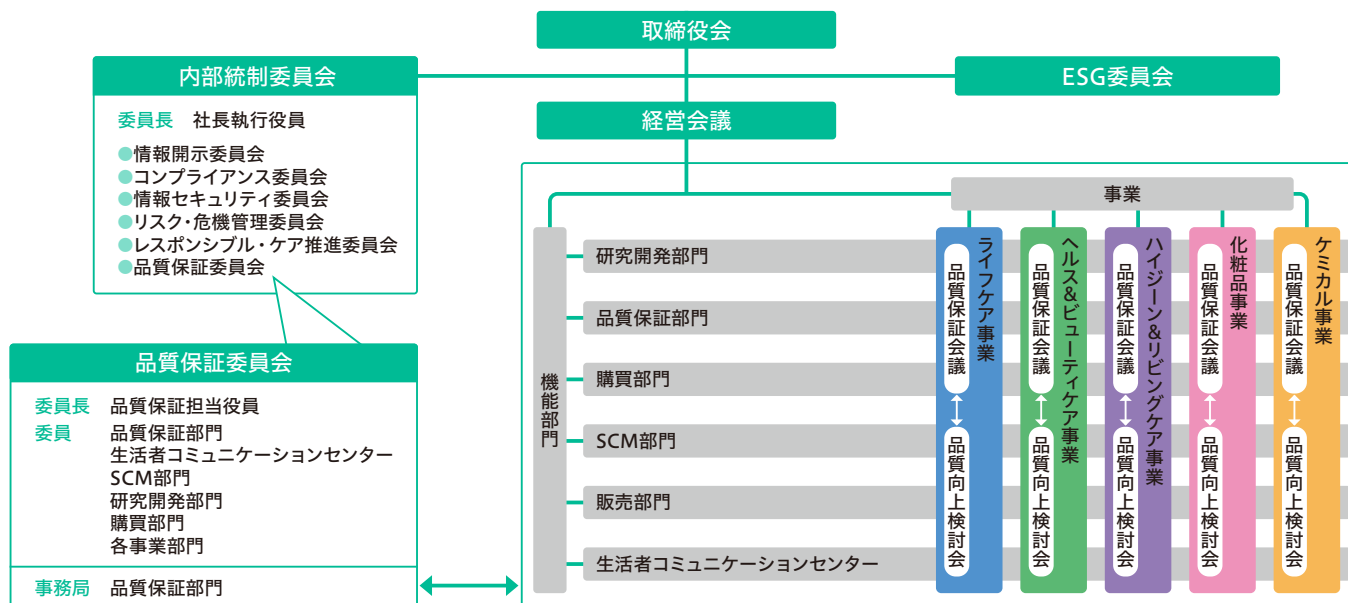
一方、内部統制システムを含むコーポレート・ガバナンス体制を整備しており、社長執行役員を委員長とする内部統制委員会の下部組織として品質保証委員会を設置し、年4回開催しています。品質保証委員会では、全社品質保証活

動の有効性と信頼性を確認しています。品質保証委員会で決まった方針に従い、各事業分野で年1回、品質保証会議を開催し、品質保証活動方針や品質課題、品質保証活動の進捗などを確認しています。

さらに、毎月の品質向上検討会では、事業部門の責任者のもとに関連部門(事業・研究開発・品質保証・購買・SCM・販売・生活者コミュニケーションセンター)が一堂に会してお客さまの声を検討し、商品や情報・サービスの改善に活か

します。おむつ、サニタリー、化粧品の分野から日中合同での品質向上検討会を開催してきています。今後は、欧米のグループ会社の品質保証活動を強化するため、各社との連携強化を推進していきます。これらの全社活動を花王品質保証部門が統括・推進しています。常務執行役員が部門統括責任者となり、経営会議などで定期的な活動報告を行ない、重要課題については適時報告を行なっています。また、経営の重要課題全般に対する審議に参画しています。

品質保証体制



※2021年1月現在

中長期目標と実績

中長期目標

1. 徹底した消費者・顧客起点と、総合力と、花王の資産の最大活用により、世界最高レベルの品質を追求します。
2. 「正道を歩む」を貫く品質保証活動により、消費者・顧客・社会への責任を果たし信頼性を高めていきます。
3. グローバル化、情報化への戦略的対応モデルやeコマース、新領域・新事業の品質保証体制を構築します。

事業インパクト

- ・ 各国・地域の法規制の変化や安全性・環境問題に対する要求を先回りした、代替技術の開発による競争力確保や、グローバル化に伴うサプライチェーンの多様化に対する戦略的品質保証体制の構築による海外事業の拡大
- ・ 消費者、顧客、行政、NGO／NPO などすべてのステークホルダーとの緊密なコミュニケーションを通じた信頼性構築によるロイヤルユーザーの増加

社会的インパクト

- ・ 社会情勢や自然環境が大きく変わる中、環境、健康、高齢化、衛生などの社会的課題の解決に向けてESG よきモノづくりを推進し社会のサステナビリティに貢献。高齢化や訪日・在日外国人の増加に対し、ユニバーサルデザインの推進や多言語情報の提供などで製品事故リスクを低減し、より安全・安心な消費生活を実現

2020年の実績

実績

新型コロナウイルス感染症への対応

手指消毒剤をグローバルで供給するために申請対応に注力

コロナ禍で需要が増加した衛生関連商品(例:手指消毒剤、ハンドソープ等)をグローバルに迅速に供給するため、以下の対応について関連部門と協働し推進しました。

①日本製品の各国・地域への緊急輸出対応

アジアの各国・地域の法規担当メンバーと連携し各国法規規制に準じた適切な手続きを推進することにより、各衛生関連商品の緊急輸出を実現しました。

②タイでの手指消毒剤発売支援

タイでの新型コロナウイルス感染症の対応として、手指消毒剤規制変更に伴い、いち早い準備を行なうことで、通常準備期間の3分の1程度での生産・発売に貢献しました。

「花王エコシステム」の活用による、より迅速な改善活動

世界の生活者から寄せられた声を「花王エコシステム」に集約して解析することで、ボーダレスに流通する商品の品質保証活動を強化しています。

2019年の花王、カネボウ化粧品アジア各社への導入に続き、2020年にはヨーロッパのカネボウ化粧品子会社に導入しました。

販売部門等と協働で越境EC製品の危険物情報の迅速提供

越境ECで扱う製品は、花王グループだけでなく取引先からの輸出も種類・量ともに増加しています。その増加に伴い取引先からの「国際ルールに基づく輸送上の危険物情報(UN危険物)」に関する問い合わせに対し、正確かつ迅速な情報提供が求められています。

そこで、越境ECの輸出運用の徹底化を図るため、法規担当部門と販売部門で協働し、輸送上の危険物情報(UN危険物)を製品ごとに共有し管理することで、取引先からの問い合わせに応じた書類を提供するなど、タイムリーな危険物情報提供を実施しています。

消費者志向宣言フォローアップ活動の継続実施

2017年1月、「消費者志向宣言」を公表しました。花王の企業理念である「花王ウェイ」のもと、経営トップのコミットメントを全社員に浸透させ、コーポレート・ガバナンスを確保し、消費者の満足を実現します。また、社会のサステナビリティに役立つ商品とブランドを提供する“よきモノづくり”を全員参加で行なうことで、消費者の声を真摯に受け止め、製品

やサービスの改善に活かし、消費者の立場にたった情報提供や、消費者と積極的に交流することを宣言しました。2020年も、宣言に沿って前年の活動報告をまとめ、公表しました。

全社品質保証活動の推進

- ・品質保証活動教育
国内:のべ33部署、3,379人
- ・GMP(Good Manufacturing Practice) 基準や各種ISOなどの教育:528回
- ・品質向上検討会:212回(国内114回、海外98回)
- ・QCサークル活動:改善テーマ272件(国内101件 海外171件)

直近4年間のリコール状況※

年	2017年	2018年	2019年	2020年
件数	0	0	0	0

※ 社告を伴う消費者・流通からの商品回収

実績に対する考察

グローバル化に伴うサプライチェーンの多様化による品質保証活動の広がり、消費者対応力の低下などの課題に対応し、世界中の生活者の声の一元的な集約と活用、消費者・顧客への適切な情報の提供を実施しました。

各国・地域の法規制の変化に対応し、迅速な法適合確認など、グローバル化に対応した全社品質保証活動のレベルアップを計画通り推進しました。

新型コロナウイルス対応として、手指消毒剤の迅速なグローバル供給確保のための法適合確認、消費者・顧客への正しい情報の提供を実施しました。

今後も、品質保証監査、品質に関わる教育体系の充実など、グローバル化に伴う課題に取り組んでいきます。

具体的な取り組み

消費者・顧客起点の 全社品質保証活動

品質情報基幹システムの再構築

安定した品質の製品を供給するためには、原材料の受け入れ、製造・検査、出荷管理といった各工程での品質管理が不可欠です。

花王の生産工場では、この品質管理の基本となる「品質情報基幹システム」をこれまで各国・地域ごとに異なる仕組みを使い行なっていましたが、さらなる管理の効率化に向け、システムと業務のグローバル標準化を行ないました。現場活動を通して培ってきたノウハウを取り込み、品質トラブル未然防止のための源流管理・トレンド管理を強化しました。

2018年から委託先工場を含む日本国内への一斉導入を皮切りに、システムの仕様等が異なる海外では各国・地域の品質およびシステム部門のメンバーと協働して業務フローの標準化を行ない、2020年はアジア、メキシコへの導入を完了しました。

従業員の声

“Q-1”を合言葉に

品質情報基幹システムを再構築

上原 武文

技術開発センター
基幹技術グループ
品質技術



システム導入後のラップアップミーティングにて“Q-1”ポーズをするグローバルメンバー

品質情報基幹システムを再構築するには、これまでの各国・地域で異なる業務フローやシステムを標準化させる必要がありました。そこで、システム担当と経験値の高い工場側のユーザー代表が入念な基本設計を行ない、まず国内で若手社員とともにシステムを開発・導入しました。さらに海外では、各国・地域の工場の若手がリーダーとなり、グローバルニーズとローカルニーズの両方を考慮し、展開しました。

システムと業務をひとつにするという想いと、自動車レースの最高峰であるF1の名にちなみ、“Q-1プロジェクト”と名付けました。すべての関係者がOne Teamとなり再構築したこのプラットフォームを活用して、今後も、世界最高レベルの品質をめざした活動を続けていきます。

品質保証教育プログラムの強化

品質マインドの向上と品質保証業務に関する知識習得を目的とした品質保証活動教育を、モノづくりに関わるすべての組織を受講対象として毎年行なっています。

2020年は、誰もがいつでも質の高い品質保証教育を受けられることを狙いに、eラーニングによる教育システムを開発し、運用を開始しました。本システムでは、確認テストを導入し、法令や社内規程の理解レベルを常に評価・監視することができます。薬機法関連業務に携わる部署の1,718人が受講完了しました。また、基礎と部署ごとの課題をテーマとした実地による教育も継続して実施しています。

監査・自己点検による品質保証活動の確認

花王では、日本のほかアジアや欧米のグループ会社もISO9001やGMPの認証を維持するとともに、外部監査・内部監査、委託製造先や原材料メーカーに対する自主監査、品質会議を行なっています。また、品質保証監査・自己点検の体系強化として、品質保証部門だけでなく、他部門も含めたメンバーで構成する品質監査推進会議を開催し、監査テーマを設定しながら監査活動を推進しています。

2020年は花王グループ国内8工場について、GMP適合性に関わる内部監査を行ない、内部統制委員会で報告しました。また日本・アジア・欧米のグループ会社に対する前年の外部監査の実施状況を品質保証委員会で報告しました。



→ ISO等認証取得一覧

www.kao.com/jp/corporate/sustainability/our-approach-to-klp/environment-activity-data/certification/

アジア各国・地域で発売する商品の開発プロセスの改善

グローバル化に伴い、アジアで生産・販売される商品の品目・数量が増加しています。そこで、アジア各国・地域で発売する商品の開発プロセスにおける各種手続きについて標準化を行ないました。文書作成作業の負荷低減により業務効率を改善し、記録管理を強化します。

花王では事業・リージョン(または国・地域)別に24の情報セキュリティ委員会(ISC)を配置しています。このISCが共通の方針や規程、ガイドラインを制定し、機密情報(トレードシークレット(TS))・個人情報およびハードウェア・ソフトウェア・各種データファイル等の情報資産の保護を目的とした活動を展開しています。

ESG キーワード

サイバーセキュリティ対策

機密情報の保護

個人情報の保護

情報資産の保護

GDPR 対応

インシデント対応体制

ウェブサイトの脆弱性診断

在宅勤務時のセキュリティ対策

社会的課題と花王が提供する価値

認識している社会的課題

各企業はITを活用して事業や業務を効率的に進めるとともに、データ活用によりビジネスの革新・改革を進めています。これにより、業種を超えた新たな成長分野の創出や多様な人材の確保が進んでいます。一方近年、サイバー攻撃により事業活動の一時的中断や情報漏洩による業績の悪化のリスクが高まっており、サイバーセキュリティ対策が社会的課題となっています。

また、コロナ禍で在宅勤務が普及し、在宅勤務時を含めた情報管理やセキュリティの確保が課題となっています。

花王が提供する価値

花王は、自社が経験したサイバー攻撃について情報共有ネットワークを通じて業界企業に共有することにより、業界全体のセキュリティ対策の向上に貢献したいと考えています。そのため、独立行政法人情報処理推進機構(IPA)の「サイバー情報共有イニシアティブ(J-CSIP)」、警察庁の「サイバーインテリジェンス情報共有ネットワーク」、JPCERT/CCの「早期警戒情報」に参加しています。

「2030年までに達成したい姿」の実現に関わるリスク

サイバー攻撃による生産活動・販売活動・マーケティング活動・研究開発活動の長期間の停止や、情報漏洩による企業信頼の失墜は大きなリスクの一つです。

「2030年までに達成したい姿」の実現に関わる機会

サイバーセキュリティ対策やTS・個人情報といったデータ管理を強固にすることで、新たなデータ活用の実現やネットワークを介した多様な働き方を可能とします。

貢献するSDGs



方針

花王は、「情報セキュリティポリシー」「機密情報取扱いガイドライン」「個人情報取扱いガイドライン」「ITセキュリティガイドライン(管理者編)(ユーザー編)」を制定して、サイバーセキュリティ対策やTS・個人情報の管理を徹底しています。

これらは、法令や各省庁・委員会のガイドラインに準拠するだけでなく、花王としての管理体制・管理方法を明確にしています。

個人情報の取り扱いについては、「花王グループ会社の個人情報保護指針」にて公表しており、お問い合わせ・苦情の受付についても「花王グループ会社の保有する個人情報に関するお問い合わせ・苦情受付窓口」で窓口を公表しています。2020年に個人情報に関するクレームはありませんでした。



→花王グループ会社の個人情報保護指針
日本語版
www.kao.com/jp/corporate/privacy/

英語版
www.kao.com/global/en/privacy/

EMEA 向け (GDPR 準拠)
www.kao.com/emea/en/privacy/

→花王グループ会社の保有する個人情報に関するお問い合わせ・苦情受付窓口
日本語版
www.kao.com/jp/corporate/privacy/privacy-contact/
EU 向け (GDPR 準拠)
www.kao.com/global/en/EU-Data-Subject-Request/

教育と浸透

社内教育はTSや個人情報の基礎知識の周知徹底を目的に各部門での実施を基本としています。そのため、各部門のTS推進委員・個人情報管理責任者に対してTS・個人情報の保護に関わる情報セキュリティについての講演や最新動向の周知を行ない、各部門での教育のための啓発資料を提供しています。

全社員向けには社内ポータルサイトによる啓発資料の掲載やタイムリーな注意喚起も行なっています。さらに、社内教育の浸透度を測るために、自己点検によるチェックを行なっています。自己点検によるチェックで課題を抽出し、改善目標を設定、改善活動を推進しています。

海外では各ISCが啓発や自己点検の実施計画を作成し、実施しています。

ステークホルダーとの協働／エンゲージメント

化学製品製造業者等により構成される業界団体である一般社団法人日本化学工業協会の「情報セキュリティ対応部会」に参加することで、日本の化学業界での情報セキュリティの向上に貢献しています。

また、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）が主催する「サイバー情報共有イニシアティブ（J-CSIP）」と、警察庁が主催する「サイバーインテリジェンス情報共有ネットワーク」の2つのサイバー攻撃に対する情報共有ネットワークに加

えて、2017年からJPCERT/CCが提供する「早期警戒情報」にも参加しました。

これらの情報共有ネットワークからソフトウェアの脆弱性情報やサイバー攻撃の情報を入手するだけでなく、花王が受けたサイバー攻撃の情報を開示・共有することで、日本のサイバーセキュリティ対策に貢献しています。

体制

情報セキュリティの管理体制

日本では、情報セキュリティ委員会（ISC）委員長と委員長代行に執行役員を配置し、人財開発、情報システム、マーケティング、研究開発、知的財産、生産技術、法務・コンプライアンス等の多様な部門から委員と事務局を選出し、多様な観点で方針の決定やルールの整備、管理体制の整備、啓発活動の実施を推進しています。

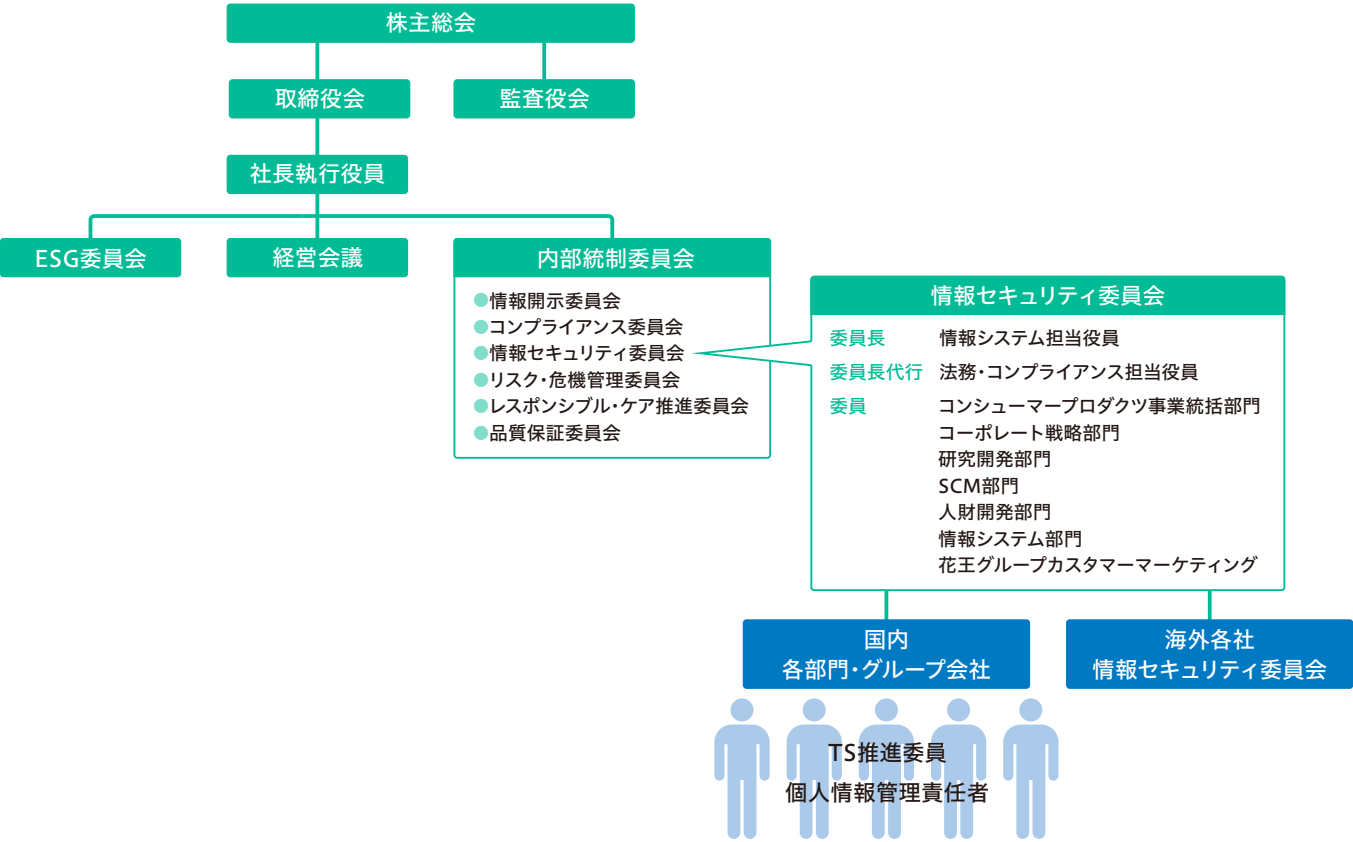
ISCは内部統制委員会に活動報告しており、内部統制委員会が取締役会へ傘下の委員会の活動報告をまとめて行ないます。報告は、本年度の活動目標とその進捗および実績評価で、第4四半期には翌年の活動目標もあわせて報告されます。

海外では、各社の経営会議メンバーがISCを構成し、日本のISCの傘下に海外の各ISCを配置する形になっています。活動は日本と同様に四半期単位のPDCAサイクルによる活動で、3月には日本のISCヘレポートの提出を義務付けています。

情報セキュリティ委員会（ISC）設置状況

部門	番号	会社・リージョン
本部 コンシューマープロダクツ	1	花王（株）
	2	花王中国グループ
	3	花王（台湾）
	4	花王プロフェッショナル・サロン・サービスズ（台湾）
	5	花王（香港）
	6	花王プロフェッショナル・サロン・サービスズ（香港）
	7	花王タイ
	8	花王コンシューマープロダクツ
	9	花王（インドネシア）
	10	花王（シンガポール）
	11	花王（マレーシア）
	12	花王（ベトナム）
	13	花王コンシューマープロダクツ（EMEA）
ケミカル	14	花王コンシューマープロダクツ（アメリカ）
	15	花王ペナンググループ
	16	ピリピナス花王
	17	花王インドネシア化学
	18	花王コーポレーション（スペイン）
	19	ドイツ花王化学
	20	キミ花王
	21	花王チミグラフ
	22	花王ケミカルスアメリカス
	23	花王コリンズ
カネボウ	24	台湾カネボウ化粧品
	25	タイカネボウ化粧品
	26	カネボウコスメティックスマレーシア
	27	カネボウコスメティックスコリア
	28	カネボウコスメティックスロシア

情報セキュリティの管理体制



※2020年12月現在

日本のISCへのレポートフォーマット

No.	項目	内容
1	自己啓発活動	全員を対象に行なうこと。啓発内容や対象者を記述する。
2	自己点検	自己点検内容や回答者を記述する。回答者は以下のどのパターンか？ ・従業員を部門ごとにサンプリングして回答者を選定 ・マネージャが部門の状況を把握して回答 ・その他
3	改善目標設定・実施	自己点検の結果、成績の悪い項目を改善目標に設定し、改善計画を記述する。
4	事故発生件数	機密情報の盗難・紛失・誤送信による漏洩や情報機器の盗難・紛失の件数を種類ごとに記述する。 詳細は事故報告書に記述する。
5	個人情報に関する情報	個人情報の保有件数、個人情報に対するクレーム件数、個人情報の削除要求件数を記述する。
6	その他	TS・個人情報、サイバー攻撃に関する報告があれば記述する。

情報セキュリティ 102-20,103-2

インシデント対応体制

サイバー攻撃や情報漏洩等のインシデントが発生した場合に備えて、インシデント対応の体制を整備し、被害を最小限に抑える備えをしています。実際にインシデントが発生した時に備え、机上での訓練を年に複数回実施しています。

花王のインシデント対応のメンバーと役割

名称	メンバー	役割・タスク等
経営幹部	・代表取締役 ・監査役	・重大なインシデントの把握 ・対応策、公表、再発防止策の判断・承認
リスク・危機管理委員会	・委員長 ・事務局	・サーバー攻撃/個人情報保護対応チームからエスカレーション
緊急対策会議 CSIRT (Computer Security Incident Response Team)	・ISC 委員長 ・ISC 委員 ・ISC 事務局 ・危機管理・RC 推進部 ・社員サービス部 ・広報部 ・生活者 CC ・MK プラットフォーム部 ・主管部門	・インシデントの把握と対応 ・即時対応:ネットワーク遮断、サーバ停止、アカウント停止等の判断 ・経営幹部への報告: 即時対応策、再発防止策の検討・報告・実施、ステークホルダー、外部関係機関への開示の判断
SOC (Security Operation Center)	・情報システム部門:ネットワーク、サーバー、セキュリティサービス ・広報部:マスコミ対応、ニュースリリース作成 ・危機管理・RC 推進部:SNS 監視 ・カスタマーサクセス部:会員・キャンペーンサイト管理 ・生活者 CC:外部からの通報管理 ・ISC 事務局:警視庁、IPA、JPCERT/CC からの通報管理	・各種の監視を行ない、異常値を検出。異常値が検出された場合、CSIRT へ報告、原因調査、技術的対応実施 ・外部からの通報を受け、事実確認を行ない CSIRT へ報告
ステークホルダー/ 外部関係機関	・取引先 ・従業員 ・消費者 ・マスコミ ・監督機関 ・警察 ・IPA ・JPCERT/CC ・情報共有ネットワーク	・ステークホルダーへの情報開示、監督機関への報告 ・警察、IPA、JPCERT/CC への援助要請 ・情報共有ネットワークへの情報提供

※ 危機管理・RC 推進部:危機管理・レスポンスブルック推進部、生活者 CC:生活者コミュニケーションセンター、MK プラットフォーム部:マーケティングプラットフォーム部

花王のインシデント対応フロー

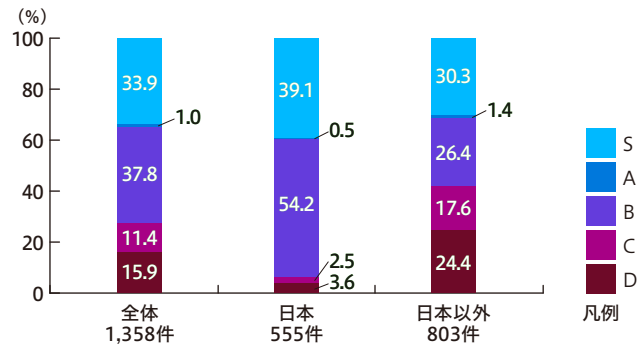
	検知	把握	対応
経営幹部・監査役 リスク・危機管理委員会			・報告 ・対応策公表 ・再発防止策等承認
情報セキュリティ委員会 (ISC:Information Security Committee)			・対応策公表 ・注意喚起公表 ・再発防止策公表 ・問合せ対応等検討準備
緊急対策会議			
SOC (Security Operation Center)	・モニタリング ・従業員から通報 ・外部から通報 ・SNS 書込み	・事実把握 ・緊急度判断 ・緊急対策会議 ・幹部報告準備 ・外部に支援要請	・対応策公表 ・注意喚起公表 ・再発防止策公表 ・問合せ対応実施
ステークホルダー (外部関係機関、セキュリティ会社)		・警察、IPA、JPCERT/CC に支援要請 ・契約先と連携	・注意喚起公表 ・被害届の提出 ・情報共有

ウェブサイトの脆弱性診断

花王のウェブサイトの脆弱性診断を行ない、サイバー攻撃に利用されるような未対応な脆弱性が存在しないか確認し、存在した場合はいち早く問題を解決しています。たとえば、サポートを終了したソフトの更新といった対応で解決しています。

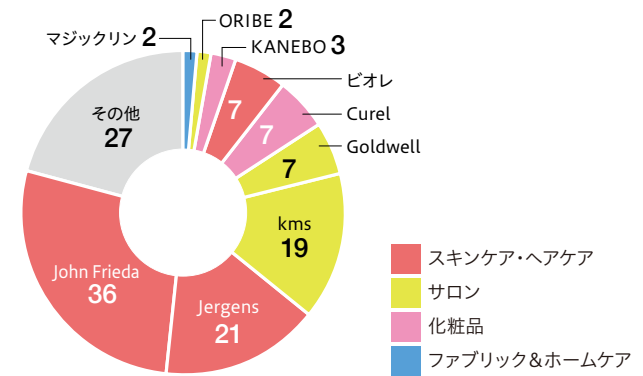
欧米サロン系ブランドを中心に改善傾向が見られます。

ウェブサイトの脆弱性診断(2020年)



レベル	優先度	脆弱性例	想定リスク
S	なし	問題検出なし	
A	参考	サーバ証明書の設定不備	利用者のウェブサイトに対する不信感 ウェブサイトのレピュテーション低下
B	低	不要なポートの開放 プロダクトバージョン情報の露呈 SSL暗号化設定の不備	攻撃に利用される危険性 攻撃の有益な情報として利用 利用者の通信を盗聴
C	中	メンテナンスポートの開放	攻撃を受ける可能性の増加
D	高	危険性の高い脆弱性が報告されているプロダクトの利用 サポート終了したプロダクトの利用	プロダクト脆弱性の悪用

対応したブランド



対応したドメイン

ドメイン	ランクC/D数	国・地域
ca	6	カナダ
nl	4	オランダ
us	4	アメリカ
org	3	—
kr	3	韓国
cm	3	カメルーン
eu	3	EU
br	2	ブラジル
mobi	2	—
be	2	ベルギー
ch	2	スイス
nz	2	ニュージーランド
dk	2	デンマーク
fi	2	フィンランド
no	2	ノルウェー
se	2	スウェーデン
ie	1	アイルランド

中長期目標と実績

中長期目標

- ・サイバーセキュリティ対策を含めたTS・個人情報およびハードウェア・ソフトウェア・各種データファイル等の情報資産の保護
- ・情報漏洩事故等、緊急事態発生時の事実確認、対応決定、再発防止策策定と実行

中長期目標を達成することにより期待できること

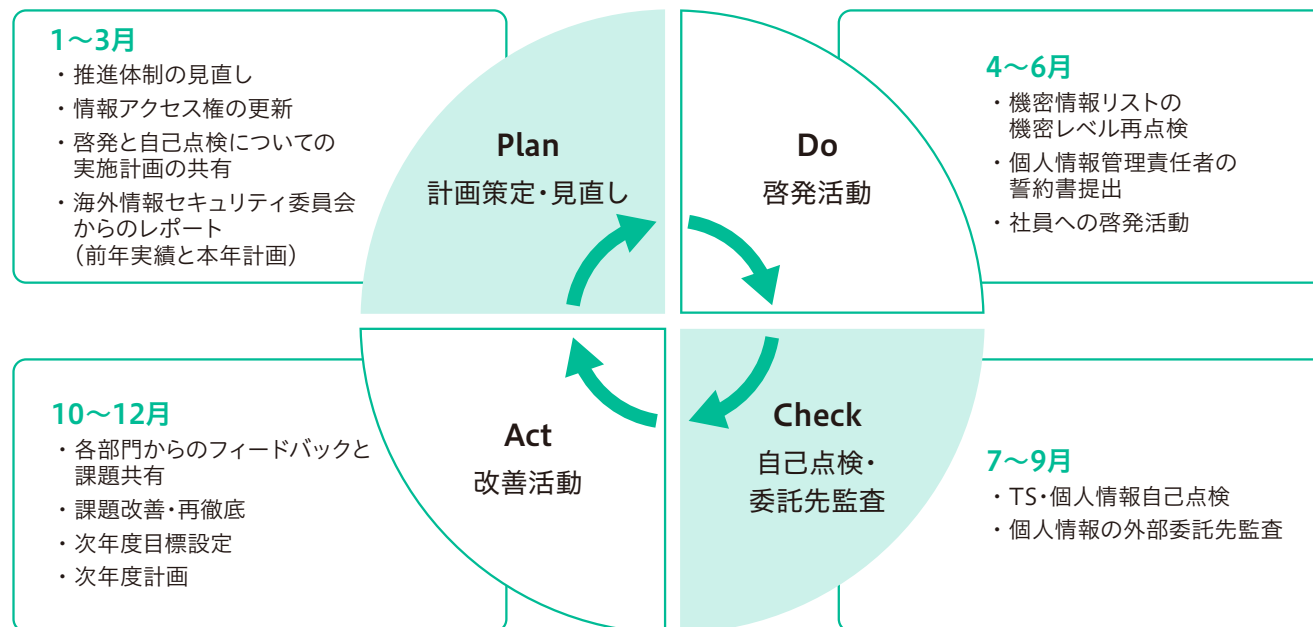
事業インパクト

サイバーセキュリティ対策により、TS・個人情報の漏洩・流出を防ぐことができれば、漏洩・流出が発生した場合の対応コストを低減できます。また、TS・個人情報の漏洩時対応が確立されていれば、被害を最小限に抑えることができます。

社会的インパクト

サプライチェーン全体に対してサイバーセキュリティ対策を実施することで、業界全体・日本企業全体のサイバーセキュリティの向上の一端を担うことになります。

情報セキュリティ活動のPDCA



2020年の実績

実績

日本のPDCAサイクルによるTS・個人情報保護推進活動は以下の通りです。

Plan:計画策定・見直し

- ・推進体制の見直し、情報アクセス権の更新
 - TS推進委員59名、個人情報管理責任者71名の見直し
- ・機密情報リストの見直し
 - 日本の105部門・部署・関係会社で見直し
- ・啓発と自己点検についての実施計画の共有
- ・海外情報セキュリティ委員会(ISC)からのレポート(前年実績と本年計画)

Do:啓発活動

- ・機密情報リストの機密レベル再点検
- ・個人情報管理責任者の誓約書提出
- ・社員への啓発活動
 - 日本の113部門・部署・関係会社で啓発活動実施

Check:自己点検・委託先監査

- ・TS・個人情報自己点検
 - 3月から在宅勤務が長期化したため、TS自己点検実施前に再度以下の設問を見直し
- ・在宅勤務で機密情報を保管
- ・在宅勤務で機密情報の印刷の必要性

- 日本の124部門・部署・関係会社でTS自己点検実施
- 日本の109部門・部署・関係会社で個人情報自己点検実施
- ・個人情報の外部委託先監査
 - 190社に対して個人情報委託先書面監査を実施

Act:改善活動

- ・各部門へのフィードバックと課題共有
 - 在宅勤務や外出自粛・飲食店の営業自粛の効果でTS・個人情報の事故は半減
 - 在宅勤務によるメールの誤送信、郵便の誤送付が増加
- ・課題改善・再徹底・次年度目標設定
 - 在宅勤務での機密情報管理の徹底
 - メールや郵送時の宛先間違いの防止

花王において、TS・個人情報保護を含めた情報セキュリティに関して重大な事故の発生はありませんでした。また、「問合せ窓口」に寄せられた個人情報に関する苦情はありませんでした。

実績に対する考察

TS・個人情報の保護推進活動は、毎年、継続的に行なう必要があります。TS・個人情報の保護を十分に理解している人でも、数年経つと知識が曖昧になり、事故を起こすリスクが高まります。新入社員やキャリア採用の方を含めた全従業員が花王のTS・個人情報の保護ルールを理解し、実践することが大切です。

また、このTS・個人情報保護推進活動をグローバルに拡大するための体制整備を行ない、活動のレポートを年1回3月に提出するようにしました。今後、情報開示できるように海外での活動を取りまとめていきます。

具体的な取り組み

第1四半期：計画策定・見直し

日本の情報セキュリティ委員会(ISC)活動目標策定

2020年のISC活動目標を以下のように策定し実施しました。

①海外各社へISCの展開

- ・日本へのレポート提出(PDCAサイクルの活動等)(3月)
→23のISCから提出
- ・適時の注意喚起発信
→一部のオンライン会議ツールについて注意喚起実施(4月)

②個人情報管理強化

- ・海外各社に個人情報管理ツールの導入
→8月にEUで本稼働

③各国・地域の個人情報保護法対応の確認(CCPA等)

→海外法対応で新たな活動開始

④インシデント発生時に復旧計画の整備

→4月にインシデント発生時に復旧実施済

⑤PDCAサイクルによるTS・個人情報保護推進活動の実施

→11月TS・個人情報保護推進会議で改善目標設定

第2四半期：啓発活動

オンライン会議ツールの注意喚起

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、花王では多くの社員が在宅勤務に切り替わりました。それによりオンライン会議ツールの使用機会が増えましたが、一部のオンライン会議ツールにセキュリティ上の問題があることが判明し、情報の漏洩リスクやPCへの不正アクセスの可能性があることから、社員へ使用を禁止する注意喚起を行いました。後にソフトウェアアップデートでセキュリティリスクが解消された時点で利用禁止を解除しています。

このように、世の中で起こっている事象にも注意を払い、花王のセキュリティを守る活動を行っています。

第3四半期：自己点検・委託先監査

TS・個人情報保護の自己点検

TS自己点検では、啓発活動の実施、部門マニュアルの整備、TS表示の実施、機密情報の管理について徹底を図るため、毎年状況を確認しています。2020年は7月21日から8月21日に実施しました。

個人情報自己点検も同様に、啓発活動の実施、個人情報の保有、個人情報に関する業務の委託の有無、個人情報の管理について、TS自己点検と同時期に実施しました。2020年11月16日の全体会議「TS・個人情報保護推進会議」で自己点検のフィードバックを行ない、改善目標を設定しています。

改善目標は、「在宅勤務での機密情報管理の徹底」と「メールや郵送時の宛先間違いの防止」と設定しました。機密情報の取扱いについて日本は「花王機密情報取扱いガイドライン」、海外は「Global Trade Secret Regulation」という規定があり、これに基づいて機密情報を管理しています。

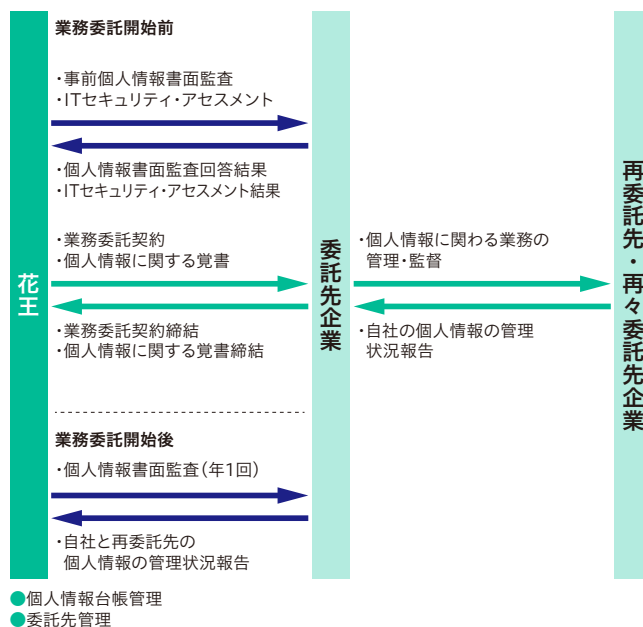
在宅勤務でオフィスの外で勤務する場合でも規程を遵守することが求められます。また、オフィスであれば複数メンバーでチェックすることもできますが、在宅勤務では一人で業務を行なう場面が増加します。そのような場合こそ、単純ミスを防ぐために再確認等の防止策が求められます。

個人情報委託先監査

花王は個人情報に関する業務を委託する場合、委託先が個人情報を安全に扱えるか事前の監査を行なっています。ウェブキャンペーンのようなシステムを委託先が提供する場合は、ITセキュリティ・アセスメントも行なっています。この委託先の個人情報事前監査とITセキュリティ・アセスメントに合格しないと、委託契約の締結は行ないません。

また、花王は毎年継続的に個人情報委託先監査を行なうことで個人情報の委託先の管理・監督をしています。2020は190社に対して個人情報委託先監査を実施し、個人情報の管理状況、委託先の個人情報保護の体制を確認しました。個人情報を委託先に保管している場合は、件数を確認し、個人情報取扱い台帳システムに登録しているデータ件数と整合性をチェックしています。

個人情報に関わる業務の委託と委託先監査



第3四半期：アナウンス

在宅勤務における印刷ルールの制定

2020年3月から在宅勤務における印刷ルールについて検討していましたが、5月の緊急事態宣言解除で出社可能となったために社内へのアナウンスを停止していました。しかし、また7月中旬にコロナ感染者が拡大したことで在宅勤務へ再度シフトしたため、8月に在宅勤務での印刷を部門判断で許可するアナウンスを行ないました。これにより、印刷のためだけに出社するような事態を回避し、社員の感染リスクを低減しました。

第4四半期：改善活動

「第27回TS・個人情報保護推進会議」を開催

2020年11月16日に「第27回TS・個人情報保護推進会議」を開催しました。コロナ禍での開催ということで、初めての全面的なオンライン会議での開催となりました。例年は外部の講師を招いて機密情報・個人情報・セキュリティに関する講演を行ない、各部門での啓発活動のトピックスに活用していました。今回は、警視庁やIPAといったセキュリティに関わる組織が作成している啓発動画を各自で鑑賞してもらい、ポイントを確認するという試みで行ないました。続いて、2020年のTS・個人情報に関する事故の総括、TS・個人情報自己点検のフィードバックを行ない、改善目標を設定しました。

花王は、戦略的デジタル・トランスフォーメーション(DX)を推進しています。場所や時間にとらわれないコミュニケーションを可能とするデジタルの力を味方につけて、お客さまに対しては「よきモノ」の価値をよりタイムリーでカスタマイズした形でお届けし、社員に対しては創造性を高めるソリューションを提供することをめざしています。

ESG キーワード

デジタルトランスフォーメーションのターゲット領域

AIの活用

業務効率化(業務能率化)

皮脂RNAモニタリング技術

社会的課題と花王が提供する価値

認識している社会的課題

2030年までに予想される「世界の社会・経済をめぐる環境変化」のうち、特にDXに関連するものとして以下を認識しています。

- ・第4次産業革命をめぐるグローバル競争の激化
- ・シェアリング・エコノミー(共有型経済)の進展
- ・世界的な人口移動・人材獲得競争
- ・世界的な資金移動の変化
- ・資源・エネルギー・水・食料の大幅な需要増加
- ・サイバーセキュリティ上の脅威の増加

花王は、創業以来の価値創造活動“よきモノづくり”が、DXを通じてKirei Lifestyle Planに沿った生活者・顧客一人ひとりに寄り添うカスタマーエクスペリエンス(CX)となるにとらえています。DXに関連する環境変化に注視し、生活者・顧客をはじめとしたすべてのステークホルダーに価値を提供していきます。

花王が提供する価値

DXを進めることは、生産性を高め、業務効率を改善するだけでなく、顧客からの評価向上、新規顧客の獲得にもつ

ながると考えています。生涯にわたり人間の生活に関わる企業だからこそ提供できる価値を訴求し、新たな生活文化を創造していきたいと思っています。

貢献するSDGs



方針

戦略的DXを推進し、先端技術を活用したビジネスの革新と業務の能率化を実現させ、ITツールと花王が持つビッグデータを学習させた人工知能(AI)を活用して、会社の生産性(=付加価値/コスト)を不連続に向上させます。2030年に向けて花王は、よりモノと情報が一体となったビジネスモデルや業務プロセスを主体としていくため、それに資するDXを推進します。

教育と浸透

社員がDXの効果を実感できるソリューションをクイックに投入するとともに、その内容を広く社員に周知することで、DXの自分ごと化を全社員に促しています。全社員を対象とした一律な教育ではなく、実際に課題を抱えている部門と一緒に具体的な解決策と一緒に開発・実装し、それをベストプラクティスとして全社展開するという方針で進めています。

ステークホルダーとの協働／エンゲージメント

取引先とは、単なる顧客とベンダーという関係にとどまることなく、重要なステークホルダーとしてDXを通じて、ともに社会的価値を創造できる関係をめざしています。取引先、研究機関、その他団体とのオープンイノベーションを推進しています。

デジタル先端技術戦略 102-20,103-2

体制

デジタル先端技術戦略の立案・実行はこれまで専務執行役員が統括する先端技術戦略室(SIT)が担っていましたが、各部門へのDXの浸透が進み、2021年からは次のような部門に移管された形で推進します。情報技術を支える③とユーザー部門である①および②のマトリクス運営により、下記4分野で常に出口を見据えたソリューション開発を進めます。

- ①コーポレート戦略部門(常務執行役員が統括)傘下の先端技術経営改革部およびデジタル事業創造部
- ②コンシューマープロダクツ事業統括部門(代表取締役常務執行役員が統括)傘下のDX戦略推進センター(常務執行役員がセンター長を兼務)
- ③情報システム部門(執行役員が統括)

能率化活用分野

デジタル技術を活用して、業務プロセスを抜本的に効率化するための戦略・戦術を提案・実装します。現存データをユーザビリティを高めた形で統合し、先端技術により高付加価値情報に転換を進めます。

情報戦略分野

デジタル技術の活用はもちろん、リアルな体験を含めた統合的な視点から戦略・戦術を立案し、社内外のステークホルダー(社員、顧客、株主、社会)とのコミュニケーションを刷新します。戦略・戦術にマッチした情報コンテンツを開発するための社外コンテンツパートナーを開拓し、ネットワークを構築します。

事業・販売分野

デジタル技術を活用した新しい事業や事業モデルを提案するとともに、事業モデルに適したスピーディーな商品開発プロセスを実現します。

IT設計管理分野

DXのための情報システム基盤の再構築とIT先端技術の導入・実装を行ないます。これによって3分野の活動を支えます。

デジタル・トランスフォーメーションのターゲット領域



デジタル先端技術戦略 103-2,103-3

中長期目標と実績

2021年目標

デジタル先端技術を、企業価値向上の必要不可欠な武器として駆使できるAI-readyな企業となることをめざします。

花王のコアバリューである“よきモノづくり”に先端技術を掛け合わせるにより、すべてのステークホルダー（社員、顧客、株主、社会）への価値提供レベルを向上させ、2030年においても「社員が充実して働ける花王」「社外から期待してもらえる花王」であり続けることをめざします。

中長期目標を達成することにより期待できること

事業インパクト

時間創出効果と金額効果を合わせた固定費抑制効果として25億円以上の効果を生み出す。

社会的インパクト

Kirei Life Planに沿って創造した価値を顧客・株主・従業員などステークホルダーに届ける、あるいは価値を共創するプロセスを高度化（高速、大容量、遠距離、One to One）する。

2020年の実績

実績

デジタル先端技術の活用によりさまざまな業務の能率化を進め、2020年は固定費抑制効果として約14億円を達成し、2年連続で10億円以上の業務能率化効果をあげることができました。ほとんどが抑制効果であるため損益上の直接的なインパクトとしては表現できませんが、時間創出効果としては20万時間以上に相当し、その分より創造的な業務に振り向けることができました。

一方、コロナ対策を機にデジタル活用による働き方改革を加速しました。生産従事者、店頭勤務者などを除く日本の拠点勤務の社員約1万5000人を対象に2月28日から原則在宅勤務とし、そのためのVPN回線の増強や、社長を含め全社員がオンライン会議ツールを徹底活用するなど、働き方を大きく変えました。現在は在宅勤務と出社を必要に応じて使い分けるフレキシブルなワークスタイルに移行していますが、感染拡大防止の徹底と業務能率の最大化にデジタル技術をフル活用しています。

研究統合検索システムから始まったAIによる自然文検索※の応用も広がりました。2020年は工場の運転員がオペレーションログを機械読解AIで自然文検索することにより、適切な情報に最短で辿り着けるシステムを構築しました。

※ 自然文検索

キーワードではなく、自然文（話し言葉、文章）で検索すること

検索ツールの画面イメージ



実績に対する考察

先端技術戦略室発足後3年が経過し、DXの各部門への浸透が進み、いくつかの成功事例を生み出すことができました。2021年は、より社員がデジタル先端技術を自分ごととして活用でき、企業文化醸成や企業価値向上との連動性を強化する必要があります。

具体的な取り組み

能率化活用分野

コロナ対策を機にデジタル活用による働き方改革を加速しました。生産従事者、店頭勤務者などを除く国内拠点勤務の社員約1万5000人を対象に2月28日から原則在宅勤務とし、そのためのVPN設備の大幅な増強や、社長を含む全社員がオンライン会議ツールを徹底活用するなど、働き方を大きく変えました。現在は在宅勤務と出社を必要に応じて使い分けるフレキシブルなワークスタイルに移行していますが、感染拡大防止の徹底と業務能率の最大化にデジタル技術をフル活用しています。

一方、研究統合検索システムから始まったAIによる自然文検索の応用も広がりました。2020年は工場の運転員がオペレーションログを機械読解AIで自然文検索することにより、適切な情報に最短で辿り着けるようなシステムを構築しました。

情報活用分野

戦略的デジタル・トランスフォーメーション(DX)を推進し、先端技術を活用したビジネスの変革と業務の能率化を情報活動で実現し、企業価値向上(事業業績、ESGなど)に貢献する活動を行ないました。BtoC(生活者)、BtoE(従業

員)、BtoS(社会)のデジタルコミュニケーション戦略の立案／実装を進めました。BtoCでは先端技術を活用した価値伝達やD2C事業モデル支援、BtoEでは主力商品のインナーブランディング、BtoSではイシューベースのコミュニティづくりを進めました。

事業・販売分野

“よきモノづくり”をデジタルで加速・発展させています。ネット販売やソーシャルネットワークを活用した調査・商品開発・販売などを、AIを活用することで一新していきます。知る(デジタル調査ツールの評価／導入)、創る(ストロングニッチ商品開発の体制構築)、届ける(クラウドファンディングを活用したECテストマーケティングのトライアル)、伝える(AI画像解析を用いた価値伝達手法の開発)の4側面で活動しています。

皮脂RNAモニタリング技術の実用化に向けたAI技術の活用

独自開発した「皮脂RNA(リボ核酸)モニタリング」技術※の実用化に向けて、株式会社 Preferred Networks (PFN) との協働プロジェクトを開始した。花王が持つ皮脂RNAから得られたデータに、PFNの「AI技術による予測モデル」を応用して将来の肌ダメージのリスク評価を行ない、遺伝

情報をもとに個人に合った美容アドバイスやスキンケアを提供する“肌状態にコミットする美容コンサルティングサービス”の構築をめざしています。

※ 皮脂RNA(リボ核酸)モニタリング技術

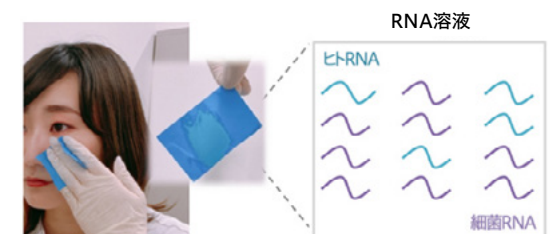
日々変動する体内状態を反映するRNAを皮脂から単離し、分析する技術。あぶらとりフィルムで皮脂を採取するという体への負担の少ない試験で約13,000種類のRNA発現量を得ることが可能

RNAモニタリング～皮脂採取、RNAの抽出、精製および解析の流れ

1. 皮脂採取



2. RNA抽出、精製



3. 皮脂中RNAの網羅解析

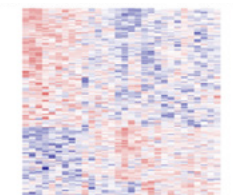
次世代シーケンサー
による網羅解析



ヒトのRNAだけを特異的に検出

4. データ解析

RNA発現情報のヒートマップ※



※15名分の皮脂RNA発現情報の
高低を色により可視化したもの

デジタル先端技術戦略 103-2

DX 浸透のために

これまで、「SIT 通信」のイントラネットへの定期的(概ね隔月)な掲載や、先端技術戦略室統括役員による、DX 浸透への協力の呼びかけなどを行ない、より現場の課題に即したソリューション開発が加速しました。

2021年からは、先端技術戦略室が担ってきた各機能(効率化、情報活用、事業・販売)が、ユーザー部門(事業部門、コーポレート戦略部門)に新設された新組織に移管されたことで、さらなるユーザー起点のDXが促進されると期待されます。

IT ベンダーとの協業

DX ソリューションを計画・実装するにあたり、計画段階から社外 IT ベンダーとの協業体制をとっています。特に、豊富な IT 技術を保有する総合 IT ベンダーの社員には先端技術経営改革部に常駐していただき、専門的なアドバイスを受けられるような体制をとっています。

また、顧客とベンダーという関係を超えて、ともに社会課題を解決する協業関係を志向した取り組みも進めています。

花王では、「知的財産(知財)を通じた事業と社会への貢献」を実現すべく、知的財産部と各研究所との協働により研究開発成果の保護と権利活用に取り組んでいます。

ESG キーワード

知的財産権(特許、意匠、商標)管理

職務発明の報奨制度

模倣品問題への対応

技術開放

社会的課題と花王が提供する価値

認識している社会的課題

“よきモノづくり”を通じて作りだされた技術を、産業の発展と社会への貢献のために活用するには、知的財産の確保と適切な行使が必要です。近年は、アジア地域を中心とした模倣品が問題となっている一方で、新しい多岐にわたる価値を迅速に提供することが求められています。

また、地球環境問題や新型コロナウイルスなどの世界的な社会課題を解決するためには、広く産業界と連携していくことが重要です。その連携の中で相互に知的財産を高度に活用していくことも必要となります。

花王が提供する価値

花王は、基盤技術研究および製品開発研究へのこだわりを通じ、本質の追究によって産業と公益に資する価値を生み出し、その成果を知的財産として資産化しています。新しい価値の早期実現が求められている中、独自開発のみならず、社外との共創も開発の方法として捉えています。これは2020年1月28日の特許庁主催グローバル知財戦略フォーラム2020で、研究部門統括が講演した「ESG経営を加速する共創イノベーションと知財戦略」にて公表した基

本理念です。

研究で得た成果は、花王(株)および国内外グループ会社での一体となった知財活動により、グローバルな貢献を果たしています。また、社会課題に対応するために社外との連携を強め、知財戦略に基づくオープンイノベーションの加速を担保します。

「2030年までに達成したい姿」の実現に関わるリスク

産業と公益性につながる技術開発が知的財産として確保できない場合、継続的な製品開発に困難が生じ、めざす会社を実現するためのリスクとなります。また、品質が劣る模倣品の発生は、生活者の製品価値への期待を損なうというリスクとなり、知的財産の確保と適切な権利の行使が必要です。

「2030年までに達成したい姿」の実現に関わる機会

基盤技術および製品開発において取得した知的財産権を自社製品に活かすだけでなく、オープンイノベーションとして開放することで、広く産業や社会に貢献する機会を得ます。

貢献するSDGs



方針

花王では、研究開発の成果やブランド等の象徴として考え出したネーミングを、特許権、意匠権、商標権などの「知的財産」として確保し、事業活動を推進しています。

アジア・米州・欧州でも積極的な権利取得を進め、国内外ともに他社による権利の侵害があった場合は、法令に則り厳正に対処しています。近年は、アジア地域を中心とした模倣品対策にも注力しています。

同時に、研究開発の初期段階から他者の知的財産権を侵害しないように開発を進める、新製品の発売前に改めて他社特許等を確認し必要に応じて対応するなど、他者の権利を尊重し、侵害しないしくみをグローバルで強化しています。

一方で、知的財産の活用を最大化するために、社外との連携によるオープンイノベーションも推進し、より価値の高い商品・サービスを生活者・社会に提供する活動を進めていきます。世界的な社会課題を解決するためにも、広く産業界および行政とも連携して新しい技術を共創していくとともに、花王の技術資産の活用としてライセンスや技術開放も弾力的に行なっていきます。

教育と浸透

研究員向けに、経験年数・役割などに応じたきめ細かい知財教育プログラムを用意し、継続的に改善を加えています。2020年にはのべ約450人の研究員が知財教育プログラムに参加しました。また、教育効率の向上のためにeラーニングを活用しており、アジア・米州・欧州の研究員には知財教育のツールとしてオンライン学習を取り入れています。

その結果、研究員がより主体的に技術の知財化や知財ポートフォリオの構築を意識するようになっていきます。これらの教育を経験年数に応じて繰返し受講することで、研究員の知財リテラシーが向上し、自身が開発する技術や商品が競合のものと差別化された機能や魅力を生み出す源泉となっていくことを期待しています。

花王の知財教育プログラムは、特許庁発行の刊行物「特許懇 vol. 295」(2019年11月)にも掲載されました。

ステークホルダーとの協働／エンゲージメント

「2030年までに達成したい姿」を実現するために、模倣に毅然とした対応を行ないます。知財業界団体や同業者と共同で取り組むことで、活動をより強固なものとし、また知財業界全体の発展に貢献します。

その一環として、知財行政の最新動向を把握するため、日本国特許庁、欧州特許庁、および新興国の管理職と直接対話の機会を持っています。2020年は知財高等裁判所と対話の機会を持ちました。この様な対話を通して、近年の審判の動向を把握し、より安定した知的財産権の確立に役立てています。

また、グローバルな知財実務の理解を深めるため、主要国・地域(欧州・米州・韓国・中国・台湾)および複数の新興国の特許代理人と直接対話の機会を持ち、各国法制度に即した権利取得ができるようにしています。

体制

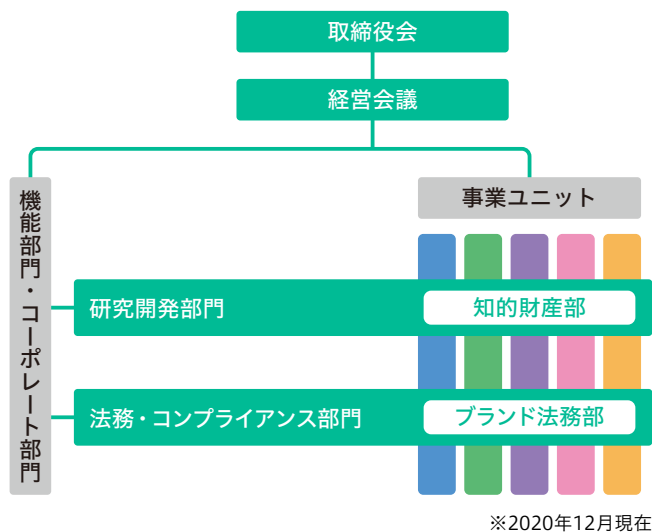
研究開発部門の知的財産部と法務・コンプライアンス部門のブランド法務部とが両輪となって、事業分野の知的財産を横断的に管理しています。

技術開発力の観点から、企業価値の指標となる特許および技術に基づく意匠については、知的財産部が中心となり、幅広い分野で戦略的に出願、権利化や権利の行使を行っています。責任者は研究統括です。

デザインに基づく意匠および商標については、ブランド法務部が事業部門と密接に協力し、費用対効果を勘案しながら出願権利化や権利の行使を行っています。責任者は法務・コンプライアンス部門統括です。重要案件については、知的財産部とブランド法務部が経営会議に提案・審議し、必要に応じて取締役会にて審議します。事業に貢献した有用な特許等は、年1回、経営会議にて報告され、職務発明報奨の審議を行ないます。

花王グループ全体として、研究開発に密着した活動を行ないつつ、事業部門、海外グループ会社とも連携しながら知的財産の運用(出願、権利化、契約、管理、情報解析、知的財産教育等)はもとより、模倣品対応やオープンイノベーションの展開を進めています。

国内の知的財産管理体制



商標、意匠の管理

商標権と意匠権については、法務・コンプライアンス部門に属するブランド法務部(意匠権の一部は知的財産部)が担当しています。新規のネーミングやデザインについて、他社の権利を侵害しないよう事前調査を十分に行なうとともに、当社のブランド価値を守るため、より広い権利の確保に努めています。

特に商標業務の機能は事業部門との連携が重要です。花王(株)本社と欧米3カ所に拠点を置き、円滑なコミュニケーションを図っています。また、タイムリーにネーミングを決定するため、ネーミング創作の開始から商標出願、決定に至るまでのスケジュール管理も行なっています。これら活動により自社商品の顔となる商品名やキャッチフレーズを安心して使用することができ、生活者にも安心して商品をお使いいただくことができます。

近年増加する模倣品に対しては、ECサイトなど市場の監視を強化するとともに、行政当局やECサイト運営者、業界各社との連携を図り、早期に排除する体制を整えています。巧妙化し日々発生する模倣品被害に対し、地道にこれらの活動を行なうことで、模倣品の排除や業者の撲滅にも寄与しています。

中長期目標と実績

中長期目標

- ・量と質との両面で最適化された自社特許ポートフォリオを構築し続け、多様な商品価値を生みうる本質研究成果を、グローバルに、カテゴリーを超えて戦略的に活用できる体制を構築します。
- ・第三者との知財トラブルの発生防止を、効果的・効率的に担保します。

中長期目標を達成することにより期待できること

事業インパクト

多くの製品を展開する花王では、本質研究の成果を多分野の製品開発に広く応用できるため、適切な知財保護により研究開発の効率化を促進し、ひいては製品の収益拡大につなげることが可能となります。

社会的インパクト

持続的社会に欠かせない企業になるために、感染症などから未来の命を守り、サステナブル自走社会をリードしていくことをめざします。生み出した発明を公開することで技術の発展に貢献するのみならず、社会課題の解決に向けて社外との連携によるオープンイノベーションの推進により、花王の知的財産を最大限活用することをめざしています。また、公益的な技術は開放(右記参照)して公共に資します。

2020年の実績

実績

積極的な発明発掘により、2020年の新規特許出願は前年度同様の高水準を保っています。また、実施許諾による特許ライセンス収入は、前年度同様の高水準となり、最適化された自社特許ポートフォリオの構築が行なわれています。

また、新しい技術や処方を開発した時には、他社特許等のクリアランス実施をチェックする仕組みによりその漏れを防止し、第三者との知財トラブルを未然に回避しています。

オープンイノベーションの場をつくり、技術の出口を広げ、より多様な形で商品を提供することを目的に、2018年11月に「技術イノベーション説明会」を実施して5つのイノベーションについて説明を行ないました。2020年はこれらの技術に関する社外連携を進めることで、社会実装に向けた活動を推進することができました。

実績に対する考察

研究所と密接なコミュニケーションをとり、また事業部との連携により、本年必要な出願や権利化、他社特許の侵害等の防止、模倣品対応を実施することができたと考えています。

グローバルで存在感ある企業をめざして、今後も新しく多岐にわたる価値提供を迅速に行なうため、またそれらを海外にも大きく展開していくことも視野に入れ、さらなる新規特許等の出願を行ない、それをグローバルに活用していくことを進めていきます。

2030年に向けて、持続可能な社会の実現に貢献する企業

になること、また切実な生活者に最も必要とされるサービスを提供していくことをめざしています。

それを実現するために、継続的に技術開発を進めて知財権として確保し、技術資産を最大限活用していきます。

開放した技術の例:シャンプーボトルのきざみ

花王は、1991年より、ギザギザ状の「きざみ」をシャンプーボトルの側面につけています。これは、目の不自由な人だけでなく、健常者の方が目をつぶって髪を洗う時も、触ただけでリンスと区別できるようにしたものです。

花王は、シャンプー容器のきざみが、業界で統一されていないと生活者が混乱してしまうと考え、実用新案の申請を取り下げ、業界統一のものとなるよう日本化粧品工業連合会を通じて業界各社に働きかけました。その結果、業界各社の賛同を得て、現在ではほとんどのシャンプーに「きざみ」がつくようになり、日本主導の国際規格になりました(ISO11156:2011)。



1991年開発当初のきざみと現在のきざみ

具体的な取り組み

他企業との知的財産問題への対応

特許などの知的財産権を重要な経営資源と位置づけ、効果的かつ戦略的な活用に努めています。他企業との知財問題については、可能な範囲で話し合いによる解決に努め、必要により特許ライセンス契約による解決を行なっています。

職務発明の報奨制度

花王(株)では、自社従業員に対して、事業に貢献した有用な発明等の創出をたたえ、さらなる発明活動へのモチベーションとする観点から職務発明の報奨制度を重視しています。自社で実施して優れた成果を上げた特許等について与えられる社内実施報奨と、第三者にライセンス供与することで大きな収入が得られた特許等について与えられるライセンス収入報奨があります。報奨授与の式典では毎年、対象発明者に対して社長自ら感謝と激励の言葉をかけています。2020年は、制度開始以来21年連続で社内実施およびライセンス収入についての報奨を行ないました。

なお、職務発明制度は国別に対応しており、アジア・米州・欧州におけるグループ会社での報奨制度の整備も継続して進めました。

知的財産権管理の推進

グローバルでの研究開発の成果を適切な知的財産権として確保することは、“よきモノづくり”をグローバルに実現し、現地の生活者・顧客のニーズに応えるための重要なステップと考えています。そのため、各国・地域の研究員の知財教育をはじめとする知財活動の支援に注力するとともに、花王(株)および国内外グループ会社の知財担当者間の交流と相互啓発の場を積極的に設け、また共同で仕事を進めるしくみを取り入れています。

グループ会社の増加および各国・地域での発明活動の活発化に伴い、より緊密に各地と連携しつつ知財活動を進めています。2020年も、海外のグループ会社から新たな特許出願が多数あり、各国・地域の知財部員と日本知財部員との議論が増え、花王の知財ポリシーをグローバルに展開することができました。

新興国での模倣品問題への対応

新興国での事業展開においては、現地で受け入れられる製品ほど、模倣品が急速に広まるリスクがあり、模倣品の実態を把握し適切な対策をとることが重要な課題となります。模倣品の中には安全性が懸念される製品もあり、そのような場合、模倣対象となった花王製品のブランド価値を保護するだけでなく、現地の生活者の健康や安全を守るうえでも、対策が急がれます。

特に、日本と比べて知財関連訴訟の件数が多く、訴訟社会ともいわれる中国においては、模倣品問題の解決のために訴訟によって毅然とした態度をとることも必要です。

また、模倣品の国内輸入を防止するため、税関の真偽識別研修に講師として参加し、模倣品を識別するポイントを税関職員に伝えるなど、輸入される模倣品の摘発(いわゆる水際対策)にも積極的に取り組んでいます。

花王は、税の透明性を確保し、各国・地域の税務に関する法令・規則などの遵守を徹底しています。
また、適切な税務処理に関する各種教育を行ない、一人ひとりが税務コンプライアンス意識を高めています。

ESG キーワード

OECD 移転価格ガイドラインの遵守

適切な申告と納税

地域別納税実績

社会的課題と花王が提供する価値

認識している社会的課題

花王は、OECD による Base Erosion Profit Shifting (BEPS) プロジェクト等の国際的な取り組みが、税の透明性確保や国際的な租税回避を防止するために重要であると理解しています。たとえば、グループ会社間の国際取引は、機能、資産およびリスクの分析に基づき、その貢献に応じた適切な利益配分を独立企業間価格に基づいて設定するとともに、その独立企業間価格の算定においては、OECD 移転価格ガイドラインの遵守に努めています。

花王が提供する価値

花王は、企業理念である「花王ウェイ」の基本となる価値観である「正道を歩む」に基づき、法と倫理に則って行動し、誠実で健全な事業活動により、生活を豊かにする社会的価値の創造に貢献し、適切な納税を行ないます。

新興国・発展途上国における事業活動から生じた所得について、現地の課税権を侵害せず、各国・地域の関連法令および規定に則った健全な税務管理を行ない、適切に納税することが各国・地域の経済および社会発展に重要な役割を果たすことになり、すべてのステークホルダーの支持と信

頼に応えることにつながると理解しています。

また、事業目的・実態の伴わないタックスプランニングやタックスヘイブンの利用が、各国・地域における適正な税金の納付を阻害する要因であると理解しています。花王は事業目的に沿って海外進出先やグローバルな事業体制を決定することとし、タックスヘイブンを利用する恣意的な租税回避および濫用的なタックスプランニングの防止に努めています。加えて、国際的租税回避のための税務ストラクチャーの利用は行ないません。

なお、2020年12月末時点で、OECDの定義するタックスヘイブン国に所在する花王グループ子会社は存在しません。

貢献するSDGs



方針

税務コーポレート・ガバナンスの向上をめざし、税務の行動規範、判断基準となる「税務方針」を制定しています。



→税務方針

www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/about/pdf/governance_004.pdf

教育と浸透

花王は、税務コンプライアンス体制が適切に機能するためには、経営層および社員の税務コンプライアンス意識の浸透・定着を進めることが重要であると考えています。

適切な税務処理に関する啓発、教育、各種情報共有や相談を行ない、法令遵守を徹底するとともに、税務リスクの低減に努めています。

租税戦略 102-13,102-43,103-2,207-2,207-3(租税2019)

ステークホルダーとの協働／ エンゲージメント

花王は、税務当局に対して適時かつ適切な税務情報提供を行ない、誠実に対応することで信頼関係の構築に努めています。税務リスクの低減のために、外部の税務アドバイザーに適時相談し税務処理の適切性について検討しています。

また、業界団体を通じて経済界と協調し、日本企業の国際競争力の強化に貢献する税制改正要望にも取り組んでいます。

一般社団法人 日本化学工業協会との協働

日化協を通じ、税務実務効率化や企業競争力強化に資する税制改正要望に積極的に取り組んでいます。

体制

会計財務部門統括を責任者とし、管理部税務会計グループおよび各国・地域の税務担当者が実務を行ないます。四半期ごとに各国・地域の税務担当者と情報を共有し、現状および将来の税務リスクの把握を行ない問題解決に努めています。定期的に各国・地域の税務問題を収集し現状を把握することで、緊急の税務問題について適時情報が届く体制になっています。加えて、解決方法を外部専門家も交えて連携しながら対応する体制が構築されています。

また、これらの税務問題や税務戦略のうち、重要なものについては、定期的に行なわれている経営会議や取締役会で報告されています。

経理・財務のグローバルな連携

定期的に、グローバルの経理・財務リーダーを集め会議を開催しています。その中で、各海外子会社の税務担当者とコミュニケーションをとりながら、全社方針の共有や徹底、新たな税務論点の議論を行なっています。

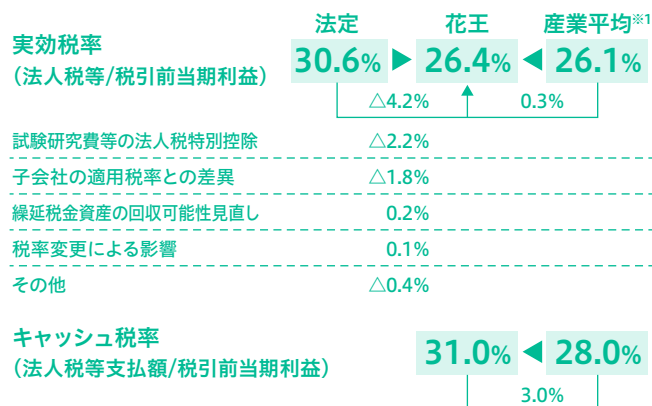
租税戦略 207-4(租税2019)

事業実績と納税実績

2020年の花王の実効税率は26.4%でした。法定実効税率との差-4.2%は、日本における試験研究費の法人税特別控除の影響および海外子会社との適用税率の差異に起因するものです。また、S&P Global社が発行する産業平均実効税率に対しては0.3%のプラスとなっており、業界水準並みの適切な納税を実現していると考えられます。

同様に、納税額を税引前当期利益で除したキャッシュ税率についても、支払いタイミング等の影響があるものの、産業平均に対して+3.0%と適切な水準の納税を実現しています。

2020年 実効税率差異の分析



※1 日用品業界

2020年 花王の事業実績と納税実績^{※2}

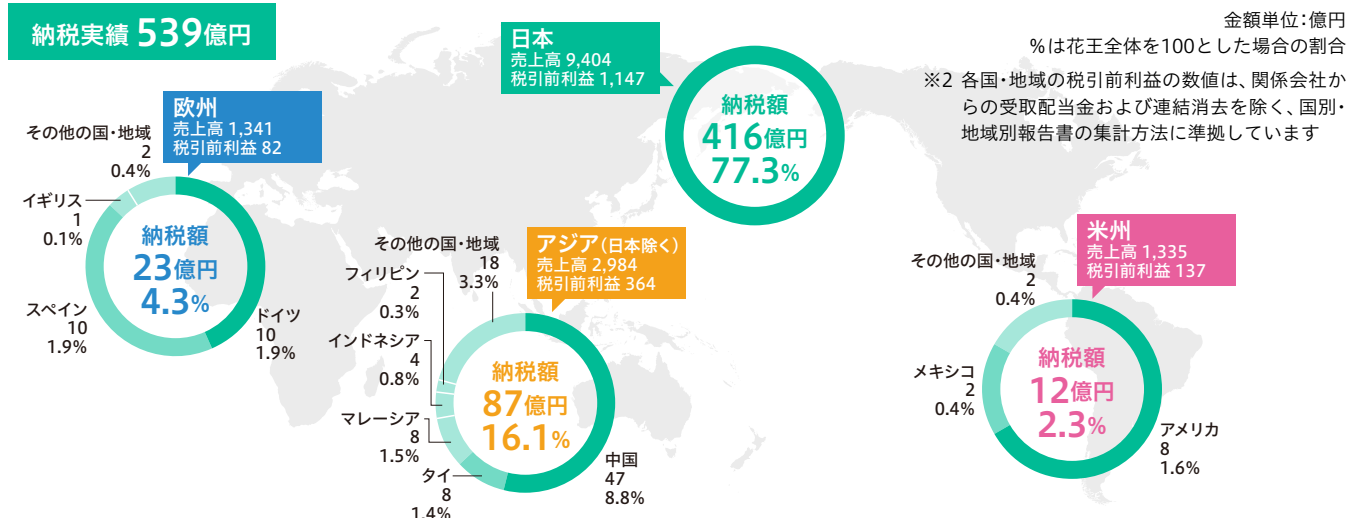
(単位：億円)

	売上高	税引前利益	納税額	未払法人税	従業員数：人
日本	9,404	1,147	416	236	(22,026)
中国	1,088	186	47	13	(1,532)
インドネシア	523	35	4	7	(1,994)
タイ	400	40	8	5	(1,390)
マレーシア	364	30	8	1	(510)
フィリピン	294	7	2	1	(204)
台湾	309	33	8	4	(710)
シンガポール	136	13	1	2	(154)
香港	127	16	7	0	(237)
ベトナム	59	3	1	0	(426)
その他の国および地域内消去	(315)	0	0	-	(30)
アジア	2,984	364	87	33	(7,187)
ドイツ	638	22	10	8	(914)
スペイン	397	41	10	0	(574)
イギリス	193	6	1	0	(533)
スイス	59	1	0	0	(104)
オランダ	41	4	0	0	(108)
イタリア	32	1	0	0	(37)
フランス	19	0	0	0	(15)
スウェーデン	10	0	0	-	(44)
その他の国および地域内消去	(48)	7	1	0	(218)
欧州	1,341	82	23	9	(2,547)
アメリカ	1,129	119	8	1	(1,266)
メキシコ	117	11	2	1	(177)
オーストラリア	58	4	1	0	(94)
カナダ	57	2	0	0	(96)
ブラジル	10	1	1	0	(9)
その他の国および地域内消去	(35)	(1)	0	0	(7)
米州	1,335	137	12	3	(1,649)
地域間消去他	(1,245)	10			
総計	13,820	1,740	539	281	(33,409)

金額単位：億円

%は花王全体を100とした場合の割合

※2 各国・地域の税引前利益の数値は、関係会社からの受取配当金および連結消去を除く、国別・地域別報告書の集計方法に準拠しています



各国・地域の納税主体となる会社の一覧表※1※2

納税管轄地	会社名	主な事業内容
日本	花王株式会社	花王製品のブランドオーナー(ビューティケア事業、ヒューマンヘルスケア事業、ファブリック&ホームケア事業、ケミカル事業)
	株式会社カネボウ化粧品	カネボウ製品のブランドオーナー(ビューティケア事業)
	花王サロンジャパン株式会社	ビューティケア事業
	花王フィールドマーケティング株式会社	店頭支援業務サービス
	カネボウビューティカウンセリング株式会社	ビューティケア事業
	ソフィーナビューティカウンセリング株式会社	ビューティケア事業
	花王クエーカー株式会社	ケミカル事業
	花王サニタリープロダクツ愛媛株式会社	ヒューマンヘルスケア事業、ファブリック&ホームケア事業
	伊野紙株式会社	ヒューマンヘルスケア事業(各種紙の製造販売)
	花王製紙富士株式会社	ケミカル事業
	花王システム物流株式会社	提案営業活動とオペレーション設計
	花王プロフェッショナルサービス株式会社	ファブリック&ホームケア事業
	モルトンブラウンジャパン株式会社	ビューティケア事業
	株式会社エキップ	ビューティケア事業
	カネボウコスミリオンの株式会社	ビューティケア事業
	花王ビジネスアソシエ株式会社	人事、総務、経理等に関する各種サービス業務
	花王ビオニー株式会社	各業務の請負および受託(家庭用製品およびその試供品の製造等)
	花王コスメプロダクツ小田原株式会社	ビューティケア事業
	SENSAI コスメティックス株式会社	ビューティケア事業
	花王グループカスタマーマーケティング株式会社	ビューティケア事業、ヒューマンヘルスケア事業、ファブリック&ホームケア事業
	花王ロジスティクス株式会社	花王製品の在庫管理・発送
インドネシア	ピーティー花王インドネシア	ビューティケア事業、ヒューマンヘルスケア事業、ファブリック&ホームケア事業
	ピーティー花王インドネシアディストリビューション	ビューティケア事業、ヒューマンヘルスケア事業、ファブリック&ホームケア事業
オーストラリア	ピーティー花王インドネシアケミカルズ	ケミカル事業
	花王オーストラリア ピーティワイ リミティッド	ビューティケア事業、ファブリック&ホームケア事業
シンガポール	花王シンガポール	ビューティケア事業、ヒューマンヘルスケア事業、ファブリック&ホームケア事業、ケミカル事業
	クレセント インシュランス プライベート リミティッド	花王グループ会社の再保険の引き受け
タイ	花王インダストリアル(タイランド)カンパニー リミティッド	ビューティケア事業、ヒューマンヘルスケア事業、ファブリック&ホームケア事業、ケミカル事業
	花王コマース(タイランド)カンパニー リミティッド	ビューティケア事業、ヒューマンヘルスケア事業、ファブリック&ホームケア事業
	花王ホールディングス(タイランド)	持ち株会社
	花王コンシューマープロダクツ(東南アジア)株式会社	ビューティケア事業、ヒューマンヘルスケア事業、ファブリック&ホームケア事業
	タイカネボウ化粧品LTD.	ビューティケア事業
ニュージーランド	花王ニュージーランド リミティッド	ビューティケア事業
	ピリピナス花王インコーポレーティッド	ケミカル事業
フィリピン	ピーケーアイ コマース株式会社	ケミカル事業
	花王ベトナム カンパニーリミティッド	ビューティケア事業、ヒューマンヘルスケア事業
ベトナム	花王マレーシア スンダリアン ベルハット	ビューティケア事業、ヒューマンヘルスケア事業、ファブリック&ホームケア事業
	花王トレーディング(マレーシア) スンダリアン ベルハット	ビューティケア事業、ヒューマンヘルスケア事業、ファブリック&ホームケア事業
	ファティ ケミカル(マレーシア) スンダリアン ベルハット	ケミカル事業
	花王ソーブ(マレーシア) スンダリアン ベルハット	ビューティケア事業
	花王オレオケミカル(マレーシア) スンダリアン ベルハット	ケミカル事業
	花王プラスチサイザー(マレーシア) スンダリアン ベルハット	ケミカル事業
韓国	カネボウ化粧品マレーシア スンダリアン ベルハット	ビューティケア事業
	カネボウコスメティクスコリア Co.,Ltd.	ビューティケア事業、ヒューマンヘルスケア事業
香港	花王(香港)有限公司	ビューティケア事業、ヒューマンヘルスケア事業、ファブリック&ホームケア事業
	ケイビーエスエスー コスメティックス(香港)	ビューティケア事業
台湾	花王(台湾)股份有限公司	ビューティケア事業、ヒューマンヘルスケア事業、ファブリック&ホームケア事業、ケミカル事業
	台湾鍾紡化粧品股份有限公司	ビューティケア事業
	ケイビーエスエスー 台湾	ビューティケア事業
	上海花王有限公司	ビューティケア事業、ヒューマンヘルスケア事業、ファブリック&ホームケア事業
中華人民共和国	上海花王化学有限公司	ケミカル事業
	花王(上海)産品服務有限公司	ビューティケア事業、ヒューマンヘルスケア事業、ファブリック&ホームケア事業
	花王(上海)貿易有限公司	ケミカル事業
	花王(中国)投資有限公司	中国における関係会社の統括(ビューティケア事業、ヒューマンヘルスケア事業、ファブリック&ホームケア事業、ケミカル事業)
	花王(中国)研究開発中心有限公司	ビューティケア事業、ヒューマンヘルスケア事業、ファブリック&ホームケア事業
	佳麗宝化粧品(中国)有限公司	ビューティケア事業
	花王(合肥)有限公司	ヒューマンヘルスケア事業
	花王胡芦島鑄造材料有限公司	ケミカル事業
	花王(上海)化工有限公司	ケミカル事業
	花王(上海)商务咨询有限公司	ビューティケア事業

納税管轄地	会社名	主な事業内容
イギリス	モルトン・ブラウン リミティッド	モルトンブラウン製品のブランドオーナー(ビューティケア事業)
	花王(UK) リミティッド	ビューティケア事業
	ウォッシングシステムズ リミティッド	ファブリック&ホームケア事業
イタリア	ケイビーエスエスー UK	ビューティケア事業
	カネボウコスメティクスイタリー S.P.A.	ビューティケア事業
	花王チミグラフィタリー	ケミカル事業
オーストリア	花王イタリー S.P.A.	ビューティケア事業
	花王オーストリア ハンデルスゲゼルシャフトエムペーハー	ビューティケア事業
	グールイクパナ オランダ	ビューティケア事業
オランダ	花王ビジネスサービス	花王グループ事務サービス
	花王ネザーランド ビービー	ビューティケア事業
スイス	カネボウコスメティックスヨーロッパ リミティッド	ビューティケア事業
	花王スイス AG	ビューティケア事業
スウェーデン	花王スウェーデン	ビューティケア事業
	花王コーポレーション エスエイ	ケミカル事業
スペイン	花王ケミカルズ ヨーロッパ エスエル	ケミカル事業
	花王チミグラフィ	ケミカル事業
チェコ	ゴールドウェル コスメティックス チェコ	ビューティケア事業
	花王デンマーク エーエス	ビューティケア事業
デンマーク	花王ジャーマニー ゲーエムペーハー	サロン製品のブランドオーナー(ビューティケア事業)
	グールイクパナ ゲーエムペーハー	ビューティケア事業
	花王ケミカルズ ゲーエムペーハー	ケミカル事業
ドイツ	花王 マニフアクチュアリング ジャーマニー ゲーエムペーハー	ビューティケア事業
	カネボウコスメティックス ジャーマニー ゲーエムペーハー	ビューティケア事業
	花王コリンズ ゲーエムペーハー	ケミカル事業
ノルウェー	花王ノルウェー	ビューティケア事業
	花王フィンランド	ビューティケア事業
フィンランド	花王フランス サール	ビューティケア事業
	花王チミグラフィ フランス	ケミカル事業
フランス	花王ベルギー エスエイ	ビューティケア事業
	ロシア	ビューティケア事業
ベルギー	カネボウコスメティックス ロシア LLC	ビューティケア事業
	花王南アフリカ ピーティワイ リミティッド	ビューティケア事業
南アフリカ	花王 USA インク	マス製品のブランドオーナー(ビューティケア事業)
	HPC リアルティ	資産管理会社
	オークブルックエンタープライゼス	資産管理会社
	花王アメリカ インク	米国における関係会社へのコーポレートサービスおよび米国ケミカル事業の持ち株会社
	花王ケミカルズ アメリカズ コーポレーション	ケミカル事業
	ハイポイント テキスタイル オーグジュアリーズ 有限会社	ケミカル事業
	花王スペシャリティーズ アメリカズ エルエルシー	ケミカル事業
	モルトン・ブラウン USA エルエルシー	ビューティケア事業
	花王コリンズ インク	ケミカル事業
	サムガム エルエルシー	資産管理会社
	オリベアケア LLC	ビューティケア事業
	スター(デラウェア) リアルティ エルエルシー	資産管理会社
	ウォッシングシステムズ アイエイチディ インク	持ち株会社
	ウォッシングシステムズ エルエルシー	ファブリック&ホームケア事業
	サンテックプロダクツ エルエルシー	ファブリック&ホームケア事業
	WSI ウォーター エルエルシー	ファブリック&ホームケア事業
	カスタムケミカルソリューションズ エルエルシー	ファブリック&ホームケア事業
	バイオハイジエニクス エルエルシー	ファブリック&ホームケア事業
カナダ	花王カナダ インク	ビューティケア事業
	花王ブラジル	ケミカル事業
ブラジル	TBP	ビューティケア事業
	キシ花王エスエイ デシーバイ	ケミカル事業
メキシコ	ジャーゲンズ メキシコ S. de R. L. de C.V.	ビューティケア事業

※1 2020年12月末時点の情報(事業内容は旧セグメント区分に基づく)
 ※2 化粧品事業およびスキンケア・ヘアケア事業を併せてビューティケア事業と表記

花王の事業は、製品のライフサイクル全般にわたって、地球上のさまざまな生態系、生物の多様性をもたらす豊かな恵みによって支えられています。

世界共通の喫緊の課題のひとつである生物多様性の劣化を防ぐために、花王は、持続可能な原材料調達や、限られた原材料を有効に活用するための新しい技術開発等を精力的に推進しています。また、事業活動による生物多様性への影響を低減するとともに、事業拠点のある地域の生物多様性の向上につながる社会活動も推進しています。

さらには、海洋プラスチック問題をはじめ、すでに汚染されてしまった生態環境の回復に向けての貢献や、生物多様性保全に寄与する製品の提供を通して、生活者やサプライヤーとのエンゲージメントにも取り組んでいます。

ESG キーワード

愛知目標の達成

生物多様性の恵みが持続する社会形成

生物多様性への影響が少ない原材料の開発・活用

生物多様性の主流化

社会的課題と花王が提供する価値

認識している社会的課題

生物多様性戦略計画2011-2020および愛知目標の達成状況について分析した地球規模生物多様性概況第5版(Global Biodiversity Outlook 5: GBO5)が、2020年9月15日に生物多様性条約事務局により公表されました。ほとんどの愛知目標についてかなりの進捗が見られたものの、20の個別目標のうち、完全に達成できたものはないことが示されました。

たとえば、2010～2015年の間で3,200万haの森林が減少、100万種の動植物が絶滅の危機に瀕しており、これは1,000～1万種/年のスピードで絶滅が進むことを表しています。

現在の経済活動は貴重な自然資産の消費の上に成り立っているという一面があります。また、人間による自然破壊や生物多様性を損なう行為が、これまでなかった動物と人との接触をひきおこし、新たな感染症が生まれるというリスクが顕在化してきました。これら諸問題の解決が企業に

求められています。

現在、ポスト2020生物多様性枠組の策定が進められています。ここで定められた目標は必ず達成されなければならないという強い危機感を持って、生物多様性の保全に真摯に取り組む必要性を私たちは強く認識しています。

花王はパーム油をはじめとする多くの生物資源の恩恵を受けて事業を行っており、世界の生物多様性の劣化は事業の持続性にも大きく影響します。ライフサイクルのすべてのプロセスにおいて生物多様性への配慮が必要です。特に、持続可能な原材料の調達プロセスを確立することが重要です。花王はRSPO認証パーム油の購入を機に、10年以上にわたり、アブラヤシ生産地における森林破壊とそれに伴う生物多様性の消失、現地で暮らす人々や農園労働者の人権侵害等の諸問題に向かい合ってきました。これまでに獲得した知見や人的ネットワークを最大限に活かし、花王の事業に関連するすべての自然環境やステークホルダーに対してポジティブな影響をもたらす未来をめざしていきます。

花王が提供する価値

IPBES※は、生物多様性の目標を達成するためには、“経済・社会・政治・科学技術における横断的な社会変容(transformative change)”が必要だとしています。花王はESG経営において掲げたビジョンや各方針のもとに目標を定め、社会課題解決型のイノベーション技術や製品、日々の活動を通して、生物多様性の劣化防止・回復、持続可能な未来社会の実現に向かって邁進していきます。

※ IPBES

生物多様性および生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム。

花王は生物多様性保全に対し、以下の観点から貢献していきます。

生物多様性の恵みが持続する社会形成

花王は、主要原材料であるパーム油や紙・パルプに関して、原産地の森林破壊ゼロの確認やトレーサビリティの確保等

生物多様性 102-12,102-15,103-1

に関する目標を掲げており、その達成に向けて、森林破壊リスクのマッピングやハイリスクと判断された工場の調査などの具体的な活動を推進しています。2020年に大手ブランドーションまでのトレーサビリティ確認を完了し、2030年までに小規模パーム農園までのトレーサビリティ確認を完了することを目標にしています。

森林破壊や人権侵害等のない持続可能な原材料の生産、調達体制を確立し、すべてのステークホルダーに対して生物多様性の恵みが永続的に得られる社会の形成に貢献していきたいと考えています。

生物多様性への影響が少ない原材料の開発・活用

花王は、生物多様性への影響が少ない原材料の開発・活用を推進しています。

パーム油は花王の製品の多くに使用されていますが、グローバル規模での人口増加によって今後需要がますます高まることが予測されており、森林破壊や原材料不足が懸念されます。そこで花王はパーム油の代替として、天然系でかつ非可食系の油脂源を利用する技術開発を継続しています。これまで活用が難しかった油脂原料を界面活性剤として活用できる「バイオIOS」や、高効率で油脂原料を生産可能な微細藻類の開発などを行なっています。

生物多様性の主流化

認証材の積極的な活用、他社との協働として「持続可能なパーム油のための日本ネットワーク (JaSPON)」での持続可能なパーム油の調達・消費の促進、そのほか、拠点の緑

地保全活動や社外の生物多様性保全活動への社員参画促進など、多様な活動を推進して生物多様性の主流化に寄与しています。

「2030年までに達成したい姿」の実現に関わるリスク

今後のグローバル規模での人口増加や経済の発展は、私たちが必要とする主要な原材料であるパーム油や紙・パルプの需要のさらなる増加をもたらすことが考えられます。一方で、生物多様性や人権侵害等の諸問題に配慮した持続可能な原材料の調達には付加的なコストが発生します。しかし、その調達において持続可能性への配慮がなされなければ、将来の長きにわたっての調達ができなくなり、事業存続が困難になる可能性が考えられます。

また、森林破壊や人権侵害などの現地の深刻な問題に対処した持続可能な原材料調達が行なわれない場合、企業のレピュテーションが著しく低下し、社会からの信頼が得られず、事業存続が困難になるリスクが想定されます。

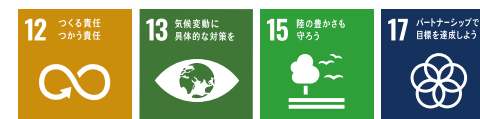
「2030年までに達成したい姿」の実現に関わる機会

花王は2011年に「生物多様性保全の基本方針」を定め、持続可能な原材料調達や生物多様性保全に貢献する新しい技術開発等に取り組んできました。

2014年に改訂した「原材料調達ガイドライン」では、パーム油や紙・パルプの原産地における森林破壊ゼロの確認を進めること等を目標に定め、将来にわたる持続的な原材料調達を実現するための具体的な活動を推進することにより、事業継続の可能性を高めています。

花王が新たに開発した界面活性剤「バイオIOS」は、グローバル規模での人口増加に伴い懸念される原材料不足等の諸問題を解消する、まったく新しい技術として用途の拡大が期待できます。

貢献するSDGs



方針

花王が2011年に策定した「生物多様性保全の基本方針」では、①事業との関わり方の把握、②影響の低減、③独自の技術開発、④国際的な取り決めの遵守、⑤地域生態系に配慮した事業活動、⑥社員の意識向上、⑦社外関係者との連携の計7つの方針を掲げ、毎年レビューを行なってきました。

方針策定から10年の節目の年である2021年は、ポスト2020年目標の国際合意がなされる予定の年でもあります。この合意内容を踏まえて、花王として貢献できる活動の方向性を改めて見直す予定です。



→生物多様性保全の基本方針

www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/biodiversity-basic-policy.pdf

→生物多様性保全の行動指針

www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/biodiversity-action-policy.pdf

→生物多様性保全の活動事例

www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/eco_activities_03_04_02_001.pdf

教育と浸透

「生物多様性保全の基本方針」策定後に日本花王グループの全社員を対象に実施したeラーニングおよび新人を対象に毎年行なっている環境教育等により、生物多様性についての社員への基本的な周知はできていると考えています。

また、イントラネットに設けたESG関連トピックスを扱うコーナーにおいて、SDGsの目標14や目標15に関わるテーマとして、私たちの生活と生物多様性の関わりについて学び考え、社員が行動に移せるヒントを提供しています。

海外の社員に対しては、毎年開催しているグローバルRCミーティング等を通じて情報共有や啓発等を都度行なっています。

ステークホルダーとの協働／エンゲージメント

持続可能な原材料調達への推進

パーム油・パーム核油、ならびに紙とパルプの調達においては、生物多様性の保全に配慮し、森林破壊ゼロを支持します。原産地まで追跡可能なパーム油・パーム核油の全量調達と、原料木材の原産地の追跡可能なパルプのみの購入を進めています。

パーム油の持続可能なサプライチェーンの構築をめざし、インドネシアの小規模パーム農園の生産性向上、持続可能なパーム油に対する認証の取得を支援するプログラム「SMILE」(SMallholder Inclusion for better Livelihood & Empowerment program)を開始しました。



→ 思いやりのある選択を社会のために > 責任ある原材料調達
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2021-all.pdf#page=79

→ サステナビリティピックアップ: 花王 持続可能なパーム油サプライチェーンの確立に向け、小規模パーム農園との対話を実施
www.kao.com/jp/corporate/sustainability/topics/sustainability-20191002-001/

各国・地域に応じた生態系・生物多様性の保全活動

花王は世界中に事業拠点を有しています。生物多様性保全についての基本的な方針は本社で定めていますが、生物多様性の状況や考え方は国や地域で異なるのが現状です。生物多様性保全活動を効果的に推進するためには、それぞれの国、地域において、行政、NGO／NPO、有識者など、関係するさまざまなステークホルダーと積極的に意見交換する機会を設けることが有効であると考えており、各国・地域の担当者に推奨しています。

啓発

花王では、各拠点において生物多様性に配慮した緑地保全活動を推進しており、社員が参加可能なイベントも用意しています。また、外部の生物多様性保全プログラムへの社員のボランティア参加を奨励しています。社員には、これらの活動への積極的な参画を通じて、生物多様性への理解を深めてほしいと考えています。

和歌山事業場にある地球環境と花王のエコ技術の発信基地、エコラボミュージアムでは、未来を担う小学生を中心に地域密着型の啓発活動を行なっています。併設された温室では、ヤシなどが育つ南国の高温多湿な気候が再現されており、約60種の植物を見ることができます。2020年は、小学校へのリモート中継も開始しました。

体制

生物多様性の損失は花王を取り巻く重要な社会課題の一つです。Kirei Lifestyle Plan に定めた19のアクションのうち、たとえば、責任ある原材料調達、脱炭素、ごみゼロ(プラスチック削減等)、大気および水質汚染防止、責任ある化学物質管理などは、いずれも生物多様性と深く関わる活動になっています。これらの活動はESG委員会やESG推進会議の下で推進されています。

また、レスポンシブル・ケア(RC)活動の一つである「環境保全」においても、生物多様性保全を活動項目の一つに定めています。生物多様性に関する方針、目標、計画を定め、活動の進捗とあわせてRC推進体制で管理しています。活動の進捗については、年1回開催のRC推進委員会、日本RCミーティング、グローバルRCミーティング(いずれも担当役員が参加。2020年は新型コロナウイルス感染症の影響により中止)において、情報共有を適宜行なっています。



→ ESG推進体制について詳細は
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2021-all.pdf#page=18

中長期目標と実績

2025～2030年中長期目標

花王は、生物多様性に関するものとして、主要原材料であるパーム油や紙・パルプについて、森林破壊ゼロやトレーサビリティの確保等に関する活動目標を掲げています。

2025年までに家庭用製品に使用する認証紙製品・パルプの比率100%や、2030年までに小規模パーム農園までのトレーサビリティ確認完了を掲げ、その達成に向けた活動を推進しています。また、2021年に予定されているポスト2020年目標の国際合意を踏まえ、花王の生物多様性に関わる今後の方針を定めていきます。

中長期目標の達成により期待できること

事業インパクト

持続可能な原材料の調達には少なからず付加的なコストが発生しますが、これは私たちの事業を持続可能なものにするために必要不可欠な投資であり、社会的責任であると捉えています。

また、欧米市場ならびにミレニアル世代・Z世代を中心に、エシカル消費の動きが活発化しており、生物多様性に配慮し、持続可能な原材料を使った商品が求められるようになっていきます。原材料調達から、商品設計、使用方法、廃棄後に至るまで、花王の提供する製品に生物多様性の視点を盛り込むことは、今後ますます拡大するエシカル消費市場での存在感を高めるものと考えています。

その結果、レピュテーションのみならず、財務・非財務の両面からメリットが生じていると想定しています。

社会的インパクト

持続可能な原材料調達に関するさまざまなプロセスにより、原材料調達地における森林環境の維持・回復や地域社会の人権の尊重が向上します。

森林は、地球の気温や気候を安定させ、保水機能を有するため、災害の防波堤の役割を果たしています。食料や医薬品をはじめ、清潔な水や大気など、私たちの生活に欠かすことのできないさまざまな資源と恵みが森林の生態系からもたらされ、その経済価値は数千兆円ともいわれています。

企業が原材料調達から製品の使用後に至るまで、生物多様性に配慮した商品を開発・販売し、生活者がそのような商品を選ぶことにより、多くの人が生活の中で生物多様性を理解し、直接あるいは間接的に生物多様性の保全に貢献できる社会がもたらされます。生物の持つ生産力を考えた、持続可能なレベルでの資源利用ができれば、自然の恵みを利用し心豊かな生活を続けることができます。

2021年目標

生物多様性に関する年次目標は、1年間の活動単位でPDCA管理しているRC目標の中で毎年定め、進捗管理しています。2021年目標は以下の通りです。

1. 持続可能な原材料調達への推進



→思いやりのある選択を社会のために>責任ある原材料調達
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2021-all.pdf#page=79

2. 地域の生物多様性に配慮した事業活動・社会活動の推進

2018～2019年にかけて実施したグループ全生産拠点の生物多様性評価の結果を受けて、各拠点で実施可能な生物多様性保全活動を計画し、推進します。

3. コピー用紙削減

全社員が共通で取り組むことのできる活動として、コピー用紙の削減活動を日本花王グループから開始しています。2021年以降はグローバルで活動を推進し、一人当たりの印刷枚数を前年以下にすることを目標としています。

4. グリーン購入の推進

環境負荷ができるだけ小さいものを優先して購入する「グリーン購入」を推進しています。グリーン購入法を受けて、以前から活動を推進している日本における2021年目標は、グリーン購入率100%です。

2020年の実績

実績

1. 持続可能な原材料調達への推進



→思いやりのある選択を社会のために>責任ある原材料調達
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2021-all.pdf#page=79

2. 地域の生物多様性に配慮した事業活動・社会活動の推進

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、活動制限を余儀なくされる中で可能な範囲内の活動を推進しました。

3. コピー用紙削減

一人当たりの印刷枚数は2017年比で31.4%削減となり、目標(2017年比で10%削減)を大幅に上回りました。

4. グリーン購入の推進

日本におけるグリーン購入率は91.6%でした。

実績に対する考察

地域の生物多様性に配慮した事業活動・社会活動については、2020年は新型コロナウイルス感染症の影響により活動を中止せざるを得ないケースも見られましたが、担当者の熱意により、安全に配慮しながら活動を実施できた例もあり、社内における生物多様性に対する意識の高まりを改めて実感しています。

コピー用紙削減は利用者の協力により短期間で大きな成果を上げることができました。2021年以降は活動をグローバルに拡大予定です。

グリーン購入の推進は目標の100%達成に至りませんでした。購入者の環境意識の向上だけでなく、グリーン購入法適合品を購入するしくみそのものの見直しも必要と考えています。



→思いやりのある選択を社会のために>責任ある原材料調達
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2021-all.pdf#page=79

具体的な取り組み

事業と生物多様性との関わりの把握

2013年に評価を完了したエコロジカル・フットプリントでは、花王の事業活動が及ぼす環境負荷は、二酸化炭素吸収地、油糧植物生育のための耕作地や牧草地、パルプや紙の生育のための森林、界面活性剤が影響を与える漁場などが大半を占めていることを確認しました。



→企業活動のエコロジカル・フットプリント
www.jstage.jst.go.jp/article/ilcaj/2011/0/2011_0_164/_pdf

さまざまな環境影響を統合して数値化できるLIME2(第2版日本版被害算定型影響評価手法)を活用して、花王の製品がさまざまな環境側面に及ぼす影響を包括的に評価してきました。花王では、主要な35製品分類について環境影響評価を実施し、環境側面のバランスについて把握し、製品開発に役立てています。今後は、LIME3(グローバルスケールのLCAを実現する環境影響評価手法)での評価を進めていきます。

事業が生物多様性に与える影響の低減

花王の事業活動が生物多様性に与えるさまざまな影響を低減するために、以下の活動を継続的に行なっています。いずれも花王のESG戦略における重要な活動であり、詳細は「花王 Kirei Lifestyle Plan Progress Report 2021」に掲載しています。

- ・原材料使用量の削減および持続的に調達可能な環境負荷の少ない原材料への切り替え



→思いやりのある選択を社会のために>責任ある原材料調達
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2021-all.pdf#page=79

- ・事業活動に伴うCO₂排出量の削減



→よりすこやかな地球のために>脱炭素
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2021-all.pdf#page=88

- ・水資源の使用量削減および影響の低減



→よりすこやかな地球のために>水保全
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2021-all.pdf#page=122

- ・「責任ある化学物質管理」の推進

科学的根拠に基づくリスク評価とライフサイクル全体を通じた適切な化学物質管理により、化学物質による環境ならびに生態系への負荷を最小化するモノづくりを進めています。



→正道を歩む>責任ある化学物質管理
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2021-all.pdf#page=219

生物多様性の恵みを大切に活用するための技術開発

花王は長年にわたり、アブラヤシの実などから採取できる炭素数が12~14の油脂原料を用いて工業用高級アルコールを生産し、さまざまな家庭用製品の原料として使ってきました。炭素数12~14の油脂は、世界の油脂生産量のうち

のわずか5%を占めるにすぎません。残り95%は炭素数16～18の油脂になります(Oil World Annual 2016)。炭素数16～18の油脂には、食料用途には適さない固体部分が含まれており、この固体部分はこれまで用途が限定されていました。そこで花王は、界面科学や界面活性剤の合成技術を適用することで、「バイオIOS」という、品質の高い界面活性剤を生み出しています。「バイオIOS」は、2019年より衣料用濃縮液体洗剤「アタックZERO(ゼロ)」で実用化されています。

さらに、原料が食品用途と競合せず、環境負荷が少ない藻類が産生する油脂をパーム油の代替とする研究も進めています。

これまで用途が限られていた原料を界面活性剤の新たな原料にできたこと、食品用途と競合しない油を活用する可能性を広げたことは、「生物の多様性の持続可能な利用」への貢献につながるものと考えています。

また、花王は30年以上にわたって酵素などタンパク質の研究開発を行っており、それらを菌などの微生物を使って効率的に生産する技術の開発にも取り組んできました。そのなかのひとつに、枯草菌を活用したタンパク質生産技術があります。この技術は、2020年5月に発表された、北里大学、株式会社Epsilon Molecular Engineering(EME)との共同研究による、新型コロナウイルス中和能を持つVHH抗体取得にも貢献しています。

今後も花王は、枯草菌によるタンパク質生産技術の強みを活かして、感染症対策をはじめとする社会課題の解決に広く貢献していきます。



→思いやりのある選択を社会のために>暮らしを変えるイノベーション

www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2021-all.pdf#page=73

国際的な取り決めの遵守

花王は、生物多様性条約、生物多様性条約締約国会議等で決定された生物多様性に関する国際的な取り決めおよび関連する各国・地域の国内法を遵守しつつ、事業活動を進めています。

また、花王は、2014年、「原材料調達ガイドライン」の中で掲げた調達目標において日本でいち早く「森林破壊ゼロ」の支持を表明し、また、同年9月にニューヨークで開催された国連気候変動サミットで発表された「森林に関するニューヨーク宣言」にも署名しました。

「愛知目標」への花王の活動貢献内容については、下記で報告しています。今後は2021年に国際合意が見込まれているポスト2020年目標の達成に向けて活動貢献していきます。



→生物多様性保全の活動事例

www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/eco_activities_03_04_02_001.pdf

地域の生態系に配慮した事業活動

グローバル共通の生物多様性評価基準に基づく活動推進

花王では、事業を展開しているグローバル各拠点において、地域の生物多様性に配慮した活動がどの程度行なわれているか評価するための生物多様性評価指標を2017年に導入し、2018年から2019年にかけて、新たに花王に併合した拠点を含むすべての生産拠点における評価を実施しました。生物多様性視点での課題を明確にでき、活動を推進することでスコアを向上することができますので、活動進捗の確認が容易になります。

本評価を導入した一番の目的は、現状を把握した上で、明確な目的意識を持って自拠点あるいは近隣の緑地等における生物多様性保全に積極的に取り組んでもらうことにより、自拠点が恩恵を受けている地域生態系の生物多様性保全に貢献することです。

新型コロナウイルスのような感染症の影響でいくつかの価値ある企画が中止される等、活動制限の課題もありますが、そのような状況下においても、社員の生物多様性への意識がますます高まりつつあることを実感しています。地域住民など関係する多くの皆さまにも私たちの思いが伝わり、活動の輪が大きく広がっていく「生物多様性の主流化」につなげていければと考えています。

生物多様性 304-1,304-2,304-3

小田原事業場 第三者認証(「いきもの共生事業所®認証(通称:ABINC認証)」)を取得

小田原事業場は2020年、一般社団法人 いきもの共生事業推進協議会 (ABINC) の「いきもの共生事業所®認証」を取得しました。2015年の鹿島工場、2018年の川崎工場の認証取得に続く3例目となります。

小田原事業場は、1969年にカネボウ化粧品の工場として稼働を開始し、2014年に花王グループ化粧品事業に関する研究開発と生産の機能を一体化した事業場として統合・再整備されました。小田原市の北東2.2kmに位置し、東は富士山と丹沢山地を主な源流とする酒匂川に面して良質な水資源に恵まれ、多くの野鳥が飛び交う自然豊かな地域にあります。

場内には約9,000m²の緑地があり、植栽樹木のうち90%以上が在来種です。2018年度からは、地域の生物多様性への配慮という観点で新たな保全活動を開始しました。社員の手で在来種の花や実のなる草木を植え、事業場内の神社や桜並木には野鳥が営巣するための巣箱を設置しました。また、生物の棲み処として樹木の枝あるいは石を積み上げた構造物(エコスタック)を作成して貨物門緑地エリアに配置しました。場内の樹林を間伐し、間伐材はビートルアパート(剪定した樹木の枝や雑草・落ち葉を集め堆肥化したカブトムシなどの生息場所)やテーブル、椅子などに再利用し、残材は肥料化して場内で再利用しています。

また、小田原市が取り組む酒匂川水系メダカ(小田原メダカ)の保護のための里親制度に登録しており、2018年5月に小田原市より5匹のメダカを迎えて養育、人工孵化に成功して25匹まで増加しました。2020年は、場内の建物に設け

た広いベランダに、自然に産卵できるようメダカの池を設置しました。また、川崎工場の支援のもと、ウマノスズクサ、ジャコウアゲハの保護活動などに取り組むとともに、定期的に植物、鳥類、昆虫類のモニタリングを実施しています。



小田原事業場の中央に配置した緑地帯(アークスクウェアガーデン)



(左上) エコスタックを兼ねたベンチ
(右上) メダカの池とウマノスズクサ保護エリア
(左下) 落ち葉集積箱(ビートルアパート)
(右下) 伐採した樹木の切り株で作ったテーブル



(左上) 場内設置の巣箱で営巣するスズメ
(右上) 用水路の水生生物を狙うカワセミ
(左下) 用水路に生息するハヤ
(右下) 用水路に生息する蛍のエサとなるカワニナ

生物多様性 304-1,304-2,304-3

KSA 生物多様性アセスメント実施後の保全活動

花王スペシャルティーズアメリカズ(KSA)は、アメリカ合衆国南東部のノースカロライナ州ハイポイント市に位置しています。場内には針葉樹と広葉樹の多様な樹木で構成される混交林が広がり、NGOの野生生物団体が絶滅危惧種に指定しているモリツグミなどの野鳥をはじめとするさまざまな生物が生息しています。

2019年、KSAでは、生物多様性に関するアセスメントとして、自社敷地を含む地域特性、敷地内の植生、侵入外来種、生物の生息地の現状および今後の可能性、生物モニタリング等についての検証を実施し、詳細なレポートにまとめました。

本アセスメントの結果を受けて、KSAでは生物多様性保全活動を推進しており、社員も積極的に参加しています。2020年は新型コロナウイルス感染症の影響がありましたが、以下のような活動を実施しました。

- ・場内の落ち葉や枯れ枝等を堆肥化するためのコンポストヤードの設置
- ・有識者の指導の下、社員の手により実施した在来植物種の苗木の植樹(ヴァージニア・スイートスパイア、カリカルパ・アメリカナ等)
- ・社員の手による小鳥の巣箱の製作および設置



場内に設置したコンポストヤード



巣箱設置のために集まった社員



作製した巣箱

PKI ココヤシ優良種の保護およびマングローブ植樹活動

ピリピナス花王(PKI)は1979年の創業以来、フィリピンのミンダナオ島において高級アルコール、精製グリセリン、3級アミン等の高品質のケミカル製品を生産している事業場です。これらの製品の主要原料であるココヤシの優良種を事業場内に設けた保護エリアに植樹し、現在も大切に育てています。

また、PKIでは、2010年に工場周辺の沿岸域等にマングローブ林を復元させる「マングローブ再生プロジェクト」を発足し、フィリピンで開催された「世界湿地デー」のイベントにおいて、環境天然資源省や地元NGOと協働でマングローブを植樹しました。以降、PKIでは毎年植樹を続けてきましたが、なかなかマングローブが根付かず生存率が低いという悩みを抱えていました。藻等の海藻や海に漂っているプラスチック等が稚樹に引っ掛かり、葉や芽を破壊する等、その成育を阻害することが大きな原因です。その対策として、沿岸の定期的な清掃活動、稚樹の育成方法の見直し(個別の種苗場で稚樹を育て、十分に根が成長したところで目的地に移植)、植樹時期の変更(夏季から雨季にかけての波が強く、藻の繁殖力が強い時期を避けて植樹)等を行ってきました。これまでに蓄積した知見により、2020年の稚樹の生存率は92%となり、当初よりも大幅に向上しました。数種類の異なるマングローブのむかごについて、その成長の度合いを調べるテストを行なう等、現在も研究を続けています。



場内の保護エリアに植樹したココヤシ



順調に育ったマングロープの稚樹

KCSA 生物多様性方針の策定および保全活動の推進

花王コーポレーション(スペイン)(KCSA)は地球の将来の発展のため生物多様性が重要であることを認識し、「持続可能性とリスク防止の方針」を補完するものとして、2018年、生物多様性を維持、促進するために成すべきコミットメントを含む「生物多様性方針」を策定しました。

2020年、KCSAでは、新型コロナウイルス感染症により予定されていた活動計画が制約を受けつつも、「生物多様性方針」に含まれる4つのコミットメント(①保全プログラムの推進②活動推進者への適切なリソースの提供③従業員や関係者の啓発④生態ネットワークに配慮した緑地設計と維持計画)に準拠した一連の活動を実行しました。活動内容はすべての社員に情報提供し、積極的な啓発に努めています。活動の中から特にバルベラサイトで実施された活動を紹介します。

・植樹活動

バルベラサイトで採用された新入社員が、タイム(タチジャコウソウ)やローズマリーなどの芳香性植物の植樹を行いました。

・巣箱、昆虫ホテルの製作、ガイド付き自然散策

サイトの生物多様性について深く学んでもらう目的から、動物および植物に精通した2人の専門家の協力により、従業員参加のサイトツアーを実施しました。ツアー途中で3種類の野鳥の巣箱(コノハズク、イエスズメ、シジューカラ／アオガラ)を設置し、また昆虫ホテルの製作、設置を実施しました。今後、サイト内の生物多様性が高まり、生息する生物が増えることを期待しています。



参加した従業員に対し専門家が説明



巣箱の取り付け



昆虫のホテルの製作

他団体との連携

生物多様性保全の取り組みについて真剣に考え、具体的な活動を実践する企業の集まりである一般社団法人企業と生物多様性イニシアティブ(Japan Business Initiative for Biodiversity:JBIB)に、花王は2008年の発足当初から参加し、参加企業とともにこれまで歩んできました。テーマごとに複数のワーキンググループに分かれ、業種を超えたさまざまな企業の方たちと、企業としてどのような形で生物多様性保全へ貢献ができるのかについて毎月議論を行っており、またJBIB「いきものDays」(2020年は新型コロナウイルス感染症の影響でオンラインイベントに変更)の開催等、多様な活動を展開しています。

ほかにも、花王は、公共財団法人都市緑化機構(花王・みんなの森づくり活動)、公共財団法人オイスカ(タイ北部“FURUSATO”環境保全プロジェクト)、認定NPO法人アースウォッチ・ジャパン(東日本グリーン復興モニタリングプロジェクト)など、さまざまなステークホルダーとの協働により、生物多様性保全につながる活動を推進しています。



→社会貢献活動／タイ北部“FURUSATO”環境保全プロジェクト

www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/sus-db-2021-all.pdf#page=103

認定NPO法人アースウォッチ・ジャパンと協働した、生物多様性保全に寄与することを目的とした社会貢献プログラム「花王・教員フェローシップ」は2019年度の活動をもって終了いたしましたが、17年間の活動の成果をとりまとめて発信するとともに、得られた知見や参加者が制作したツールを広く活用いただくために、特設サイトを開設しました。



→特設サイト「花王・教員フェローシップ」17年間の軌跡
www.earthwatch.jp/kaofellow/

生活者とのきめ細かなコミュニケーションを通じて寄せられた声を“ESG よきモノづくり”やサービス向上に活かすとともに、幅広い世代の方々の自己解決につながる生活情報を発信しています。生活者を取りまく環境は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、急速に変化しています。商品やサービスの形態も多様化し、インターネット上では企業だけでなく、個人が発信する情報で溢れています。その結果、生活者が正しい知識を得ることは、これまで以上に難しくなっています。

一方で、企業に相談する習慣のない生活者が増えていることは、相談対応においても大きな課題です。花王は生活者を取りまく環境変化を見据えて、365日24時間生活者のよきパートナーとなることをめざし、今後も新たな生活者とのコミュニケーションに関する取り組みを推進していきます。

ESG キーワード

消費者相談窓口(電話、eメール、ウェブサイト)

デジタルネイティブ世代へのアプローチ(ウェブサイト、SNS、Q&A サービスの活用等)

消費者志向宣言

花王エコシステム(生活者の声を製品に活かすしくみ)

新型コロナウイルス感染症に関する情報の開示

社会的課題と花王が提供する価値

認識している社会的課題

2020年は、新型コロナウイルス感染症拡大により、電話相談窓口は一時閉鎖を余儀なくされましたが、eメール窓口での相談対応を継続したことで、感染対策に関する多くの相談に対応することができました。また、感染対策に関する社会の変化を注視し、タイムリーに関連したFAQをウェブサイト公開したことで、多くの閲覧をいただきました。

近年、企業に相談される方は高齢者が多い一方で、若い方々を中心としたデジタルネイティブの世代は、ソーシャルネットワークサービス(SNS)を使ったコミュニケーションが一般化しており、SNS上でさまざまな情報をやり取りしています。デジタルネイティブの世代は、困りごとがあった際もデジタル上で自己解決を図る傾向にあります。生活スタイルが多様化する中で、好きなときに好きなコミュニケーション手段で企業に相談できる環境が求められていると認識しています。

花王が提供する価値

花王では公正でわかりやすい商品情報だけでなく、住まいや衣類など、生活者の暮らしに関する情報の提供に努めており、このことが生活者の社会・環境に配慮した倫理的で安全な消費行動の実現につながると考えています。消費者相談窓口である生活者コミュニケーションセンターでは消費者起点の行動原則のもと、一人ひとりの生活者の声を真摯に受け止め、相談者の気持ちを理解し、解決を図るだけでなくその背景の理解に努めることで、花王の“ESG よきモノづくり”を支えています。

ユニバーサルデザインの考え方に基づき、聴覚障がいのある方に配慮した手話専用の相談窓口の設置や、視覚障がいのある方などのための、花王ウェブサイト「製品カタログ」の図や表への音声読み上げソフトに対応できる説明文の追加、訪日観光客や日本在住の外国人の方々へ向けた英中韓の言語に対応した電話相談窓口の設置などさまざまな取り組みを行なっています。

組みを行なっています。

自己解決を図る方にも、正確な情報に基づく困りごとの解決ができるように、ウェブサイトを活用した製品カタログやFAQの情報発信を行なっています。またQ&A サービス(Yahoo!知恵袋)を活用した公式サポートを実施し、生活者との能動的なコミュニケーションも推進しています。

さらに、訪日・在日外国人の方に商品を正しく理解していただくために、商品情報の多言語表示を進めています。店頭に設置する商品情報に二次元コードを付け、その場で花王ウェブサイトの中国語や英語の商品情報サイトへアクセスできるようにしています。

また、新型コロナウイルス感染症の予防対策など、生活する上で必要不可欠な情報については、ウェブサイトを通して多言語での情報発信に努めています。

「2030年までに達成したい姿」の実現に関わるリスク

- ・生活者の安全・安心意識の高まりによる成分、安全性情報などの開示要求に対する情報不足の不満
- ・懸念物質（環境面、安全面）への対応の遅れや配慮不足
- ・国内使用を想定して開発された製品の自国外での利用
- ・文化などの違いに対しての配慮不足
- ・国内外で発生した製品事故や製品に対する安全性への判断遅れによる被害拡大
- ・生産停止、遅延による消費者利便性の低下、品切れによる社会不安の増大
- ・災害、パンデミック等が発生した際の生活者とのコミュニケーション機能の喪失
- ・取得した個人情報の漏えいによる企業信頼の失墜
- ・不適切な広告表現、起用タレントの不祥事等のSNSを通じた拡散
- ・誤った用法、誤認された製品情報等のSNSを通じた拡散

「2030年までに達成したい姿」の実現に関わる機会

- ・多様なコミュニケーションチャネルの提供
- ・場所と時間の分散によるコミュニケーション機能の確保
- ・デジタル技術を活用した多様な働き方の提供
- ・成分、安全性などの正しい製品情報の提供
- ・安全・安心に関わる信頼性情報の開示
- ・グローバルでの消費者相談情報共有による新製品開発、改良への提言の機会
- ・開発品、販売品、広告等への改善要求の機会
- ・製品の入手方法、取り扱い店舗情報の積極的公開

貢献するSDGs



教育と浸透

相談対応品質の継続的向上を図るため、相談対応力評価を定期的に行なっています。外部講師による応対品質向上研修や外部研修受講などの機会を積極的に設けています。また、社員が生活者視点をより深く理解し、業務に活かすための研修(カスタマーリアルボイス研修)は、社内の関係部門ごとに実施しています。

方針

私たちは、消費者起点の行動原則のもと、消費者のお役に立つ製品、サービス、情報の提供に努めています。生活者の「声」を真摯に受け止め、製品やサービスに関するご意見やご要望をうかがい、一人ひとりの相談者の問題を解決するだけでなく、コミュニケーションにより、その背景にある意識や習慣など、生活者の想いを感じとることを大切にしています。その上で企業として解決できることはないかを考え、積極的に社内外に提言していきます。

消費者志向宣言

2017年1月、花王は「消費者志向宣言」を公表しました。花王の企業理念である「花王ウェイ」のもと、経営トップのコミットメントを全社員に浸透させ、コーポレート・ガバナンスを確保し、消費者の満足を実現します。また、社会のサステナビリティに役立つ商品とブランドを提供する“ESGよきモノづくり”を全員参加で行なうことで、消費者の声を真摯に受け止め、製品やサービスの改善に活かし、消費者の立場にたった情報提供や、消費者と積極的に交流することを宣言しました。

また、環境、衛生、高齢化などの社会課題の解決、情報化、意識や価値観の多様化、グローバル・ボーダレス化などの社会環境変化に対応した取り組みのさらなるレベルアップをめざしてフォローアップ活動を毎年実施しています。

生活者とのコミュニケーション 102-43,103-2,417-1

ステークホルダーとの協働／ エンゲージメント

消費者団体、消費生活センターなどの情報交換

地域の消費者行政を担う消費生活センターなどの公的機関や消費者団体と定期的に情報交換することにより、最近の消費者の傾向や注目する相談などから消費者をよりよく知ることで、花王の考えを理解していただくことに努めています。

消費者向けイベントでの交流活動

市民講座や消費者展などのイベントで、洗たく、手洗いのしかた、掃除、オーラルケア、入浴、ユニバーサルデザインなど幅広い生活情報を提供しています。対象者に合わせた生活情報をきめ細かく届けるとともに、相談窓口とは違った角度から、生活者のさまざまな困りごとを直接理解する機会と位置づけています。

相談者を対象とした対応評価

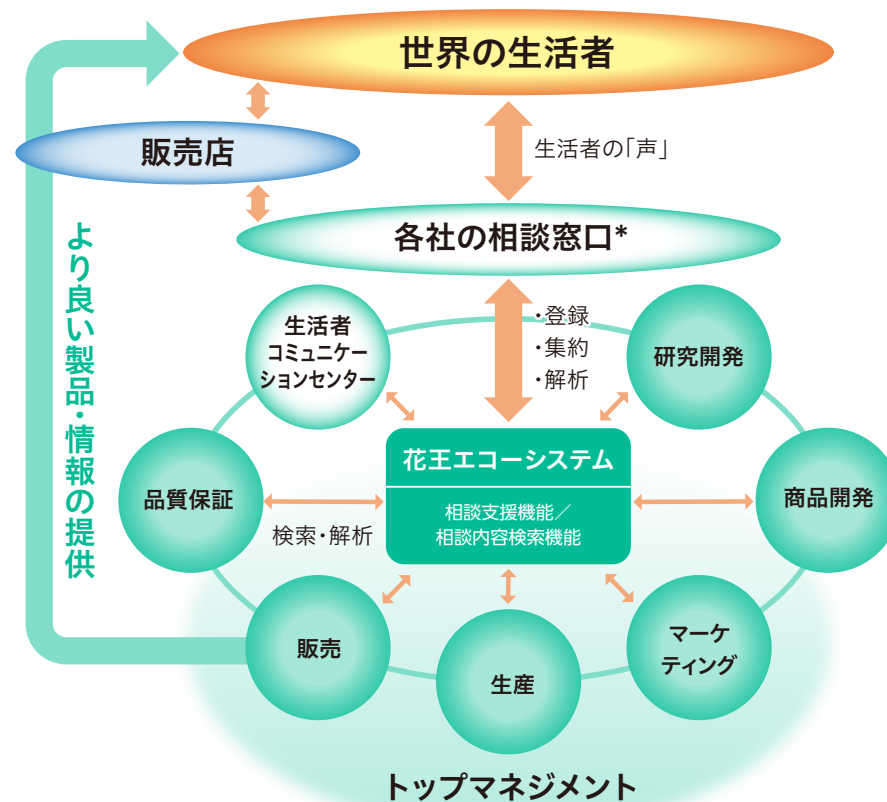
花王の相談対応に満足いただけたかどうか、改善点がないかを把握するために、相談者を対象に、花王の対応に関する評価を定期的に調査しています。調査結果は、相談対応のさらなる改善・改良に活かし、相談者の満足度向上に努めています。

体制

生活者コミュニケーションセンターは、「花王エコシステム」を活用して、相談に必要な商品情報、FAQなどの支援情報を共有し、「正確・迅速・親切」をモットーに、生活者の気持ちに寄り添う相談対応を行なっています。相談窓口には

いただいた声は、「花王エコシステム」に集約しており、ここに蓄積された300万件以上の生活者の声を社内全体で共有し、“ESG よきモノづくり”につなげています。各部門がそれぞれに解析して、グローバルな品質向上活動推進、サステナブルな製品の開発、生活者に向けた情報開発などを行なっています。

生活者の声を製品に活かすしくみ



*日本は生活者コミュニケーションセンターが担当

生活者とのコミュニケーション 103-2,103-3,417-1

中長期目標と実績

中長期目標

- ・生活者がいつでも自分にあったコミュニケーション手段で相談できる環境を整備していきます。
- ・安全・安心に関わる信頼性情報、成分情報、製品情報だけでなく、生活者の暮らしにおける困りごとの解決策等を、生活者との多様なコミュニケーションチャネルを通じて提供し、企業価値の向上に貢献します。
- ・「花王エコシステム」を通じて社内の多くの関連部門で生活者の声を共有・活用し、国内のみならずグローバルで展開される製品の開発、改良につなげます。
- ・消費者対応における情報セキュリティを強化し、場所、時間にこだわらない多様な働き方を提供することで、生活者とのコミュニケーション機能を維持していきます。

生活者とのコミュニケーションに関する主な活動

1. 電話やeメールなどによる消費者相談
2. ウェブサイトを活用した情報の発信
3. Q&A サービス(Yahoo! 知恵袋)に投稿された質問へのアクティブサポート
4. 消費者団体、消費生活センターなどとの情報交換
5. 消費者向けイベントでの交流活動

中長期目標の達成により期待できること

事業インパクト

- ・多様なコミュニケーション手段の提供による対人対応の効率化
- ・公開情報の充実が生活者の自己解決率の向上につながり、生活者の満足度とブランドロイヤリティ向上
- ・AIを活用したバーチャル対応による消費者対応業務の効率化
- ・消費者相談窓口の多言語対応による外国人の満足度とブランドロイヤリティの向上
- ・風評の拡散抑制による生活者の花王に対するブランドロイヤリティの維持

社会的インパクト

- ・地球環境に配慮した倫理的消費行動の実現
- ・情報の充実と多言語化、およびその入手手段の多様化によるダイバーシティ視点での生活の質向上
- ・正しい商品知識、安心できる製品選びによる生活の質向上、衛生意識の向上

2020年の実績

1. 電話やeメールなどによる消費者相談(グローバル)

2020年、日本において電話やeメールなどで寄せられた相談件数は、花王(株)およびニベア花王(株)、(株)カネボウ化粧品の合計で約19万4千件(前年比86%)と、窓口閉鎖期間が大きく影響しました。日本を除くグローバルの合計では約3万4千件(同比95%)の相談がありました。事業部別では、新型コロナウイルスに関する製品相談の増加により、ビオレ約2万9千件(前年比177%)、ホームケア約2万9千件(前年比107%)と増加しました。一方、化粧品(ソフィーナ、キュレル、カネボウ化粧品)は、約4万1千件(前年比65%)と減少しました。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、暮らしの衛生に関する相談が増加、特に、手指消毒、住居や身のまわりの除菌については、行政やメディアで大切さが伝えられるとともに相談が急増しました。しかし、4～5月には緊急事態宣言を受けて電話窓口を一時閉鎖し、再開後も受付時間の短縮営業を継続したため、電話しか情報入手の手段がない方にはお待ちいただくことになりました。一方、eメールの相談件数は、電話相談窓口閉鎖中には昨年(2019年)の3～4倍、電話相談窓口再開後も2倍の相談が寄せられました。

また、アジア各社の相談対応は、約3万5千件(前年比96%)でした。2017年にスタートしたグローバルの声を共有できる新たなシステム(第7次花王エコーシステム)は、2019年にアジア各社にも導入し、2020年は欧州でカネボウ化粧品の販売する各社への導入が完了しました。今回の導入により、カネボウ化粧品に寄せられるすべての消費者相談は、世界全体で共通のルールで相談情報が登録され、調査回答・報告、集計・解析などが一つのしくみでできる体制となりました。

アジア各社の消費者相談対応者が一堂に会する会議は、オンラインにて実施しました。今回は、特にコロナ禍での各社の消費者相談の取り組みをテーマに意見交換を行ないました。今後も各社の1年間の活動成果を共有し、相互に学ぶ機会とすることで、アジア全体の消費者相談対応の品質向上につなげていきます。

2. ウェブサイトを活用した情報の発信(日本)

2020年はコロナ禍の衛生対策について、行政やマスコミなどからさまざまな情報が発信されました。それに伴い花王製品の効果や使用方法についてのお問い合わせなどが多く寄せられるようになりました。そこで、ウェブサイトのよくあるお問い合わせや製品カタログ上の使い方、注意表示、Q&Aを改訂してタイムリーに情報提供を行ないました。

情報は「感染対策に関して最近増えたお問い合わせ」としてまとめ、海外の方にも参照いただけるよう英文サイトも準備しました。関連ページのアクセス数は非常に多く、直接相談のなかった生活者に対しても、情報を伝えることができたことと推察しています。



→感染対策に関して最近増えたお問い合わせ
www.kao.com/jp/support/corona/

3. Q&A サービスに投稿された質問へのアクティブサポート(日本)

「Yahoo! 知恵袋」上で、「花王公式サポート:kao_official」

として、生活者が投稿した悩みに回答する活動を2015年より開始し、2020年は約900件に新規回答しました。ソーシャルメディアの特徴として、回答内容が継続公開され、同じ疑問を持つ方に閲覧されるため、正しい情報発信に役立っています。2020年には、これまでの累計回答数は約7,300件、累計閲覧数は約540万件となりました。

2020年は、ウイルスの消毒・除菌に関連して、消毒液、塩素系漂白剤などの有効とされる製品の濃度や具体的な使い方に関する質問が増加しました。新型コロナウイルス感染症関連の質問は7月に一旦減少したものの、8月以降は増加傾向が続きしました。

4. コロナ禍によって影響を受けた社外活動

消費者団体、消費生活センターなどとの情報交換

消費生活センターを主として、例年100カ所程度消費者行政を担う機関を訪問し、情報交換を行なっていましたが、人の移動、訪問での面会が制限されていることから、例年通りに活動報告書をお送りし、継続的に活動していることが伝わるよう努めました。

消費者向けイベントでの交流活動

緊急事態宣言で、人の移動、密集が制限されていることから、2月以降は、予定されていたほぼすべての交流活動が中止されました。緊急事態宣言解除で移動が緩和された後に、市民講座などの交流活動の要望に応えるため、2021年以降、オンライン講座などでの対応を検討します。

具体的な取り組み

ご愛用者とのコミュニティサイト「Kao PLAZA」

花王では、コミュニティサイト「Kao PLAZA」を運営し、花王製品のご愛用者とともに、“よきモノづくり”をめざす活動を進めています。

「Kao PLAZA」設立の経緯と活動概要

生活者のニーズが見えにくくなっている今日、日頃から花王製品をご愛用いただいているお客さまとの継続的な対話が重要と考え、2013年からコミュニティサイト「Kao PLAZA」における活動を本格的にスタートしました。

一般的なCRMは、お客さまのロイヤリティを向上することを目的としたマーケティング手法とされていますが、それだけではなく、主にご愛用者の貴重な声に傾聴することを通じて、生活者の隠れた心理や小さな生活の変化を見逃さないように努め、花王ウェイに掲げる「消費者・顧客を最もよく知る企業に」の深化をめざしています。

会員数は約170万人（2021年3月現在）。女性、男性ともに、花王製品ユーザーの幅広い年齢層にご登録いただいているため、さまざまなお客さまの生活場面や価値観を俯瞰することができます。



生活の知恵を交換するオウンドコミュニティ

会員さまとのコミュニケーションにおいて最も大切にしていることは、「会話のキャッチボール」です。さまざまなコンテンツを発信すると同時に、会員さまのホットな反応を即座に受信するしくみを設置しています。

コミュニティコーナー「みんなのホーホー」

なかでも、会員さま専用のコミュニティコーナー「みんなのホーホー」では、暮らし関連のテーマについて日々活発な会話が交わされています（月平均約2.5万投稿）。会員

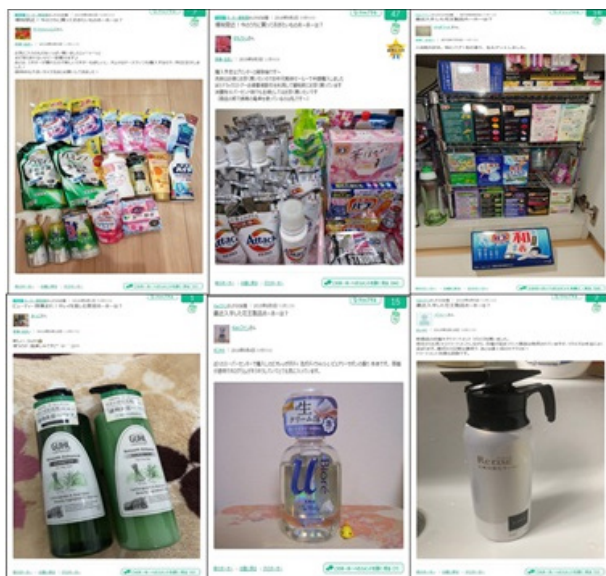
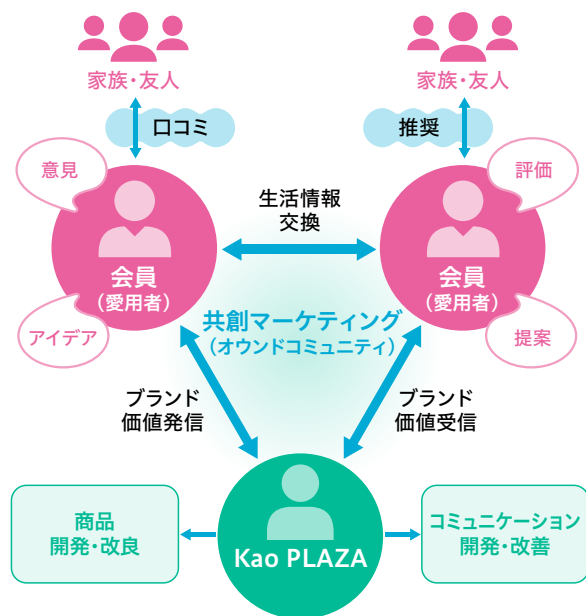
さまにとっては、生活の知恵やアイデアを得られる場であり、花王にとっては、忌憚のない多くの生の声から、花王製品の使用実態や生活変化の予兆などを能動的に収集できるデータ資産となっており、分析と社内活用を進めています。

2020年の活動では、新製品について、当該ブランドの愛用者から多くのご評価を収集し、どのようなお客さまがどのような価値に共振されるのか、見落としていた課題はなかったかなどを可視化することで、ブランドコミュニケーションの受容性や改善の方向性を迅速に確認することができました。

また、社会的不安が広がり始めた4月には、新型コロナウイルス感染症による生活やお気持ちの変化、花王製品との関わりについて、多くのお声をいただき、花王が発信すべき情報やコロナ禍における花王製品の提案のあり方など、示唆を得ることができました。生活が大変な状況の中でも、こうした貴重なお声をいただけるのは、ご愛用者さまならではの資産と考えます。

→ Kao PLAZA
member.kao.com/jp/plaza/

共創マーケティング



知・楽・感・参 4つの視点

会員の皆さまへお届けするコンテンツは、知・楽・感・参(知る・楽しむ・感動する・参加する)の4つの視点を中心に企画制作されています。ブランドに紐づくものとコト軸を中心にしたものと大きく分かれていますが、実際的で有用な情報の伝達、Kao PLAZA への親近感・信頼感の醸成、訪問頻度やロイヤリティの向上などを主目的としています。

往復書簡

会員さまとの共創コンテンツ「往復書簡」には、さまざまなご意見が寄せられます。「花王さんならではの視点でとてもためになった」、「読みやすく、面白いので、これからも続けてほしい」など、大変うれしいご感想もいただきます。それらの生の声を掲載させていただき、あわせてスタッフからの感謝を込めたお返事で構成しています。

会員さまとのコミュニケーションがそのままカタチとなった企画で、この記事をきっかけに各コンテンツを読みだしたという会員さまもたくさんおられます。また私たちの返事に再びお返事をくださる会員さまもいて、まさに「すべての会員と家族になる」というKao PLAZAの理念を体現したものとなっています。



ご評価の背景を読み解き、企業活動の深化につなげる

Kao PLAZA では、商品に関するさまざまなお声を傾聴するのみならず、花王の多様な企業活動(ピンクリボンキャンペーン、花王芸術・科学財団の活動、工場見学など)についても、それぞれの取り組みのねらいをご理解いただき、時には会員さま自ら企業活動にご参画いただく機会を設けています。

また、生活者を取りまく環境が大きく変化する中で、企業や各ブランドのロイヤリティを定量的に計測するグローバル指標:NPS(Net Promoter Score)をKao PLAZAの開設以来経年で観測しています。当指標は、お客さまの購買量と深い相関があることを確認しており、どのような企業活動や各事業活動が認知され、ロイヤリティの醸成と密接につながっているかを考察しています。

たとえば、2020年に実施した調査結果の一部では、NPSのスコアが高いKao PLAZAの会員さまほど、「研究開発力・商品開発力が優れている」、「生活を豊かにする商品・サービスを提供している」といった取り組みをしっかりと知覚されていることが伺えました。

花王が発信する数々の情報が生活者にとってどのように映るのか、企業活動の深化においても、ファンのご評価やその理由、背景を誠実に考究し続けることが一層重要になるものと考えています。

花王のESG活動情報の発信

Kao PLAZAの新しい試みとして、2020年から「花王のESG活動取り組みの連続発信」にトライしています。ESG活動を、企業情報という経営側面だけではなく生活者の身近な話題として、わかりやすく説明することに注力しています。

また、ESG理解のコアとなる記事だけでなく、「あなたの知らない容器の世界」という気軽に読めるミニシリーズや、ご好評のママ向けコーナー「みんなの子ばなし」にもエコロジー関連記事を企画し相互リンクするなど、多彩な切り口の構成と統合に挑戦しています。

会員さまはすでに花王へのロイヤリティの高い方が多いものの、「活動を知らなかった」、「読んでますます愛着がわいた」、「もっとPRすべき」などのご感想をいただいております。花王への期待を感じつつ、よりよいコミュニケーションのあり方を模索する毎日です。

この試みは2021年以降も継続し、会員さまにおける花王ESG活動の認知向上をめざします。



コロナ禍における生活の変化を傾聴

2020年、私たちは、急速に広がった新型コロナウイルス感染症への不安、外出規制の長期化による生活様式の大きな変化を経験しました。3月前後には、マスクや衛生用品などの入手困難の状況も顕在化し、混乱の日々が続きましたが、そのような中で、約1万5千人の会員さまから生活の近況や心配ごと、花王製品への接し方の変化などのお声が届きました。

先の見えない毎日でたまるストレスや、自宅で過ごす時間が多かったことから掃除や洗濯の頻度が増加したというお声、手洗い頻度が増えたことによる手荒れへの悩み、キュキュット、ハイター、クイックルといった普段からお使いいただいている花王製品の品質への信頼、ご要望のお声もいただきました。また気持ちを少しでも和らげたいという理由から、柔軟剤や入浴剤の香りへの評価など、多くの示唆をいただきました。これらのお声は、5月初旬に社内関連部門へ発信し、こうした状況下だからこそお客さまに安心いただける製品や情報発信のあり方について、早期に検討することができました。

2020 CRM ベストプラクティス賞受賞

2020年、花王の「Kao PLAZA」の取り組みが評価され、一般社団法人CRM協議会が選定する「2020 CRM ベストプラクティス賞」を受賞しました。

この賞は、ITを活用して、顧客と長期的な関係を築く経営手法(CRM:Customer Relationship Management)で成果を上げている企業・組織・団体を表彰するもので、花王

は今回初めての受賞となります。

受賞対象になったのは、「Kao PLAZA」における「ファン共創コミュニティサイト活用モデル」です。「Kao PLAZA」では、会員さまを花王製品ユーザーの代表としてご登録いただいている大切なステークスホルダーと「顧客」を「個客」(一人ひとりの生活者)として捉え、双方向の対話を通じて、ともに学び、ブランド価値を高めていく「共創型コミュニティサイト」をめざして活動しているという点が評価されました。

社内の取り組みが、このような形で外部から評価されることで、活動の意義をあらためて認識し、同時に業界の模範となれるよう、より研磨していく必要性を実感する機会となりました。



2020 CRM ベストプラクティス賞受賞

「ヒト」と「デジタル」を融合した新たなプラットフォーム

デジタル技術が生活の中へ浸透し、市場の多様性がますます進行する中、お客さまの行動や心理変容の機微を迅速かつ正しく理解するためには、「デジタルトランスフォーメーション」が有力な戦略になると考えられます。

今後は、デジタルを用いたお客さまとの新たな接点づくりを進め、そこから得られるデータの活用領域を広めるとともに、CRMならではの対話を引き続き大切にしながら、花王の総合力を発揮したOne to One マーケティングの精度向上に取り組んでいきます。

消費者志向の取り組みとその評価

新型コロナウイルス感染症関連の相談急増に合わせた情報提供

急増した新型コロナウイルス感染症関連のお問い合わせについては、感染対策に関して最近増えたお問い合わせとしてまとめ、ウェブサイトの上位に表示されるよう改訂しました。生活者の知りたい内容に合わせて随時更新も行ない、また、海外の方も参照できるように英文サイトも追加しました。

また、よくあるお問い合わせは、生活者の知りたい内容に合わせて随時更新を行ないました。窓口閉鎖期間中には感染対策に関するお問い合わせが多いもので40万/月のアクセスとなり、ウェブサイトから情報を得ようとする動きも顕著でした。

働く母親を応援する『日々の世界のつくりかた』ワークショップをオンラインで実施

子育てしながら働く女性を応援するためのパターン・ランゲージ『日々の世界のつくりかた』は、慶應義塾大学井庭研究室との共同研究で作成したもので、自分らしく育児と仕事を両立するための工夫を34個の言葉にまとめています。2017年より同冊子をサイトで公開するとともに、このパターン・ランゲージを活用したワークショップも継続的に実施しています。

2020年は新型コロナウイルス感染症の影響でワークショップ開催を一時休止しましたが、社外のキャリアコンサルタントや育休後アドバイザーの方々との連携により、夏以降はオンラインでワークショップを再開し、11回120名の参加が得られました。

ワークショップ参加者からは「家族との時間をもっと大切にしたい」「子どもと自分の成長をさらに考えていきたい」など、with コロナを前向きに楽しく暮らすためのヒントが得られたという好評の声をいただいています。

コロナ禍で育児や仕事をとりまく環境も変化する中で、引き続きこの活動を通じて、育児と仕事の両立について考える機会を提供し、よりよい明日の「子育てしながら働く暮らし」を生活者とともに考えていきます。



→パターン・ランゲージ『日々の世界のつくりかた』

※PDFをダウンロードできます

www.kao.co.jp/lifei/

パターン・ランゲージを使ったワークショップの実施実績

	社内(回/人)	社外(回/人)	計(回/人)
2017年	11/120	9/250	20/370
2018年	—	15/264	15/264
2019年	—	23/455	23/455
2020年	—	11/120	11/120
計	11/120	58/1,089	69/1,209



生活者とのコミュニケーション

with コロナの暮らしを快適にする生活情報を『くらしの研究』サイトでタイムリーに提供

『くらしの研究』は、花王の生活者研究から得られた知見や暮らしに役立つHow Toを提供する生活情報サイトで、2014年から公開しています。2020年は新型コロナウイルスの感染拡大に対して、with コロナの暮らしをより快適にする生活情報のタイムリーな発信に努めました。

衛生関連では「手洗い・手指消毒の方法」や「除菌を意識したお掃除(リビング・キッチン・トイレなど)」「エコバッグのお手入れ方法」、ステイホーム下のおうち時間を楽しむコツや健康法については「with コロナの夏を快適に過ごす生活術(睡眠など)」「リフレッシュできる入浴方法」「おうちごはんの後片付け(ホットプレートの洗い方)」「家トレグッズのお手入れ」「家庭の備蓄」といった記事コンテンツを毎月公開し、また「新型コロナウイルスが暮らしに与えた影響」といった生活者調査レポートも定期的に発信しています。

こうしたコロナ禍の暮らしに役立つ情報発信は生活者の好評を得ており、『くらしの研究』のサイト閲覧数も大きく増え、毎月20~30万PVのアクセスを記録しています。また記事を新聞やネットニュースなどに幅広く引用・転載してもらうことで、より多くの生活者へ情報を提供することもできました。

『くらしの研究』サイトは、今後もニューノーマルの暮らしに寄り添い、生活者に役立つ情報発信を強化していきます。



『くらしの研究』サイト トップページ



2020年に反響が大きかった記事「新型コロナウイルスが暮らしに与えた影響」「あなたのエコバッグは洗える?」

→『くらしの研究』
www.kao.co.jp/lifei/

花王は、豊かな生活文化の実現とよりよい持続可能な社会に向けて社会貢献活動を推進しています。

事業で直接アプローチできない課題については、地域社会やNGO／NPOと連携しながら、長期視点で取り組んでいます。また、社会との接点をつくり、社員の学びの場をつくるため社員参加型の活動や、モノづくりの基盤を支える文化の発展のためのメセナ支援、(財)花王芸術・科学財団による活動も行なっています。

ESG キーワード	手洗い啓発	花王・ベトナム衛生プログラム	月経教育・月経衛生環境向上への貢献	ピンクリボン活動	情報のバリアフリー	次世代育成
	花王国際こども環境絵画コンテスト	若手社会起業家育成	花王ハートポケット倶楽部(社会的活動への社員参加)			
	タイ北部“FURUSATO”環境保全プロジェクト	メセナ支援	東日本大震災復興支援	新型コロナウイルス感染症への対策支援		

社会的課題と花王が提供する価値

認識している社会的課題

清潔・衛生や健康は、人の暮らしの基盤ですが、経済格差、ジェンダーなどさまざまな格差がもたらす不平等から、現代の進歩に見合ったサービスを楽しめていない人たちが数多く存在します。さらに、新型コロナウイルス感染症の脅威は、石鹸や清潔な水などにアクセスできない脆弱な立場にある30億人※の人々に大きな打撃を与えています。

また、先進国、新興国、開発途上国、それぞれの社会で抱える課題は違っても、毎日が充実し、心身が満たされこころ豊かに暮らせる社会がより一層求められています。世界幸福度調査では、世界全体の傾向として心配や悲しみなどネガティブな感情が増加しているのが現実です。

さらには、気候変動やごみ問題など、私たちの暮らしを支える環境に対する問題も、国際社会全体で取り組むべき喫緊の課題となっています。

すべての生活者がその課題を意識し、日々の生活の中で

行動を変えていく必要があります。

これら社会的課題の解決に向けて、企業はその事業活動を通じて貢献するとともに、企業の強みを活かした技術支援、啓発活動や寄付、連携などを通じた包括的な視点での取り組みを行なうことがますます重要になってきています。

※ WHO/UNICEF Joint Monitoring Programme (JMP) 2019「Progress on household drinking water, sanitation and hygiene 2000-2017: Special focus on inequalities」

花王が提供する価値

花王は事業活動を通じて社会のサステナビリティに貢献するとともに、事業や製品では直接アプローチできない多くの生活者、特に最も弱い立場の人々も含めた、誰もがこころ豊かで健康で快適な生活を実現できる社会をめざし、社会貢献活動、啓発活動などを通じて、広く社会に貢献していきます。

自社の持つリソースや強みを活かした、清潔・美・健康の

事業領域において、また、地球環境に関わる課題において、生活者が行動を変え周囲の人にも影響を与えられるような啓発活動や、技術支援、寄付、異業種連携・マルチセクター連携などの、さまざまな形で支援を行なっていきます。

また、多様なコミュニティが抱える社会的課題に寄り添い、その解決や地域活性化への貢献、メセナなど、豊かな生活文化の発展に関わる支援を行なっていきます。

「2030年までに達成したい姿」の実現に関わるリスク

ステークホルダーに対する適切な配慮の欠如やエンゲージメントの不在は、顧客や社員をはじめとするすべてのステークホルダーからの信頼を失うだけではなく、花王の将来的なブランド価値の毀損も招くおそれがあります。

「2030年までに達成したい姿」の実現に関わる機会

花王は消費財メーカーとして常に暮らしに寄り添う事業

社会貢献活動 102-12,102-15,103-1,103-2

活動を行ってきました。近年、生活者は利便性や満足度の向上だけでなく、よりよい社会に向けて正しい選択と行動をしたい、また周囲の人々やとりまく社会も同様であってほしい、という思いを抱いて生活しています。

花王は、衛生と水、健康、生活の質の向上、ごみ問題など暮らしに身近な社会課題の解決に、これまで培ってきた技術、知見、ネットワークなどを通じて寄与することができ、また、生活者の思いに応える活動を行なうことができると考えます。

活動の結果、世界中の人々のところ豊かで健康で快適な、持続可能な生活(Kirei Lifestyle)になくなくてはならない存在になることをめざしています。

貢献するSDGs



方針

花王は、清潔・美・健康の事業領域や、地球環境、多様なコミュニティに関わる社会課題に対し、自社の持つリソースや強みを活かした取り組みを通じて、世界中のすべての生活者が、こころ豊かで持続可能な生活(Kirei Lifestyle)を実現できる社会をめざして、社会貢献活動を行ないます。

花王グループ社会貢献活動のグローバル指針

ビジョン

すべての人に、キレイライフスタイルを。

すべての人々が健康で、サステナブルな暮らしであることを願い、キレイライフスタイルを実現できるようにします。

重点分野

●健康でインクルーシブなライフスタイルの推進

健康で、衛生的な暮らしを実現させながら、偏見がなく、心身ともに自分らしく生きることができる社会へ。すべての人々が機会を拡げ、可能性を高められるように働きかけます。

●サステナブルなライフスタイルの推進

私たちが暮らす地球にやさしい、より良い環境をつくりながら、持続可能に生活していくことができる世界へ。すべての人々が機会を拡げ、可能性を高められるよう働きかけます。

活動方針

- ・生活者が自身の行動を変え、周囲の人々にも影響を与えられるよう、情報や知識などを提供します。
- ・弱い立場の人々も含め、すべての人々がキレイライフスタイルを送ることができるように、サポートします。
- ・社員や生活者が社会的活動に参加する機会を増やすことで、やりがいをもって活動し、社会との結びつきが強くなるように推進します。
- ・国や地域、多様なコミュニティが抱える課題に寄り添い、必要とされるように支援します。

社会貢献活動 102-43,103-2,404-2

教育と浸透

世界中の人々のKirei Lifestyle実現のために、花王社員は、モノづくりや啓発活動を通じて、生活者の行動変容を促せるように意識すること、また世界中の多様な生活者、特に脆弱な立場の人々の暮らしに配慮すること、が大切だと考えています。

そのために、広く多様な社会や生活者の状況を学んだり、社会課題解決に取り組む人々と直接交流したり、自ら社会貢献活動に参加するなどして、視野や創造力を広げることが必要だと考えています。イントラネットなどを通じて、社会の実情を学ぶ情報を発信したり、NGOや社会起業家との交流の場、ボランティア活動への参加の機会などを提供しています。

その結果、ボランティアや交流会への参加者は増加傾向にあり、事業においてもコーズマーケティングを検討するケースがみられます。

2020年は、グローバルでのべ1万人を超える社員が、会社が企画する社会貢献プログラムやボランティア活動に参加しました。こういった活動の結果、事業においても、ブランドパーパス実現の取り組みのひとつとしてコーズマーケティングなどを実施する動きもみられています。

ステークホルダーとの協働／エンゲージメント

世界中の人々がKirei Lifestyleを実現するため、社会貢

献活動においては、ステークホルダーとの対話・協働を通じ、複雑化する社会からの要請をより深く理解するとともに、一企業では果たせない、よりインパクトの大きい働きかけができると考えて活動しています。

特に、清潔・衛生・健康の分野では、地域の状況を深く理解し高い専門性を有するユニセフ、UNFPAなどの国連機関やNGOとの連携、環境分野では生活者を巻き込み、行動変容が効果的に行なえるよう、行政や自治体、学校などと連携した取り組みを行なっています。

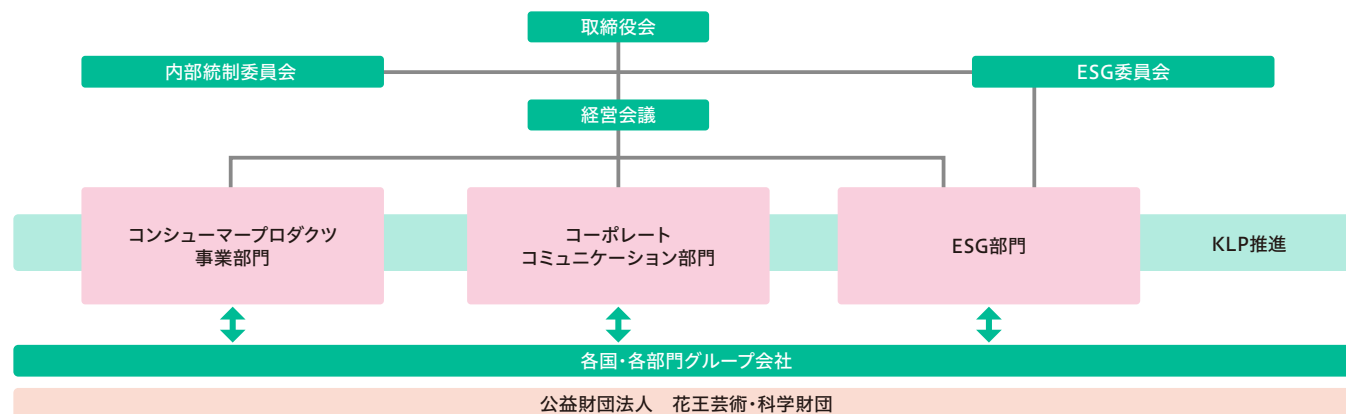
また、社員が社会貢献活動へ参加することは、会社へのロイヤリティを高め、事業の発展と社会へのさらなる貢献に向けた活力となると考えています。

体制

花王のESGビジョンであるKirei Lifestyleの実現のため、ESG部門が中心となり、コーポレートコミュニケーション部門、コンシューマープロダクツ事業部門、その他の関連部門や日本・グローバルの各社と連携して、取り組みを進めています。

国内外各社・事業場には、社会貢献活動調査を年1回実施して活動報告を受け、調査結果を共有しています。

社会貢献活動推進体制



※2020年12月現在

中長期目標と実績

中長期目標

清潔・美・健康の事業領域や、地球環境に関わる分野を中心に、事業や製品では直接アプローチできない人々、脆弱な立場の人々も含め、誰もがこころ豊かで快適な生活を実現できるよう貢献していきます。また生活者が、こころ豊かで快適な生活をめざして行動を変えていけるよう支援していきます。

さらに、社員が社会貢献活動に参加し、社会との接点をつくり視野を広げることで、“よきモノづくり”に活かすことをめざします。

健康でインクルーシブなライフスタイルの推進

清潔・衛生

①ベトナム学校衛生プロジェクト

2016-2020年の5年間で60校35,000人への支援を目標

②ベトナムにおける病院内の感染管理・衛生環境の向上

ハノイ医科大学病院での感染管理・衛生環境の向上をめざした取り組みを実施。2018年からの5年間で他病院へも展開

③ハノイ市内小学校での手洗い啓発

ハノイ市内小学校で手洗い啓発を実施し、清潔・衛生習慣の定着をはかる

④衛生奨学金制度

大学院修士課程で食品衛生・衛生管理を学ぶベトナムからの留学生1名に奨学金支援。2018年からの6年間で3名

を支援

⑤インドネシア月経衛生啓発

2018年から2020年までの3年間で12,000人への啓発と2,500人の行動変容

ダイバーシティ&インクルージョンの実践

①花王社会起業塾：若手社会起業家を毎年3団体育成支援

②共生社会に向けた理解促進：ボッチャ競技の普及拡大の推進

女性と子ども(次世代)への配慮

①ピンクリボンキャンペーンを通じたがん予防啓発

- ・中高生に向けたがん教育プロジェクトの支援
- ・商品や社内プログラムを通じたがん教育プロジェクトへの寄付の実施

②JSEC(高校生・高専生科学技術チャレンジ)：毎年3校最大9名の高校生を支援

サステナブルなライフスタイルの推進

生活者のサステナブルなライフスタイル推進に向けた環境コミュニケーションの実施

社会的活動への社員参加の推進

①グループ社員による社会的支援を目的としたクラブ組織「花王ハートポケット倶楽部」の運営

②イントラネット等による社員参加型活動の情報発信強化

中長期目標を達成することにより期待できること

事業インパクト

エシカルな消費行動が拡大する中、目標とする活動の確実な推進と社外への継続的なコミュニケーションにより、顧客からの信頼を獲得することで、結果として長期的なロイヤル顧客の獲得につながることを期待しています。

社会的インパクト

衛生・清潔や健康の正しい習慣の普及と定着により、支援するコミュニティの衛生状況の改善や中長期的な生活の質の向上を期待するとともに、キレイラフスタイルプランでコミットメントする、10億人の人々の心豊かな暮らしに貢献します。

また、生活者への環境コミュニケーション・啓発を実施することで、自ら行動を変え、それを周囲に広げていく生活者が増え、サステナブルな社会の実現に向けた原動力になっていくと考えています。

さらに、社会的活動への社員参加を促すことで、社員の創造性を活性化し、社会に貢献できるより革新的で価値の高い“よきモノづくり”へ活かされることを期待しています。

2020年の実績

実績

健康でインクルーシブなライフスタイルの推進

清潔・衛生

①ベトナム学校衛生プロジェクト

2016-2020年の5年間の目標である60校35,000人への支援を完了

- ・ディエンビエン省の幼稚園10校(児童3,710人、教員180人)に啓発セッションを実施
- ・ディエンビエン省の93村(36,830人)に、手洗い啓発を実施
- ・ディエンビエン省の126人のコミュン職員、保健員、村のリーダーに家庭での安全な水の入手のためのセッション実施
- ・ディエンビエン省の4校(児童、教員591人)に給水管を設置

②ベトナムにおける病院内の感染管理・衛生環境の向上

- ・ハノイ医科大学からの視察を受け入れ日本の感染管理の取り組みを紹介
- ・2019年に実施したハノイ医科大学病院での手指衛生遵守率向上に向けた介入試験の成果発表会をオンラインで実施

③ハノイ市内小学校での手洗い啓発

- ・ハノイ医科大学と協働し、手洗い啓発教材を開発。小学校2校で啓発を実施

④衛生奨学金制度

日本の大学院修士課程で留学生を受け入れ。2018年10月より一人目の奨学生を受け入れ、2020年3月に卒業。2020年4月より二人目の留学生を受け入れ

⑤インドネシア月経衛生啓発

- ・オフラインや対面式の普及活動、指導者・キャンペーン集会はすべてキャンセル
- ・代替として、オンライン学習、TV・ラジオ学習、紙資料などを活用した啓発を実施
- ・「世界月経衛生の日」には、「緊急下のMHM」をテーマにオンラインでのコンテストを実施

⑥手洗い啓発

●日本

- ・教材提供949件(全体で1,934件)
- ・出張授業は非実施

●台湾、インドネシア

- ・約59千人の児童に手洗い啓発実施

⑦初経教育

●日本

- ・11,694校・約715千人の女子小学生に初経セット配布
- ・3校に、啓発用小冊子「からだのノート おとなになるということ」の音訳CDを送付

●インドネシア、ベトナム、タイ、マレーシア、台湾、香港、中国

- ・約358千人の女子小中学生に初経セット配布

ダイバーシティ&インクルージョンの実践

①花王社会起業塾：若手社会起業家を毎年3団体育成支援

- ・3団体への支援を決定。事業成長のための機会を提供
- ・社会起業塾キックオフ研修をオンラインで実施。特別講座は社員も126名が参加

- ・「花王社会起業塾10周年記念講演会」をオンラインで開催
卒塾した6名の社会起業家が発表し、社員134名が参加

②共生社会に向けた理解促進：ポッチャ競技の普及拡大の推進

- ・公式SNSなども活用し社内外への情報発信
(社外向け2回、社内向け1回)
- ・協賛大会の運営や代表選手の強化活動において製品寄付

女性と子ども(次世代)への配慮

①ピンクリボンキャンペーンを通じたがん予防啓発

- ・中高生に向けたがん教育プロジェクトの支援
- ・10月～11月に、アジア事業展開国の一部とロシアの花王グループ会社9拠点で化粧品カウンセリングコーナーの美容部員や社員が啓発活動を実施
- ・特設ウェブサイト開設による情報提供
- ・対象製品購入やクリック募金に応じた寄付
- ・シンポジウムへの協賛：Global Conference on Breast Health(オンラインにて開催)
- ・社員のピンクリボンバッジ着用、イントラネットでの社員啓発
- ・社員参加型の寄付プログラム：フォト&イラスト募金

②JSEC(高校生・高専生科学技術チャレンジ)

- ・研究交流会をオンライン開催。85人の社員と受賞3校の学生など103人が参加(8月)
- ・JSEC2020に特別協賛し、花王賞と花王特別奨励賞を3校6人の高校生に贈呈(12月)

サステナブルなライフスタイルの推進

生活者のサステナブルなライフスタイル推進に向けた環境コミュニケーションの実施

- ①第11回花王国際こども環境絵画コンテストの実施(12,884点)、動画コンテンツ制作とオンライン公開、入賞作品の展示活動(社内外約30か所)
- ②未来洗浄研究会セミナー開催(9月、12月)

社会的活動への社員参加の推進

- ①グループ社員による社会的支援を目的としたクラブ組織「花王ハートポケット倶楽部」の運営
 - ・会員数3,376名(2020年12月20日現在)
 - ・寄付件数43件/寄付金額9,142,100円
 - ・活動レポート4,020部(社内向け活動報告書、年1回発行)
- ②イントラネット等による社員参加型活動の情報発信強化
 - ・2020年度64件
 - ・社員参加型のイベント企画:東日本大震災の被災地ボランティア、花王社員の寄付組織「花王ハートポケット倶楽部」を通じたボランティア活動、事業場地域での地域貢献活動など

社会貢献活動費実績

花王の社会貢献活動を把握するため、国内外の関係会社、事業場、関連部門に、活動調査を実施。2020年の社会貢献活動費は、花王全体で10億6,100万円(寄付金2億1,400万円、活動費8億4,700万円)となりました。



→サステナビリティサイト> Corporate Citizenship Activities
www.kao.com/jp/corporate/sustainability/society/

実績に対する考察

2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、対面で実施する活動やイベントは、ほとんどが中止や延期を余儀なくされました。しかし、実施時期を延期・延長したり、オンラインでの実施に切り替えるなどの対応を行ない、生活者への啓発活動や支援が継続して行なえるよう努めました。活動の場がリアルからオンラインにシフトしたことは、支援のあり方を再考する機会ともなり、今後、活動の選択肢や可能性を広げ、活かしていく予定です。

具体的な取り組み

健康でインクルーシブなライフスタイルの推進:清潔・衛生

花王・ベトナム衛生プログラム

QOLの向上

清潔で美しくすやかな習慣

花王は、ベトナムにおける清潔・衛生習慣の定着に貢献するため、「ベトナム衛生プログラム」を実施しています。このプログラムは、「衛生管理リーダー育成プログラム」「衛生奨学金制度」「楽しい手洗い教室」「学校衛生プロジェクト」の4つの取り組みで構成されています。

衛生管理リーダー育成プログラム

病院内の感染管理・衛生環境の向上に向けた取り組みです。2020年は、前年に引き続き、ベトナムでのパートナーであるハノイ医科大学から関係者を日本に招き、日本の感染管理について紹介し、感染症専門家との意見交換の場を設けました。また、ハノイ医科大学病院で2019年に実施した手指衛生遵守率向上に向けた介入試験の成果発表会を実施しました。成果発表会には、ベトナムの保健行政関係者や病院の医療従事者および学生が参加し、日本からは感染症の専門家もオンラインで参加しました。

介入試験は、スタッフの手指衛生の実態を確認するモニタリングや、スタッフへの研修実施などにより意識啓発を図るもので、来院患者を含めた地域への啓発にもつながり

ました。実際に、手指衛生遵守率に改善が見られ、これらの成果を、成果発表会を通じて広く共有しました。

2021年には、こうした取り組みを引き続き強化しながら、感染管理の取り組みをさらに進めていく予定です。

衛生奨学金制度

ベトナムの保健衛生分野で活躍する食品衛生管理の専門家を育てることで、人々の健康な暮らしを実現していくことをめざしています。神奈川県立保健福祉大学と協力し、大学内に「花王衛生奨学基金」を設け、留学生に奨学金を提供しています。

2020年3月には、一人目の留学生が神奈川県立保健福祉大学大学院修士課程を卒業しました。修士論文は、日本とベトナムの食品衛生管理についての比較検討と病院厨房の菌の測定を通じた考察を行なったもので、病院での調査例が少ないなか、貴重な研究となりました。

2020年4月には、二人目となる留学生が来日し、同じく神奈川県立保健福祉大学大学院に入学しています。

楽しい手洗い教室

ハノイ医科大学と協働し、2020年より小学生向けの手洗い啓発活動を行なっています。

2020年は9月と10月に、ハノイ市内の小学校2校で、学校の手洗い設備設置状況を確認したり、児童の手洗いの様子を観察したり、学校関係者や児童へのアンケートを通じて、手洗いの状況を把握するベースライン調査を実施しました。

並行して、ローカライズされたわかりやすい教材も開発し、11月より、子どもたちへの手洗い指導も進めています。

2021年には、活動の効果を検証し、ハノイ市内の他の小学校への展開を進める予定です。啓発活動をより広く展開することで、将来を担う子どもたちのさらなる衛生意識の向上をめざします。

ユニセフ「学校衛生プロジェクト」を支援

経済格差の大きいベトナムでは、特に山間部や農村部、少数民族が多い地域の衛生環境が整っておらず、慢性の下痢疾患などで子どもたちの健康な発育が阻害されています。

花王は、2016年から、国連児童基金(ユニセフ)による学

社会貢献活動 203-1

校衛生プロジェクトの活動を支援しています。

ベトナム南部・メコン川流域のアンザン省での成果を受け、2018年から少数民族が多い北部山岳地域、ディエンビエン省に支援を拡大しました。

2020年は、コミュニティや学校における衛生支援活動を実施したディエンビエン省の36の村で屋外排泄根絶が宣言されました。

その他にも、省内3県にある10の幼稚園に通う3,710人の児童たちと教員180人がイベントを通じて石けんを使った手洗いに関する知識とスキルを向上させました。また、93の村において250回のコミュニティ啓発セッションが実施されました。36,830人が新型コロナウイルスに関連した啓発を受け、手洗いの重要性や衛生的なトイレの管理等の知識の向上につながりました。また省のうち6つの自治体の職員126名や保健従事者、村長らに、安全な水処理と貯蔵に関する知識とスキルを強化するセッションが実施されました。

2021年も、学校やコミュニティ主導の衛生環境改善や衛生習慣の促進を進めていきます。



アンザン省の子どもたちの手洗いの様子 ©UNICEF Viet Nam

月経教育・月経衛生環境向上への貢献

QOLの向上 清潔で美しくすこやかな習慣

日本の女子小中学生に向けた初経教育

花王は、1978年の生理用品の発売以来、40年以上にわたって、初経を迎える女の子たちとその家族や小学校に向けた初経教育の支援活動を行なっています。

日本では、月経やからだの変化についてまとめた啓発用小冊子と生理用品のサンプルをポーチに入れた初経教育セットを小学校に無償で提供しており、2017年からは公益財団法人日本学校保健会と連携し全国2万校への配布をめざして活動を拡大しました。

2020年は、11,694校へ配布しました。また、2018年に改訂した啓発用小冊子「からだのノート おとなになるということ」の音訳CDは2019年に全国の視覚支援学校と点字図書館に配布しましたが、ご要望を受け2020年は3校に新たに送付しました。

インドネシアの中学生に向けた月経衛生教育

2018年よりインドネシアにおいて、国連児童基金(ユニセフ)による「月経衛生管理プロジェクト」の支援を行なっています。

インドネシアでは、月経の正しい知識が十分に普及しておらず、4人に1人が初経までに月経の知識がなく、さまざまな迷信や偏見も依然として存在しています。また、学校における教育や衛生環境が十分に整っていないため、6人に1人が月経時に少なくとも1日は学校を休むという現実があり、女子生徒の出席率低下の一因になっています。

支援最終年となる2020年は、2019年に完成した中学生向けの教育冊子を活用した授業展開を計画していましたが、コロナ禍で学校の休校が10月まで続き、予定通りに完了することができませんでした。7月からは、オンライン授業のしくみに変更しましたが、すべての生徒がインターネットや携帯電話にアクセスできるわけではなく、特に農村部の学生は接続環境が悪く、学習の大きな障害となり、活動の進行にも遅れをきたしました。

2020年までの3年間で公立中学校40校にて男子生徒を含む12,000人以上の生徒へ授業を行ない、2,500人以上の行動変容を計画していましたが、今後半年間活動期間を延長し、目標を達成する予定です。

ウガンダ月経衛生環境向上プロジェクト

花王は、2019年2月より、国連人口基金(UNFPA)とパートナーシップを組み、ウガンダで低価格な国産生理用ナプキンの製造・販売をめざす若手社会起業家が立ち上げた企業「エコスマート」を支援しています。

アフリカには、貧困により生理用ナプキンを購入できず、使い古した布の切れ端や植物の葉などで代用している女性が多くいます。その結果、深刻な感染症にかかるケースが見られます。また、生理用ナプキンを使用できないために生じる衣類の汚れを気にして学校を休み、授業についていけなくなって退学することも少なくありません。

花王は、支援によりウガンダの女性が継続的に生理用ナ

プキンを使用できるようになり、月経期間をより衛生的で快適に過ごせるようになることを期待しています。月経期間中も休まず学校に通い、男女ともに等しく学べる環境は、社会全体のさらなる発展に寄与すると考えています。

2020年、エコスマートは、前年から行なってきた花王との情報交換や技術アドバイス、花王工場の視察などを受け、目標としていた、生産体制の整備、テスト用サンプル完成、政府認証の取得などを完了しました。これらのプロセスを通じ、チームメンバーや地元関連企業の能力開発、地域の人々の雇用にも貢献しています。

今後は、品質管理体制の整備や使用調査などを経て、現地向け生理用ナプキンの発売をめざし、より多くのウガンダの女性の清潔と健康に貢献していく予定です。



地元の学生の啓発を行なうエコスマートメンバー

健康でインクルーシブなライフスタイルの推進:ダイバーシティ&インクルージョンの実践

花王社会起業塾 QOLの向上

花王は、持続可能なよりよい社会を次世代に引き継ぎたいと考え、2010年より、社会課題をビジネスの手法で解決しようとする若手社会起業家の育成を支援する「花王社会起業塾」を実施しています。

「これからの新しい生活文化をつくる」をテーマに、生活者に寄り添い、よりよい暮らしに向けた基盤づくりに取り組む社会起業家を支援しており、約8カ月にわたり、専門家からのアドバイスを受ける機会や合同研修、人的交流・ネットワークの場を提供し、事業の軸をつくり、成長を加速させる支援を行なっています。なお、運営は社会起業塾イニシアティブ(認定特定非営利活動法人ETIC、〈エティック〉と複数企業*が連携して社会起業家を育成・支援するプラットフォーム)が行なっています。2020年度は以下の3組を支援しました。(これまでに32組を支援)

- ・伊澤貴大さん・絵理子さん(一般社団法人もも 共同創設者)
「学校が合わなくても自分らしく生きられる社会へ」
- ・伴元裕さん(特定非営利活動法人Compassion 代表理事)
「勝利至上主義から成長至上主義へ！成長マインドセットが育まれるスポーツ環境をつくりたい」
- ・吉田優子さん(株式会社アッテミー 代表取締役)
「18歳からの働き方改革！高校生向けインターンシップ申込サイト」

よりよい社会をつくる担い手を育てることに加え、近年は社会起業家たちと社員の交流活動に注力しています。社会課題解決に向けた熱い思いや事業戦略の立て方など、さまざまな気づきや学びを得る場を社員に開いてきました。

2020年度は、まず、支援起業家のはじめての研修である「社会起業塾キックオフ研修」の特別講座を社員がオブザーブ参加できるオンライン企画として9月24日に開催し、花王社員126名が参加しました。

また、2020年度はプログラム実施10周年という節目にあたることを記念し、11月10日、「花王社会起業塾10周年記念講演会」をオンラインで開催しました。これまで花王が支援した社会起業家の中で、今も事業を継続し、社会にインパクトを与えている6名の卒業生にご登壇いただきました。当日は全国からさまざまな部門の社員134名(過去最高)が参加し、起業家たちが取り組むそれぞれの社会課題と、その解決のための事業について講演を聴きました。卒業後、起業家たちが事業をさらに発展させ、社会にインパクトを与えている姿に、社員からは、「仕事に対する姿勢に感銘を受け、学ぶことがたくさんあった」「皆さまのエネルギーに勇気づけられた。会社においても起業家マインドをもって活動したい」などの声をいただきました。

2020年度の塾の運営や社内イベントはいずれも新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、オンラインでの

実施となりました。その結果、通常よりも広く全国各地の社会起業家から応募があったり、社員イベントにおいても全国から多くの方に参加していただくことができました。

また10年間を振り返り、このプログラムの社会的インパクト評価を行ない、価値を可視化する取り組みもスタートしました。これからも社会や社員にインパクトを与える活動を進めていきます。

※ 2020年度のオフィシャルパートナーはNEC、花王。プログラムパートナーは電通



「10周年記念講演会」に参加した社会起業家たちと事務局

社会貢献活動 417-1

一般社団法人 日本ボッチャ協会に協賛

QOLの向上

2019年6月に開始した(一社)日本ボッチャ協会とのゴールドパートナー契約を2020年も継続し、障がい者スポーツを通じた共生社会の理解浸透に向けた取り組みとして、社内外に向けた競技理念の理解や競技の普及・振興のための啓発活動を行ないました。

2020年は、社内外への啓発活動や協賛大会の中止と無観客での開催など、新型コロナウイルス感染症拡大による影響がある中で、日本ボッチャ協会の活動と連動した情報発信に主軸を置き、公式SNSなども活用して社内外への情報発信を行ないました(社外向け2回、社内向け1回)。また、協賛大会の運営や代表選手の強化活動において、製品を通じたサポートを行ないました。

2021年も引き続き、製品を通じたサポートとともに、定期的な情報発信を行ない、アフターコロナの啓発活動への参加促進につなげていきます。



感染拡大防止に配慮し無観客で開催された協賛大会「ボッチャ東京カップ 2021」

情報のバリアフリー

ユニバーサルプロダクトデザイン

花王は、日常生活に欠かせない製品を提供する企業として、社会に暮らすすべての人々が、分け隔てなく快適で豊かな日常生活を営んでいくことができるようにバリアフリーを推進し、その理解をめざす活動を行なっています。

特に情報化が進む中で取り残されがちな、視覚障がい者や高齢者に向けた情報のバリアフリーに取り組み、製品の点字シールの無償提供や生活情報を音声化して提供する取り組みを行なっています。

また、さまざまな障がいのある方々の生活の不便さを伝え、理解を図る内容のバリアフリービデオを学校等へ寄贈し、総合学習の教材として活用されています。

福祉施設への寄贈では、社会福祉協議会と連携し、選定した団体や社会福祉施設と民間が運営する滞在型施設に花王製品を寄贈するにあたり、コロナ禍で必要とされる除菌製品を中心にご提供し、お役立ていただいています。

2020年は、初経教育の支援活動の一環として、情報が不足しがちな視覚に不自由のある子どもたちやその家族、教育関係者の希望者に向けて、啓発用小冊子「からだのノート おとなになるということ」の音訳CDをご提供しました。

また、点字シール(家庭品用/化粧品用)の無償提供55件、バリアフリービデオの寄贈3件、貸出7件、福祉施設への製品寄贈を2回実施しました。さらに、日本点字図書館が発行する点字・録音による生活情報誌「ホームライフ」11月号に、生活情報の提供とともに、社員ボランティア1名が音声情報の収録に協力しました。

2021年以降も活動を継続していきます。



点字シール(家庭品用)



「からだのノート おとなになるということ」音訳CD

健康でインクルーシブなライフスタイルの推進:女性と子ども(次世代)への配慮

ピンクリボンキャンペーンを通じ、がん教育を支援 QOLの向上

2007年から、毎年10月、11月の2カ月間、「花王グループピンクリボンキャンペーン」を実施しています。期間中は「あなたと、あなたの大切な人のために」をスローガンに、乳がんの早期発見の啓発のため、国内外でさまざまな取り組みを展開しています。

日本での主な取り組みの一つとして、認定NPO法人乳房健康研究会主催の「ピンクリボンアドバイザーによるがん教育プロジェクト」を支援しています。中学校・高校でのがん教育を実施するもので、日本人の2人に1人ががんにかかる中、生徒たちの健康意識の向上や、その保護者世代への影響も期待されています。

2020年はこのほかに、化粧品ブランド「KANEBO」にて対象商品の売り上げから一定額を「がん教育プロジェクト」に寄付しました。2013年から継続している取り組みで、毎年対象商品を設定し、乳がんの啓発に関わる活動を支援しています。また、生理用品ブランド「ロリエ」では女性の健康を応援するキャンペーンを実施し、商品やブランドサイトを通じた情報発信のほか、クリック募金による寄付を実施。こちらも「がん教育プロジェクト」のほか、子宮頸がんの啓発を行なう活動に寄付しました。

また、社内でも社員参加型の寄付プログラムや、特例子会社花王ピオニー(株)とコラボレーションしたピンクリボンキャンペーンビジュアルの制作などを実施し、積極的な啓

発活動を行ないました。

その他、海外を含めた一部化粧品店頭やオンラインメディアを活用した啓発活動、乳がんに関連したシンポジウムへの協賛など、少しでも多くの方にメッセージを届けるために積極的に活動しています。



→QOLの向上:ピンクリボン活動を通じて女性の活躍を支援

www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2021-all.pdf#page=46

→受容性と多様性のある職場:障がいへの理解と雇用の促進>特例子会社での取り組み>コロナ禍での在宅勤務の試み:在宅勤務で製作した折り花を社内キャンペーンで活用
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2021-all.pdf#page=191



花王ピオニーと制作したキャンペーンパネルを社内展示



ピンクリボンアドバイザーによるがん教育授業

社会貢献活動 413-1

教材提供による学校教育支援

清潔で美しくすこやかな習慣

サステナブルなライフスタイルの推進

子どもたちが将来にわたって快適な暮らしを自分らしく送り、サステナブルな社会をともに実現できるように、「自分のことを自分でできるようになる」「広く社会のことに関心を持ち、自分たちにできることにチャレンジする」の2つの視点でプログラムを用意し、さまざまな次世代育成活動に取り組んでいます。

次世代育成の一環として、これまで幼稚園や保育園、小学校にて長年実施してきた出張授業は、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、子どもたちの安全を最優先に考え、今年度は中止することとなりました。

多くの学校で、先生ご自身で授業を行なっていただけるよう、約1,100校に「手洗い講座」や「おそうじ講座」の教材を無償で提供。あわせて、全国約2万の小学校へ「手洗いポスター」をお届けするとともに、休校で登校できない児童が在宅でも取り組めるよう、手洗いやおそうじの動画コンテンツを自社ウェブサイトにて公開しました。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念される中、新学期から、児童に新しい衛生習慣を身につけてもらいたいとの願いから、新しい教材の開発に着手しました。(2021年春から提供)

あわせて、課題解決に取り組むアクティブラーニング型のプログラムとして、小学生向けに「ごみゼロチャレンジ」、中高生向けに「課題探求講座 SWITCH」の検証授業を実施。オンラインでの配信授業にも取り組みました。



「手洗い講座」の教材を活用した先生による授業



「手洗い講座」の教材で、手の洗い残しを確認する児童

2020年実績

教材提供

種類	開催場所／対象	実績
手洗い講座「手洗いの時間」	小学校低学年	949校
おそうじ講座「お家のおしごと」	小学校低学年	176校
いっしょにエコ日記	小学校4年生	570校
環境のことを考えた快適な暮らし	中学校技術・家庭科	111校
よりよい衣生活と環境の創造をめざして	高等学校家庭科	128校
計		1,934校

出張授業

実施なし

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、児童の安全を考慮

工場・ミュージアム見学を通じた学校教育支援

清潔で美しくすこやかな習慣

サステナブルなライフスタイルの推進

生活に身近な商品を生産、提供する企業として、モノづくりの工夫や品質、安全・安心のための努力、環境への配慮を学んでもらうため、ミュージアムや工場見学を通じた学校教育の支援を行っています。

特に、小学校の社会科単元(3年:働く人と私たちの暮らし、5年:私たちの生活と工業生産)に連動したプログラムを開発し、事前・事後の学習も含めた教材の提供、工場見学を含む、学習型の社会科見学プログラムを実施しています。プログラムを通して、子どもたちが社会との結びつきに気づき、自ら考える力を育むことをめざしています。

2020年は、国内9工場と2ミュージアムで7,952人の見学者を受け入れた中、61校4,291人の小学生が社会科見学プログラムを受講、また、社会科見学プログラム以外では、花王ミュージアムを見学した小学生(61名)を含む学生1,236人が見学しました。

新型コロナウイルス感染症の流行により、3月からすべての工場・ミュージアムで見学を休止しましたが、花王エコーラボミュージアムでは4月より、小学校社会科見学用に教材提供を実施し、30校の学校にお届けしました。また、9月からオンライン配信による見学プログラムを実施し、小学校12校、中学校1校にライブ配信を行ない918名が参加しました。

ロジスティクスを通じた安全啓発

サステナブルなライフスタイルの推進

花王ロジスティクス(株)では、トラックでの配送業務を行っていることから、交通安全には日ごろから細心の注意を払うとともに、交通安全に関連するイベントも行なっています。近年は全国7拠点の地域内にある小学校の児童を対象に、子どもの命を守る地域貢献活動として「こども交通安全教室」を継続して実施しています。

また、川崎ロジスティクスセンターでは、前年に続き2020年も、区内の全小学校20校の新1年生を対象に行なわれる、区主催「交通安全絵のコンクール」の受賞上位30作品を配送用トラックにラッピングし、配送業務を行ないながらの交通安全の啓発を行ないました。交通事故による死傷者半減はSDGsの目標にも設定されていますが、これらの活動は、ドライバーの意識向上や、ラッピングトラックを見た配送地域の方々の交通安全への関心向上にも役立っています。



令和2年ラッピングトラック



こども交通安全教室

社会貢献活動

JSEC（高校生・高専生科学技術チャレンジ）

花王は、“よきモノづくり”の基盤は科学技術から生まれる革新的なイノベーションであると考え、よりよい未来に貢献するために、若い研究者の育成を応援しています。

その一環として、全国の高校生・高等専門学校生を対象として開催される科学技術に関する自由研究コンテスト「JSEC（高校生・高専生科学技術チャレンジ）」（主催：朝日新聞社、テレビ朝日）に特別協賛しています。

毎年優れた作品に、花王賞および花王特別奨励賞を贈呈しており、賞の選定にあたっては、花王の研究員が論文の審査をはじめ、最終審査会では高校生のプレゼンテーションを聞いて審査を行ないます。

「JSEC2020」の最終審査会は、2020年12月12日、13日にオンラインを活用して実施され、花王賞として、静岡理科大学静岡北高等学校が、花王特別奨励賞としてノートルダム清心学園清心女子高等学校、甲南高等学校が受賞しました。

JSECの上位入賞者は、2021年にオンラインを活用して行なわれる国際学生科学技術フェア（ISEF）への出場資格が与えられ、花王賞を受賞した静岡理科大学静岡北高等学校の谷本里音さん、田中響さん、望月凌さんが出場する予定です。

その他、受賞校の皆さまと花王の研究員との交流を図る企画を開催し、高校生のキャリア教育支援にもつなげていきます。

・花王賞：

「茶粕と鉄イオンを用いた光化学的水素製造法」静岡理科大学静岡北高等学校（谷本里音さん、田中響さん、望月凌さん）

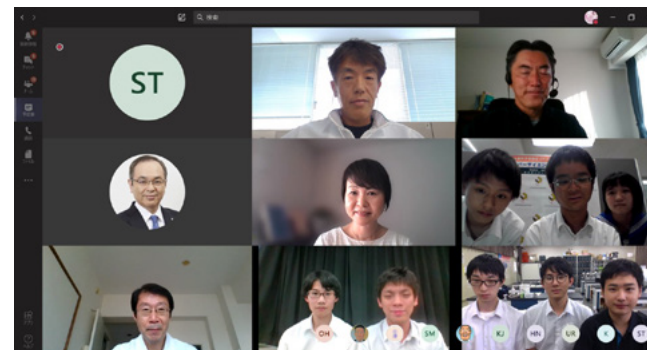
・花王特別奨励賞：

「植物の吸水リズムを生み出す原因とは」ノートルダム清心学園清心女子高等学校（石原亜侑美さん、前田彩花さん）
「自然言語処理と機械学習を用いたタンパク質の高発現塩基配列の創製」甲南高等学校（南慧さん）

2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響により「JSEC2019」の花王賞・花王特別奨励賞の受賞校の皆さまと、施設見学や研究員との交流を図る「スタディツアー」が実施できなかったため、2020年8月6日に「研究交流会」をオンラインで開催し、85人の社員と受賞した3校の皆さま、朝日新聞社など、総勢103人が参加しました。当日は、花王の研究開発についての紹介や各受賞校の皆さまによる研究内容の発表がありました。花王の審査員や参加者との質疑応答や、受賞校同士の意見・情報交換が積極的に行なわれ、非常に活発な交流会となりました。



花王賞の表彰



「研究交流会」に参加された各受賞校の皆さまと花王の審査委員等

社会貢献活動

サステナブルなライフスタイルの推進

花王国際こども環境絵画コンテスト

サステナブルなライフスタイルの推進

花王は、世界の子どもたちが身近な生活のエコと地球の環境・未来について真剣に考えて表現した作品とその思いが、世界中の人々の心を動かし、さらにそのライフスタイルを変えるきっかけとなることを願って、2010年から「花王国際こども環境絵画コンテスト」を実施しています。

第11回コンテストの実施

2020年は、コロナ禍にもかかわらず、世界中の子どもたちから、12,884点(日本1,302点、アジア・太平洋11,297点、米州79点、欧州95点、中東111点)の応募がありました。花王のデザイナーによる予備審査を経て、10月に、社内外審査員による最終審査が行われ、“いっしょにeco”地球大賞1点、“いっしょにeco”花王賞8点、優秀賞(審査員推薦作品)7点、優秀賞16点が決まりました。コロナ禍のため、上位入賞者の日本招待と表彰式は中止し、受賞者には郵送にて賞品をお贈りしました。花王タイ・花王シンガポール他、一部のグループ会社事務局では、各国内にて、状況が許す範囲で、直接授与を行なったところもありました。



最終審査



第11回“いっしょにeco”地球大賞作品
Liang-En Yuさん(8歳)作
作品タイトル:未来の色



第11回上位入賞者の皆さん

絵画を活用した環境啓発のためのオンラインコンテンツの公開

花王国際こども環境絵画コンテストの大きな特長は、絵画とともに作者の子どもたちの思いを受け取っていることです。この思いを多くの人達に伝えることをめざして動画を制作し、オンラインで公開しました。5月には、「第10回花王国際こども環境絵画コンテスト」(日・英)を公開、10,000回を超える視聴がありました(12月末時点)。また、12月には「花王国際こども環境絵画コンテスト10周年「絵に込められた思い」」(日・英)を公開しました。



→第10回花王国際こども環境絵画コンテスト(日本語)

www.youtube.com/watch?v=5DeslTr87W0

→花王国際こども環境絵画コンテスト10周年「絵に込められた思い」(日本語)

www.youtube.com/watch?v=-lrhW51qTgE

NPO・行政等と協働した絵画展示活動

世界の子どもたちの絵とそこに込められた思いやメッセージを多くの人に伝えるために、これまでの入賞作品の展示活動を積極的に進めています。

2020年はコロナ禍のため、社内外の多くの場所で、絵画展示を控えることとなりました。日本の全10工場では、上位入賞作品の常設展示を行ないましたが、工場見学休止のため、来場者は少ない状況でした。

NPO法人ビーグッドカフェを事務局として、日本全国の行政が運営する環境関連施設やNGO／NPO、教育施設

社会貢献活動 203-1,304-3,413-1

などに絵画を無料で貸し出す活動が4年目を迎え、2020年の貸出先は、のべ11施設・団体、来場者数の合計は約13,000人でした。

さらに、花王（中国）投資や花王（台湾）でも、各地域での環境啓発活動の中で、絵画展示活動に取り組みました。

未来洗浄研究会

サステナブルなライフスタイルの推進

2018年に、花王とフューチャーアース、東京大学 国際高等研究所サステナビリティ学連携研究機構（現：東京大学未来ビジョン研究センター）が設立した「未来洗浄研究会」は、「世界中の人々がサステナブルに清潔に快適に暮らせる社会」をめざし、事業領域や学問領域の枠を越え、産学公民等のさまざまな知恵を集めて、未来の洗浄について議論や提案をしています。

2020年9月には、セミナー「サステナブルな洗濯を考える（2）～水とエネルギーの視点から～」を、また、12月には、セミナー「サステナブルな洗濯を考える（3）～衣類や繊維の視点から～」を、オンラインにて開催しました。両回とも、話題提供として、アカデミアと企業から1題ずつの講演と、グループディスカッションを行ない、洗濯をいろいろな角度から捉えて議論しました。参加者は、企業、大学・研究関係者、環境団体や主婦などで、洗濯の環境課題を生活者視点で捉えながら、アイデアを出していく議論は、参加者からも好評を得ました。

また、未来洗浄研究会のウェブサイトでは、2020年より

ブログページを公開し、サステナブルな洗濯に関してさまざまな視点から考える記事を掲載しました。2020年は、概ね月2回、計23報を公開しました。

中国節水キャンペーン 「清潔美麗青春行」

サステナブルなライフスタイルの推進

花王（中国）投資は、中国生態環境部宣伝教育センターと共催で、2012年から「中国清潔・節水」活動を実施しています。2015年からは活動の一環として、大学生の環境保護コンテストも開始し、中国国内における一般市民および大学生の節水意識を喚起する活動として、展開してきました。

2020年は、コロナの影響もあり、例年とは時期を変えて9月から12月までの4カ月間での実施となりましたが、「節水」だけでなく、「生物多様性、プラスチック削減、低炭素、リサイクル」など、さらにいっそう広い環境視点での活動に拡大しました。

各地で大学生を中心にした活動を展開し、約4カ月間で、中国全土の21の省や市にある67の大学から100件以上の活動提案を応募いただきました。

その中から19のプロジェクトを選出して、実行支援を行ないました。全国の大学生たちは、自ら企画した活動を実践することによって積極的に環境保護に取り組み、さらに、周りの人々の環境意識を向上させるためにさまざまな活動を展開していました。

12月には、北京生態環境部宣伝教育センターで閉幕式が



北京で開催された閉幕式

行なわれ、各地の大学生代表はリモートで参加し、表彰を受けました。

タイ北部“FURUSATO”環境保全プロジェクト 脱炭素

タイ北部における急激な森林減少・破壊と、それが引き起こす水害・煙害等の環境問題の改善をめざし、花王は公益財団法人オイスカ、オイスカタイランドとの協働で、2012年からタイ北部チェンライ県チェンコン郡で、環境保全プロジェクトを実施しています。2012年からの5年間で、目標としていた35haに42,500本の植林を完了しました。活動を通じて、地域の人々の環境保全に対する意識が高まり、森を適切に管理し、生活の基盤づくりに活かそうという機運が生まれたことから、2019年4月より、第2期の支援を開始しました。

社会貢献活動 304-3

第1期で整備した植林地では、森の管理に加えて作物の栽培に向けた検討が実施されました。当初検討した作物の中で土地に適さないものなどを省き、食生活に活かされる樹種を植えることで森の価値を高めて、住民の森への関わりを深めながら管理を進めています。

第2期の新たな植林地は、森が放置されて多くの下草に覆われていたため、まずは住民が中心となり植林地を整備しました。2020年8月には植樹式が行なわれ、今後住民を中心とした豊かな森づくりの活動を進めていきます。



第2期フィールドでの植樹祭の様子

花王・教員フェロースhip

花王は、2004年から2019年まで認定特定非営利活動法人アースウォッチ・ジャパンとともに、「花王・教員フェロースhip」を実施しました。これは小学校・中学校の教員を対象にしたプログラムで、夏休み期間に1～2週間程度、生物多様性保全に向けた海外の野外調査研究にボランティアとして参加する機会を提供するもので、参加した教員の方々に、自らの体験や感動を学校や地域での環境教育の現場で活かしてもらうことを目的として実施してきました。

2019年で活動を終了しましたが、実施した全17回の成果を広く発信することを目的に、参加者の声などを盛り込んだ活動をまとめた特設サイトをアースウォッチ・ジャパンとともに開設しました。全参加者の報告書を閲覧できるほか、参加者への個別インタビューや、調査後に制作されたオリジナルの指導用資料なども掲載し、プログラムの成果を広く社会に還元することを目的としています。



→花王・教員フェロースhip 生物多様性支援プログラム
www.earthwatch.jp/kaofellow/

花王・みんなの森づくり活動 脱炭素

緑豊かな環境づくりと、その環境を次世代に引き継ぐことを目的に、公益財団法人都市緑化機構と連携し、環境を守り育てる人づくりのための助成プログラムを実施しています。全国から森づくりや環境教育などに取り組むNGO／NPO・市民団体を公募し、毎年20件程度を選定、3年間の継続助成を行なっています。また、環境保全活動を通じて、現代の地域社会が抱えるさまざまな課題解決への貢献や、地域のよりよいコミュニティ形成にも寄与しています。

2020年は、2019年に応募した団体から、20団体を選定して助成を行ないました。当初5月に予定されていた目録贈呈式は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となりました。

2000年から2020年までに支援した団体数は累計で499件となり、これは都道府県が把握する森づくり団体数約3,000の約16%に相当します。



支援団体の活動の様子

社会貢献活動

社会的活動への社員参加の推進

花王ハートポケット倶楽部

2004年に開始した花王社員による社会的支援を目的としたクラブ組織です。趣旨に賛同する社員が会員となり、毎月の給与から1口50～100円までの範囲で任意の金額を積み立て、NGO／NPO・市民団体への寄付、社員が参加するボランティア活動の実施に関わる支援、広域災害発生時の緊急支援などに役立てています。寄付先や基金の使途の決定は、会員の代表である15名の運営委員で構成される運営委員会で決定する仕組みになっています。よりよい社会づくりをめざし、社会課題解決に取り組む活動へ支援を行なうとともに、社員に対しては社会参加の機会を提供し、社会的感度を高めることに寄与しています。

2020年は、コロナ禍での団体の活動状況をヒアリングし、社内へ情報を共有しました。ヒアリング対象団体のうち3団体とはオンラインを活用して運営委員と寄付先団体の意見交換の場を設けるなど、社員を巻き込んだ活動を実施し、社内向け広報誌（イントラネット版）「ハートポケット倶楽部新聞」（年5回発行）で紹介しました。

また、事業場地域の市民活動を応援する「地域助成」を栃木県、和歌山県、茨城県で実施し、計15団体へ助成しました。茨城における地域助成では、目録贈呈式と団体との情報交換を水戸市にて実施しました。

その他、より規模の大きい活動を応援する「みらいポケット基金」を実施し、助成先の選考にあたっては運営委員に

による書類審査と団体によるプレゼンテーションのオンライン選考を実施し、3団体を決定しました。

毎年社員がボランティアとして参加する「ホワイトトリボラン」「絵本を届ける運動」「クリスマスカードプロジェクト」では、感染リスクに留意しながら、計329名の社員がボランティア活動に参加しました。

今後も引き続き、会員増大と社員の社会参加のためのきっかけづくりを行なっていきます。

- ・会員数3,376名(2020年12月20日現在)
- ・寄付件数43件 / 寄付金額9,142,100円
- ・活動レポート4,020部(社内向け活動報告書、年1回発行)



オンラインで「みらいポケット基金」の審査を実施

運営委員参加企画 寄付先活動ヒアリング オンライン開催 Vol. 2

昨年度に引き続き、倶楽部の寄付先団体と運営委員との意見・情報交換する場を設け、社員の方へレポートする運営委員参加企画を実施します。今年度の第2回目は、特定非営利活動法人キッズドアです！
今年度は、Teamsを活用してオンラインで開催しました。取材時のプレゼン動画と資料も共有しますので、ぜひご覧ください！

KIDSDOOR NPO法人キッズドア **特定非営利活動法人キッズドア**

運営委員の皆さんからの参加報告をご紹介します

キッズドアは、「すべての子どもが夢と希望をもてる社会」をめざして、貧困や教育格差問題などに苦しむ子どもたちに対し、学習支援や居場所支援、キャリア体験活動を行なっています。

ハートポケット倶楽部からの支援では、貧困家庭の子どもたちへ卒業旅行費用や英語教育支援（English Drive）を実施しています。貧困の連鎖を断ち切るために、大学生・社会人ボランティアとともに、教育学習支援を宮城・東京・千葉の3か所で展開しています。

コロナ禍では、オンラインでの学習支援や地元のレストランと協力して給食支援を迅速に実施しました。政府に対し、子育て家庭の支援を提言する等、コロナ禍においても、活動を継続・発展させています。

子どもの貧困実態を知り、キッズドアさんの「貧困の連鎖を断ち切る」「困難な環境にある子どもたちにフェアなチャンスのある社会システムをつくる」という目標に強く共感しました。貧困に苦しむ子どもたちが将来の夢や希望を持てるために、安心安全な場所をつくり、学習支援を中心とした活動を展開されています。200社以上の企業や団体と連携をされていますが、花王に対する期待も伺いました。「まずはこの社会課題を知る」「運動会の学習指導」「運営委員会運営への支援」などです。ぜひ、花王ならではの支援のあり方について、検討したいですね。

2

「花王ハートポケット倶楽部新聞」に寄付先団体の活動の内容や意見交換について掲載

社会貢献活動

花王ファミリーコンサート

花王では、事業場周辺地域の皆さまに質の高い音楽に触れる機会を提供し音楽や芸術を楽しむ心を育んでいただきたいとの思いから、2002年より、「花王ファミリーコンサート」を開催しています。

このコンサートは、地域貢献と文化支援、社会支援を融合した花王ならではのプログラムで、企画から当日の会場整理、会場アナウンス、切符切り等の運営をすべて社員が行なっています。

2002年からの累計公演数は44公演、累計来場者数は41,327人となります。また、コンサートの収益金は全額、地域の音楽教育に役立てていただいています。

2020年は、4月12日に茨城県神栖市、4月19日に栃木県益子町、9月6日に山形県酒田市の3カ所において、開催に向けて準備を進めていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、公演はやむなく中止となりました。出演予定だったアーティストに対しては、マネジメント企業を通じ資金面でのサポートを行ないました。

新型コロナウイルス感染症が猛威をふるうなか、アーティストが活躍する場は急減し、その生活維持が新たな社会問題となっています。花王では引き続き、コロナにより影響を受けた芸術文化活動への支援を継続していきます。



愛媛県西条市では、花王からの寄付金を2020年度の音楽教育の現場で楽器購入などに活用

社会貢献活動

メセナ支援

芸術文化活動支援

優れた芸術文化の発展・継承と人々の豊かな生活文化の実現に寄与することを目的に芸術文化活動を支援しています。

交響楽団への賛助や音楽・舞台芸術公演、美術展への協賛を行なうなど、あらゆる世代の人々に芸術に親しんでいただき、次世代に優れた芸術文化活動が継承されるよう、積極的に支援を行なっています。

2020年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために展覧会や公演が中止や延期となりましたが、感染症対策を確認した上で、継続して協賛を行ない、再開時には公式SNSなどを通じた情報発信を行なうなど開催をサポートしました。

音楽分野では、NHK交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団への賛助、NHK交響楽団ベートーヴェン「第九」公演の協賛、新国立劇場2019/2020シーズンと2020/2021シーズンの特別支援企業グループ協賛を行なっています。

また、美術分野においては、読売新聞社主催の「ロンドン・ナショナル・ギャラリー展」(東京と大阪で開催)と日本経済新聞社主催の「The UKIYO-E 2020—日本三大浮世絵コレクション展」への協賛を行ないました。

若手芸術家育成支援

豊かな生活文化の実現に貢献するために、次世代を担う芸術家育成の活動を支援しています。

東京音楽コンクールの主催

2003年からは、東京音楽コンクール(共催:東京文化会館・読売新聞社・東京都)を主催し、日本の音楽界の次世代を担う人材の発掘・育成の活動を支援しています。各部門優勝者がオーケストラと共演する優勝者コンサートを開催するほか、入賞者には、単独公演の開催を含め、公演機会の提供など、東京文化会館が5年間バックアップを行なっています。



第18回東京音楽コンクール 弦楽部門表彰式

写真: 堀田力丸 / 写真提供: 東京文化会館

K-BALLET YOUTH 公演の特別協賛

2013年からは、熊川哲也氏を総監督とするジュニア・カンパニー K-BALLET YOUTH の公演に特別協賛しています。

これは、次世代の才能あるダンサーの発掘とプロフェッショナル・バレエカンパニーと遜色のない環境での実践の場を提供し、次世代の芸術家育成に取り組む K-BALLET YOUTH の趣旨に賛同するものです。

2020年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、国内外のコンクールが中止を発表する中、「第18回東京音楽コンクール」は予定通り4月に募集受付を開始し、感染リスクに留意しながら無事開催されました。ピアノ・弦楽・金管の3部門において、435人の応募者の中から15人の入賞者が決定しました。また、2020年は、過去の入賞者の中から7人が国内外のコンクールに上位入賞したり、出場を予定するなどのすばらしい活躍を見せています。

K-BALLET YOUTH が2021年に開催予定だった第5回特別記念公演「ドン・キホーテ」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、2022年に延期されることになりました。K-BALLET YOUTH は、このような影響を受ける若いダンサーに対して、芸術の学びの場を企画していく年間特別プロジェクトを、2020年8月から2021年5月まで実施しています。長期的な次世代育成のカリキュラムの確立も見据えたこの取り組みに花王は賛同し、あわせて特別協賛しています。

社会貢献活動

公益財団法人 花王芸術・科学財団

花王芸術・科学財団は、豊かな生活を営んでいく上で必要不可欠な芸術文化と科学技術の振興および発展向上とともに、文理融合領域の研究発展にも寄与することをめざす、芸術と科学の支援を併せ持つユニークな財団です。

1990年に、花王株式会社の創立100周年を記念した拠出を受け設立され、「助成事業」「顕彰事業」「関連事業(文理融合の研究支援)」の3つの事業を柱に活動をしています。

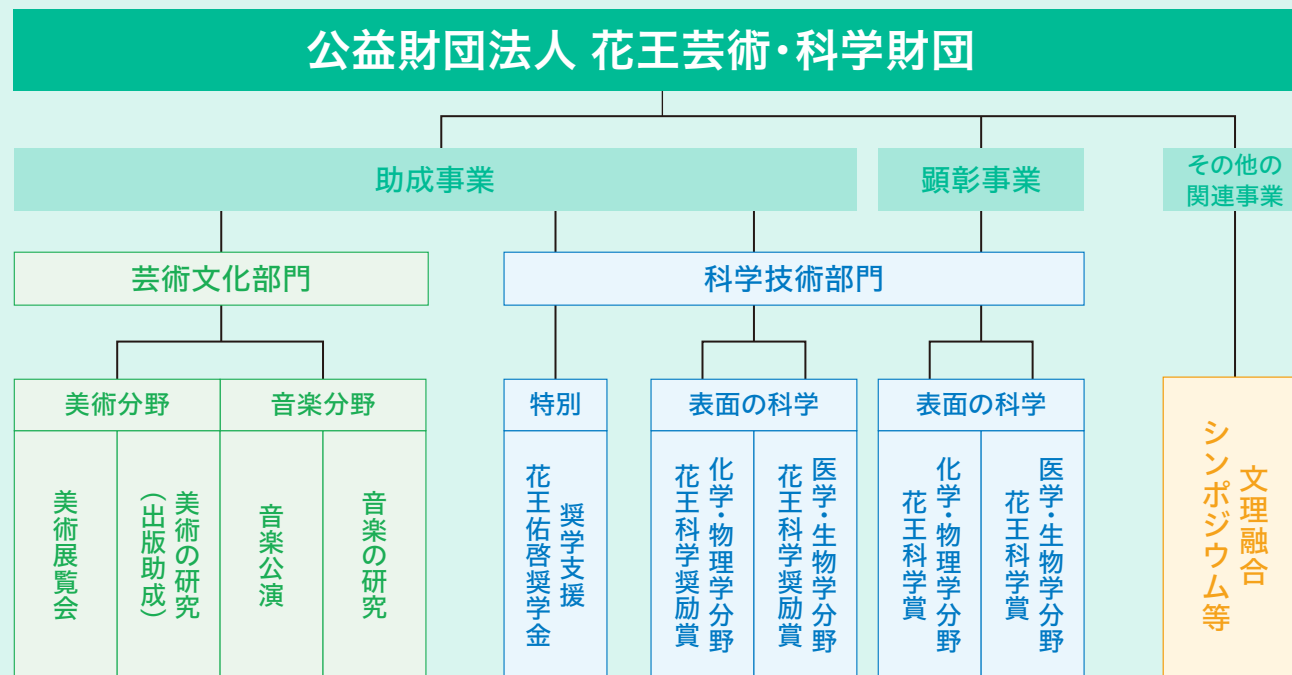
助成事業の芸術文化部門では、美術展覧会や音楽公演等の活動助成、美術や音楽の学術的な研究への助成を、科学技術部門では大学院修士課程の学生に対する給付型の奨学金支援や、化学・物理学、医学・生物学の分野で独創的、先導的な研究を行なう若い研究者に対し「花王科学奨励賞」という名の助成を行なっています。

顕彰事業では、化学・物理学、医学・生物学の基礎・基盤研究において独自の成果をあげた研究者に「花王科学賞」を贈り、称えています。

関連事業では、芸術文化と科学技術の融合をめざす研究を支援する文理融合シンポジウムを開催しています。2020年は「未来」をテーマに、漠然とした未来への不安に対して私たちが取り組むべきヒントについて一般の方を対象に50名で開催し、後日1,300名を超える方々にオンラインによる限定配信を行ないました。

設立30周年を迎えた2020年は、財団のこれまでの歩みをまとめた「30周年記念誌」を刊行し、関係各所に配布しました。また、新型コロナウイルス感染症の拡大により芸術文化部門の助成支援先の企画延期・中止が相次ぐ中、文化を守る一助として支援制度の一部見直しを行ないました。30周年を一つの通過点とし、これからも事業内容の一層の充実に努力していきます。

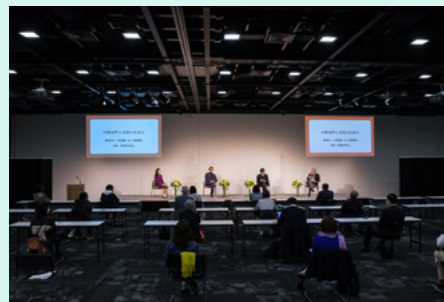
事業組織図



※2020年12月現在



設立30周年記念誌の刊行



シンポジウム「未来～わたしたちにできること～」

社会貢献活動

災害支援

東日本大震災への取り組み

既存の社会貢献のプログラムや花王のリソースを活かしながら、NGO／NPO、企業、多様な組織と連携し、被災地の生活者に寄り添い、現地のニーズや課題に沿った活動を実施しています。

現在は「心のケア」と「自立的復興」の2つの柱に取り組んでいます。「心のケア」では、スマイルとうほくプロジェクトに2012年から協賛し、仮設住宅や災害公営住宅訪問を通じた交流や新しい暮らしを応援する取り組みを実施しています。「自立的復興」では、東北の復興に向け、中心となって活躍している復興リーダーの支援や社員ボランティアの活動を通じて、産業の復興やコミュニティづくりを支える活動を行なっています。花王社員による2020年の活動は以下の通りです。

復興支援活動のパネルを展示(全国事業場11カ所)

当初は「東北と『食』でつながろう！」をテーマに、3月4日～11日、全国事業場11カ所の食堂で、東北の食材を使用した郷土料理等の提供を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となりました。

宮城県南三陸町ボランティア&スタディツアー第7弾

10月24日にオンラインで実施、社員16名が参加。現地訪問で計画していましたが、新型コロナウイルス感染症の拡

大防止の観点から、初めての試みとしてオンラインに変更しました。



南三陸町復興の担い手の方々とオンラインで交流

スマイルとうほくプロジェクト

岩手日報、河北新報、福島民報が主催する「スマイルとうほくプロジェクト」に継続して協賛しました。

イベントの実施

各県で予定していたイベントをさまざまな形でサポートする計画をしていましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響でイベントが中止、現地へ訪問しての活動が困難となりました。

非常に厳しい状況下、昨年の豪雨災害により不通となっていた、三陸鉄道の全線開通や常磐線の不通区間の営業再

開などのイベントに現地プロジェクトメンバーやNPO、グループ社員などの協力を得ながらサポートを実施しました。



3月20日の三陸鉄道全線開通を記念しオリジナルのヘッドマークを贈呈

離れていてもつながれる

新型コロナウイルス感染症の影響で直接顔を合わせた交流の機会が減る中、「# 離れていてもつながれる」を合言葉にこれまで花植えや手洗い、ハンドマッサージなどで交流した方々のもとへ国内外花王グループ社員のメッセージを添えた「ミニヒマワリ栽培セット」をお届けしたり、オンラインツールを活用した「オンライン語り部会」を実施するなど地域住民のみなさんとのつながりをつづけるため工夫をこらしたプログラムを実施しました。

社会貢献活動



社員からのメッセージを添えた「ミニマワリ栽培セット」

みちのく復興事業パートナーズ

「自立的復興」の大きな活動の一つとして、2012年6月より、「みちのく復興事業パートナーズ」に参画しています。被災地で事業に取り組み東北を支えていく次世代の復興リーダーを支援する企業コンソーシアムとして、認定特定非営利活動法人ETIC.〈エティック〉によって設立されたもので、現在、企業4社*が参画しています。将来東北の中心となることが期待される事業団体を育成支援する研修をはじめ、自立的復興に向けた共創を行なっています。

2020年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から3月10日に8回目となるシンポジウムをオンラインで開催。「2030年から見た東北」をテーマとして、東北の未来について広く情報発信を行ない、当日は180人が視聴しました。

また、東北の事業団体へ向けた共創の場づくりの一環として、2021年1月14日にオンラインで「みちのく共創キャン

プ オンライン2021」を実施し、約50人が参加しました。

※ 参画企業は株式会社ジェー・シー・ビー、株式会社電通、株式会社ベネッセコーポレーション、花王株式会社(2020年5月現在)



第8回みちのく復興事業シンポジウム

東日本グリーン復興モニタリングプロジェクト

東日本大震災で津波の被害を受けた地域の生態系の変化を調べるため、東北大学の教授を中心として、市民や学生、複数の企業から集まったボランティアたちがチームとなってモニタリング調査を行なっています。被災前のデータと比較することで、津波がどれだけの影響を及ぼしたか、またその後の生態系がどのように回復しているかを記録しています。この調査で得られたデータは、被災地域の生態系や希少種の保全、環境に配慮した復興計画のために役立てられます。2013年から社員がボランティアとして参加し、2019年までに累計68名が参加しています。

2020年は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で全ス

ケジュールが中止となり、これまでの調査の集大成として12月12日に、アースウォッチ・スペシャルトーク「東日本グリーン復興モニタリングプロジェクト 干潟のいきものたちの10年」と題してオンラインシンポジウムを開催しました。当日は114名が参加しました。

(主催:認定特定非営利活動法人アースウォッチ・ジャパン)



干潟でのいきもの調査の様子を東北大学の先生方が説明

その他の災害支援

大規模災害発生時の被災地支援として、義援金と支援金の拠出を行なうとともに、行政や業界団体と連携して、被災者への物資支援を速やかに行ないます。

2020年は、令和2年7月豪雨の被災地支援として、建設型応急仮設住宅入居者に向けて、日常生活に役立てていただける生活用品をセットにして、各ご家庭へお届けしました。また、近年の災害多発に伴い、最も必要なタイミングで被災者支援活動に活用できるよう、社会福祉法人中央共同募金会「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」への支援金の拠出を決定しました。

社会貢献活動

2020年の実績

物資支援

- ・令和2年7月豪雨被災地支援
熊本県(八代市、人吉市、芦北町、津奈木町、相良村、山江村、球磨村)の建設型応急仮設住宅の入居者に向けて、「花王 生活用品セット」を提供しました。(約800戸、約600万円相当)

基盤整備活動支援金

花王より社会福祉法人 中央共同募金会「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金」へ500万円の寄付を行ないました。

寄付金

- ・オーストラリア森林火災復興支援
花王(オーストラリア)より、2019～2020年に発生したオーストラリアでの大規模森林火災に対し、復興支援、自然回復のため約80万円の寄付を行ないました。

新型コロナウイルス感染症への対策支援

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた各地域において、衛生関連製品の提供や寄付金などを通じて、さまざまな分野の団体を支援しました。

2020年実績

義援金・支援金

- ・中国赤十字基金を通じて、現地花王グループ(花王中国および佳麗宝化粧品中国)より義援金として150万円(日本円で約2,300万円)の寄付
- ・社会福祉法人 中央共同募金会が実施する、休校措置に伴い社会的に孤立することが懸念される児童や保護者に対する緊急支援活動への助成事業「臨時休校中の子どもと家族を支えよう 緊急支援募金」に100万円の寄付
- ・公益社団法人 企業メセナ協議会が、多くの芸術文化活動の自粛を余儀なくされ影響を受けている活動に対して実施する助成事業「GBFund(芸術・文化による災害復興支援ファンド)」へ100万円の寄付

物資支援

- ・湖北省武漢市の医療スタッフ向けに約3,700万円相当の物資を提供
- ・武漢からのチャーター便帰国者の隔離中の宿泊用物資とダイヤモンド・プリンセス号下船者等の宿泊用物資として総額約600万円相当の物資を提供
- ・医療従事者向けに総額約9,400万円相当の物資を提供
- ・花王中国より、上海市児童基金会などに約440万円(積送

価格)相当の物資を提供

- ・花王USAより医療機関に約490万円(積送価格)相当の物資を提供
- ・花王オーストリアより、サロンでの新型コロナウイルス対応に必要な物品を約470万円(積送価格)相当提供
- ・花王(イギリス)、モルトンブラウンよりビューティーバンク、ハイジーンバンクへ約430万円(積送価格)相当の物資を提供

各事業場、グループ会社の主な社会貢献活動

事業場・会社	活動内容・実績(主催／後援／協賛／支援／参加など)
茅場町事業場	●地域イベント、地域祭礼 ●JAZZ フェスティバル ●地域歳末たすけあい募金 ●近隣清掃
大阪事業場	●地域祭礼、地域団体支援 ●近隣清掃
酒田工場	●新生児紙おむつ寄贈 ●地域団体支援 ●地元学校事業支援 ●工場見学
栃木工場 栃木研究所	●交通安全ポスター協賛 ●新生児紙おむつ寄贈
鹿島工場	●かみず健康マイレージ事業 ●地域イベント、地域祭礼 ●スポーツ大会 ●国際交流イベント支援 ●工場見学
すみだ事業場 東京工場 東京研究所	●地域イベント、地域祭礼 ●芸術イベント支援 ●地域消火訓練 ●近隣清掃
川崎工場	●地域祭礼 ●工場見学 ●近隣清掃
小田原事業場 小田原工場(花王コスメプロダクツ小田原(株)) 小田原研究所	●スポーツイベント ●芸術イベント支援 ●工場見学 ●近隣清掃
富士工場(花王製紙富士(株))	●地域スポーツ少年団協賛 ●赤い羽根共同募金
豊橋工場	●豊橋・明海産業基地530運動 ●新生児スキンケア製品寄贈 ●工場見学
和歌山工場 和歌山研究所	●福祉工場運営支援 ●花王「企業の森」除草 ●消防出初式 ●水軒川沿い清掃 ●地域イベント、地域祭礼 ●工場見学
花王エコラボミュージアム(和歌山)	●見学を通じた環境教育 ●看護学生のオンライン見学
愛媛工場(花王サニタリープロダクツ愛媛(株))	●赤い羽根共同募金 ●新生児紙おむつ寄贈 ●工場見学
有田研修所	●地域学童クラブへ段ボール寄贈 ●近隣清掃



特別支援学校とのソフトボール交流会
(神奈川・小田原)



海岸清掃(愛知・豊橋)



水軒川清掃(和歌山)

各事業場、グループ会社の主な社会貢献活動

事業場・会社	活動内容・実績(主催／後援／協賛／支援／参加など)
花王グループカスタマーマーケティング(株)(KCMK)	●近隣交通安全誘導と見守り活動 ●就活メイク講座 ●特別支援学校身だしなみ講座 ●熊本城マラソンボランティア ●近隣清掃 ●献血
花王ロジスティクス(株)	●近隣交通安全誘導と見守り活動 ●特別支援学級生の職場体験受入 ●特別支援学校の生徒、就労支援生の施設見学受入 ●交通安全啓発ラッピングトラック ●近隣清掃 ●献血
花王プロフェッショナル・サービス(株)(KPS)	●新型コロナウイルス対応のための製品寄贈 ●新型コロナウイルス感染症への対応ガイド作成協力 ●幼稚園・保育園での手洗い講習会 ●介護施設向け感染症講習会 ●認定看護師対象の講義演習 ●熊本県豪雨災害への支援物資 ●地域施設への大人用紙おむつ寄贈
ニベア花王(株)	●新型コロナウイルス対応のための製品寄贈
(株)カネボウ化粧品	●ピンクリボン活動での売上の一部寄贈 ●福祉施設の成人式に製品寄贈 ●Walk in Her Shoes[※]イベントへの製品寄贈
(株)エキップ	●福祉施設の成人式に製品寄贈

※ Walk in Her Shoes

公益財団法人ケア・インターナショナルジャパンが実施する「歩く国際協力」キャンペーン。安全な水を手に入れることが難しく、水汲みに多大な時間を費やす女性の気持ちを想像しながら、普段の生活の中で好きな時に好きな場所で歩くキャンペーンで、参加費は途上国や紛争・災害地域において困難な状況にある女性の自立を支援する活動に充てられる。



交通安全交差点誘導
(花王ロジスティクス(株)金沢LC)

各事業場、グループ会社の主な社会貢献活動

事業場・会社	活動内容・実績(主催/後援/協賛/支援/参加など)
花王(中国)投資 花王(上海)产品服务 上海花王	●新型コロナウイルス対応のための製品寄贈、寄付 ●地元団体への製品寄贈 ●初経教育 ●Enactus※支援 ●小学生への手洗い講習会 ●ピンクリボン活動 ●節水キャンペーン ●花王国際こども環境絵画コンテスト
上海花王化学 葫芦岛錦星鑄造材料 花王(上海)化工 花王(中国)研究開発中心	●新型コロナウイルス対応のための製品寄贈 ●工場見学 ●献血 ●近隣清掃
カネボウ化粧品(中国)	●新型コロナウイルス対応のための寄付 ●チャリティーイベントへの寄付 ●障がい者雇用支援 ●スキンケア講座
花王(香港)	●新型コロナウイルス対応のための製品寄贈 ●障がい児支援団体への製品寄贈
花王(台湾)	●新型コロナウイルス対応のための製品寄贈 ●海岸清掃と環境教育への支援 ●行政などを通じた製品寄贈 ●子どもへの衛生教室 ●ピンクリボン活動 ●工場見学
カネボウ化粧品(台湾)	●ピンクリボン活動 ●海岸清掃
花王(ベトナム)	●新型コロナウイルス対応のための製品寄贈
ピリピナス花王	●新型コロナウイルス対応のための寄付 ●工場近隣の成績優秀者に高校への奨学金 ●理工系大学の学生への奨学金
花王インダストリアル(タイランド)	●新型コロナウイルス対応のための製品・物品寄贈 ●孤児院への紙おむつ寄贈 ●学校やコミュニティへの生理用品寄贈 ●工場見学
タイカネボウ化粧品	●高校生向けキャリア支援イベントへのメイク製品寄贈 ●ピンクリボン活動
花王(シンガポール)	●新型コロナウイルス対応のための製品寄贈 ●小学生向けオンライン衛生教室

※ Enactus

学生が企画し実施する社会貢献事業を支援し、すぐれた次世代のリーダーを養成することをめざす国際的NPO



地域清掃(上海花王化学)



おそうじ教室(花王(台湾))



医療従事者への製品寄贈(花王ベトナム)



医療従事者への製品寄贈(花王インダストリアル(タイランド))

各事業場、グループ会社の主な社会貢献活動

事業場・会社	活動内容・実績(主催/後援/協賛/支援/参加など)
花王(インドネシア)	●新型コロナウイルス対応のための製品・物品支援、寄付 ●地元コミュニティへの健康情報提供 ●大学生向けキャリア講座 ●犠牲祭等での福祉支援 ●災害支援 ●工場見学
花王インドネシア化学	●地元住民への物品支援 ●地元住民への羊寄贈
花王(マレーシア)	●医療従事者への製品寄贈 ●初経教育
ファティケミカル(マレーシア) 花王プラスチサイザー(マレーシア) 花王オレオケミカル(マレーシア) 花王ソープ(マレーシア)	●高齢者施設への寄付 ●福祉団体への寄付 ●エイブルアート購入支援 ●日本語スピーチコンテスト支援
花王(カナダ)	●新型コロナウイルス対応のための寄付 ●恵まれない家庭支援 ●反人種差別に取り組むNPOの支援
花王 USA	●新型コロナウイルス対応のための製品支援、寄付 ●ユナイテッド・ウェイ支援 ●人権団体への寄付 ●福祉団体への製品寄贈 ●進学支援プログラムへの寄付 ●人道支援団体への製品寄贈 ●従業員のボランティアへのマッチングギフト ●芸術支援 ●ピンクリボン活動への寄付
花王スペシャルティーズアメリカズ	●新型コロナウイルス対応のための製品・物品支援 ●ユナイテッド・ウェイ委員会への支援 ●環境保全の取り組み支援 ●ALS患者支援ウォークイベント ●生物多様性支援プロジェクト ●地元学生への教育支援 ●フードドライブへの寄付 ●中古衣料リサイクル支援 ●献血
花王コリンズ(アメリカ)	●新型コロナウイルス対応のための物資支援、寄付 ●ホームレスへのミールサービス ●恵まれない環境の学校への物資支援、 寄付 ●病気で入院する子どもと家族の宿泊施設でのミールサービス、物資支援 ●地元コミュニティへの物資支援
花王(オーストラリア)	●大規模森林火災の復興、自然回復活動への寄付
キミ花王(メキシコ)	●新型コロナウイルス対応のための寄付 ●技術系学生への奨学金 ●恵まれない家庭への医療費、食費支援 ●福祉施設への物資支援、寄付



移動式手洗い台の寄贈(花王(インドネシア))



近隣小学生との交流(花王コリンズ(アメリカ))

各事業場、グループ会社の主な社会貢献活動

事業場・会社	活動内容・実績(主催／後援／協賛／支援／参加など)
花王(ドイツ)	●新型コロナウイルス対応のための製品寄贈 ●福祉施設、学校の運営支援のための寄付
花王マニュファクチャリングジャーマニー	●新型コロナウイルス対応のための物品寄贈
ドイツ花王化学	●学校、消防隊、福祉施設等への寄付 ●近隣清掃
花王(イギリス) モルトンブラウン	●新型コロナウイルス対応のための製品寄贈 ●美容業界支援のための基金への寄付 ●がん患者への支援
Kao(UK)Salon	●美容業界支援のための基金への寄付 ●美容師教育訓練支援
花王コーポレーション(スペイン)	●新型コロナウイルス対応のための物品寄贈 ●芸術支援 ●化学専攻の高校生への奨学金 ●フードバンクへの食糧支援 ●地域のスポーツ団体支援 ●市の本出版支援 ●福祉団体への支援 ●植林活動への支援
花王チミグラフ(スペイン)	●新型コロナウイルス対応のための物品寄贈 ●恵まれない家庭の支援を行なう団体への寄付
花王(オランダ) Kao Belgium N.V. グール・イケバナ社	●医療従事者への製品・物品寄贈
花王(オーストリア)	●サロンへ新型コロナウイルス感染防止のための製品寄贈 ●闘病中の子ども支援への寄付
Kao Switzerland AG	●福祉施設への製品寄贈 ●がん患者支援団体への寄付 ●学生や若手人材の教育支援
カネボウコスメティックスヨーロッパ(スイス)	●医療従事者への製品寄贈
カネボウコスメティックスイタリア(イタリア)	●がん研究への寄付
花王南アフリカ	●サロンへの製品寄贈



河川清掃(ドイツ花王化学)



緑化活動(花王コーポレーション(スペイン))



福祉施設への玩具寄贈(花王チミグラフ(スペイン))

事故を防止し、緊急事態への対応やセキュリティ強化に関する事項を定め、社員の安全の確保と安定した操業の維持を目的として保安防災活動を行なっています。こうした活動により事故ゼロをめざします。

ESG キーワード

事業継続計画 (BCP)

大規模災害に備えた緊急事態対応訓練

保安カグランドデザイン (保安防災中長期目標)

高圧ガスの保安

保安防災教育

社会的課題と花王が提供する価値

認識している社会的課題

化学プラントでの事故や、自然災害が多く発生している昨今、大規模化学プラントを有する企業に対する安全操業への要求はますます高まっています。

そのような状況の中、現場保安力の向上をめざすとともに、防災対策の強化を日々図っていきます。

花王が提供する価値

大規模化学プラントを有する企業として、事業場の地域住民や従業員へ安全な操業で事故のない安心して暮らせる地域社会を提供します。

「2030年までに達成したい姿」の実現に関わるリスク

工場周辺地域に影響する大きな事故の発生や、自然災害による安定操業の停止、それらによる社会からの信頼損失をリスクととらえています。

「2030年までに達成したい姿」の実現に関わる機会

地域や従業員の安全の確保に向け、徹底して保安防災の取り組みを行なうことは、社会からの信頼の獲得とブランドイメージの向上につながります。

貢献するSDGs



方針

花王は「保安防災」の活動方針を、花王レスポンシブル・ケア (RC) 方針に「火災、爆発および化学物質漏えいを防止し、安全で安定な操業を維持するとともに、自然災害やセキュリティ強化に配慮して、設備対応と定期的訓練を行ない、緊急時に備える」と明確に定めています。この方針に沿って事故の防止に努めています。



→花王レスポンシブル・ケア方針

www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/responsible-care-policy.pdf

教育と浸透

業務に関する事故の発生や拡大を防ぐため、過去事例・最新技術や知識など保安防災に関する教育や対応訓練の計画を立て、技術の伝承や保安力の強化を行なうとともに、自然災害や火災などを想定した訓練を計画・実施することで、社員の防災意識向上に努めています。

ステークホルダーとの協働／ エンゲージメント

事業場でともに働く協力会社と協働で安全・保安や防災に関する行事を行なうことで、さらなる防災意識の向上を図り、より安全で安心な企業となるよう努めています。

また、工場周辺地域の皆さまと情報交換会などを定期的を実施することで、地域とのコミュニケーションを深めています。

体制

日常の保安防災活動は、RC推進体制に基づいて行なっています。事故・災害が発生した場合には、グローバルな緊急事態連絡網を通じて発生を把握するしくみを構築しています。さらに、事故・災害が事業活動に重大な支障を及ぼすと予想される時には、社長を本部長とする緊急事態対策組織を即時に立ち上げ、人命を第一とした初動対応をはじめ、事業継続計画(BCP)※に沿った対応などをグループ一丸となって行ないます。

※ 事業継続計画(BCP)

さまざまな事象とその要因により事業活動の中断や停止が引き起こされる場合を想定し、その状況に応じてどの業務・機能をどのような方法で維持・継続させるかを事前に決めておき、会社としての重要業務を継続させるための計画。



→リスクと危機の管理

www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/sus-db-2021-all.pdf#page=19

中長期目標と実績

中長期目標

場内火災、爆発事故、漏えい事故、物流漏えいゼロを目標に活動しています。

中長期目標の達成により期待できること

事業インパクト

すべての事業場が安全に操業することで、事業活動が正常に行なわれ、不要な経費発生が抑えられ総合的なコストの低減、収益拡大につながります。

社会的インパクト

すべての事業場が安全に操業することで、事業活動が正常に行なわれ、安定した商品供給ができます。また、製品価格の安定化に貢献できます。

2020年の実績

実績

2020年は「安全で安定な操業の維持」のため、保安上の事故撲滅に向けて重合・発熱反応設備の熱的リスク評価、化学設備のセーフティアセスメント、自然災害対策を実施しました。また、防災活動として防災訓練の充実とセキュリティ強化を目標に掲げ、各部門においてさらに詳細な実行内容と計画を策定し活動しました。なお、安全防災レベルの向上をめざし毎年海外の工場で実施している防災監査は、2020年は新型コロナウイルス感染症の影響により中止しました。

さらに、花王が2030年にめざすべき保安の姿として「保安力グランドデザイン」を策定し、現場レベルでの保安力の向上を図るための安全文化と安全基盤に関する13のアクションプランを関連部門や工場と共有しました。

2020年は小火災の発生がありましたが、爆発事故、漏えい事故、物流漏えい※事故はありませんでした。2021年も引き続き場内火災、爆発事故、漏えい事故、物流漏えい事故ゼロを目標に活動します。

※ 物流漏えい
製品等の輸送中における漏えい事故

目標と実績

項目	対象	指標	2019年	2020年		2021年
			実績	目標	実績	目標
事故	花王グループ	火災・爆発・漏えいなど(件)	7	ゼロ	2	ゼロ
		物流漏えい(件)	0	ゼロ	0	ゼロ

2020年の事故の概要

事故種類	小火災:2件
事故概要	・タンク老朽部より漏えいした原料(脂肪酸)が保温材に浸漬し、自然発火 ・設備再始動の際、滞留物でファンが詰まり、発熱・発火
今後の対策	設備更新の促進、監視装置の強化を行ないます。

実績に対する考察

2020年は2019年より保安事故件数は減少しましたが、目標には未達となりました。今後も現場保安力をさらに向上するとともに、安全文化と安全基盤の向上に努めます。

具体的な取り組み

大規模災害に備えた緊急事態対応訓練

花王では、各事業場単位での消防訓練・避難訓練以外に、大規模災害に備えてグループ全体で訓練を実施しています。

安否確認訓練

日本花王グループは自然災害発生に備えウェブ安否確認システムを導入し、全社員を対象にした入力訓練を毎年定期的に3月と9月の2回実施しています。2020年は、3月の訓練は1日目(24時間)を本人の入力訓練、次の日から確認担当者による入力のない社員の追跡確認の訓練を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により急遽中止しました。9月の訓練は実際の地震を想定、避難所への移動なども想定し、1日目と2日目に居場所を変更して入力する訓練を実施しました。今後も実際の災害発生を想定した訓練を継続していきます。

2020年の安否確認システムの自然災害での使用は、以下の通りです。これら自然災害に対し安否確認システムを使用し安否確認を行なった結果、重篤な人的被害はありませんでした。

また、新型コロナウイルス感染症に対しても、この安否確認システムを活用し、社員の健康状況を毎週把握しています。

2020年の安否確認システムの使用状況

年月	災害名	結果
2020年7月	令和2年7月豪雨	発信当日に100%安否を確認
2020年9月	台風10号	発信当日に100%安否を確認

地震を想定した全社通報連絡訓練

花王は、首都圏での地震により本社が被災することを想定し、東日本・西日本それぞれに対策組織を整えています。2020年は、5月には北海道・東北の地震を想定し、現地と東日本の対策組織の訓練、11月には首都直下地震を想定し、関東エリアの現地と西日本の対策組織の訓練を実施しました。

訓練想定は平日・昼間とし、主要対策組織内部のIP無線による状況確認を行ない、社内災害用電子掲示板および情報管理ポータルシステムを用いて、現地の被害状況を緊急事態対策本部まで迅速に伝達し、対策本部は被害情報に基づき必要な対応訓練を行ないました。さらに、首都圏が被災想定11月の訓練では、対策本部長である社長も参加し、緊急事態対策本部が安全に活動できる拠点への移動訓練も実施しました。なお、今年の訓練は新型コロナウイルス感染症の影響も考慮し、オンライン会議ツールを用いて、対

策本部各メンバーが在宅にて対応する訓練を初めて実施しました。

これまでの訓練で得た反省点をもとに、訓練内容の見直しを随時行なっています。

工場見学者を想定した避難訓練

日本で工場見学を実施している9工場では、見学時の地震発生を想定して防災頭巾を準備したほか、見学者を安全な場所へ迅速に誘導できるよう、社員を見学者に見たて、避難訓練を実施しています。今後も、見学時のさまざまなシーンを想定した訓練を年間の訓練計画に組み込んでいきます。



社員を見学者に見たて避難訓練を実施

保安・防災の強化

SCM部門では、化学設備のリスクマネジメントの強化として潜在危険の対応、地震対策、また、自然災害への対応を引き続き推進しています。

2020年は、化学設備の異常反応等を起因として発生する火災爆発事故防止を評価する熱的リスク評価手法の確立を行なったほか、自然発火対策として、タンク内残存物の自然発火による火災防止手法の確立も行ない、それらを元にして、国内外の重合・発熱反応設備の熱的リスク評価手法の周知を行ない、操業での安全確保に努めました。

地震対策では、地震力対策として設備架台の診断と補強を継続的に進めると共に、和歌山、豊橋における地震による液状化に伴う構築物の損傷防止のための検討を継続的に行ない、自然災害での被害の最小化に努めています。

自然災害への対応では、水害リスクへの対策の基本的な考え方をまとめると共に、近年の風害を踏まえ、屋根や外壁といった非構造部材への対応の検討を行ない、被害の最小化に向けた取り組みに努めています。



ビリピナス花王(フィリピン)での消火・応急処置訓練



上海花王化学(中国)での消火・応急処置訓練

「保安力グランドデザイン」を策定

花王が2030年にめざすべき保安の姿として「保安力グランドデザイン」を作成し、トップレベルの現場保安力へと向上させるためのアクションプランを策定しました。

このグランドデザインは、人や組織の安全風土に基づく「安全文化」をレベルアップする6つのアクションと、ソフトやハードなどを含む運転や保全要素などに基づく「安全基盤」をレベルアップする7つのアクションの計13のアクションプランからなっており、それぞれのアクションプランには下位のターゲットが設定されています。

工場や関係部門ではそれぞれのアクションプランをスケジュールに落とし込み進捗を確認するとともに確実に実施していきます。

高圧ガスの保安

高圧ガス保安検査・監査・査察

和歌山工場では、高圧ガス保安法の認定保安検査実施者※の認定を受けており、2020年は9月に保安管理部門の保安監査、11月に保安管理の長である社長のもと保安査察を実施し、保安活動について問題がないことを確認しました。

他事業場の高圧ガス設備についても、県など外部の検査機関による保安検査を実施しています。これらの設備についても保安監査・保安査察は自社で実施し、安全操業に努めています。



高圧ガス保安査察(和歌山工場)

※ 認定保安検査実施者

高圧ガス保安法に基づき、特定施設が技術上の基準に適合しているか否かについて、運転を停止することなく自ら保安検査を行なうことができる者または運転を停止して自ら保安検査を行なうことができる者として、経済産業大臣が認定した者

高圧ガス認定施設更新審査(和歌山工場)

和歌山工場は、自主保安力の向上をめざし、高圧ガス保安法の認定保安検査設備を有しています。2020年は5年ごとの経済産業省による認定保安検査実施者の更新審査の年となり、8月には高圧ガス保安協会による現地調査を受診、11月には経済産業省によるヒアリングを受診し、大臣認定を継続維持しました。

今後、さらに高度な特定認定(スーパー認定)事業者※の認定要件レベルを有する保安力をめざし、活動を推進していきます。

※ 特定認定(スーパー認定)事業者

IoT、ビッグデータの活用、高度なリスクアセスメント、第三者による保安力の評価の活用等の高度な保安の取り組みを行なっている認定事業者を経済産業省が認定するもの

保安防災教育プログラム

花王は、保安防災教育のためのさまざまなプログラムを構築しています。たとえばSCM部門では、「モノづくり技術・技能伝承センター」で、生産現場を担う若い技術者が、さまざまなトラブルや危険な状況の疑似体験を通して必要な知識・技能を学び、技術の伝承に努めています。

また、国内外の次世代リーダーの育成に向け、和歌山工場内で8カ月にわたり、生産技術や“よきモノづくり”の精神を学ぶ「グローバルテクノスクール」を開校し、保安防災を含めたさまざまな研修を実施しています。なお2020年は新型コロナウイルス感染症の影響でグローバルテクノスクールは中止しました。

「防災とボランティアの日」に合わせ防災メッセージを日本の全社員向けに毎年発信しており、社員の防災意識の向上を図るとともに、過去の事故発生日を「安全の日」と定め過去の教訓を風化させないように努めています。さらに、防災マニュアルを日本の全社員に毎年配布しています。



花王防災マニュアル

2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響で在宅勤務する社員が増加したことを考慮し、在宅でも実施可能なeラーニングを充実させ、日本の関係会社全社員に対し実施しました。

2020年の防災教育としては、台風や豪雨が多くなる前の6月に「台風・豪雨 基礎編」として台風や豪雨の際に必要な防災の基礎知識、過去の被害事例や避難のタイミングを学習し、各自の被害リスクを考えさせるプログラムを実施しました。7月には第2弾として「台風・豪雨ハザードマップ編」を実施し、ハザードマップの調べ方や見方、近くの避難所の調べ方などを学習するとともに、自宅の想定浸水深を実際にハザードマップで調べるプログラムとしました。

2020年の保安教育としては、化学製品を扱う会社の社員の基本知識であり会社にとって重要法規の一つである消防法の危険物について学ぶこととし、8月に「基礎編」を日本の関係会社全社員に対し実施、11月には部門別に「実践編」を実施しました。

今後も積極的にeラーニングを活用し保安防災に関する教育を実施していきます。